

KM0832

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、KM0832 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2008 年 12 月 22 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではありません。

キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付带的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みにになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応となりますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 納品日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障または破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証のお申し込み手順】

弊社の製品保証規定に従い保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

- (1) **不具合の確認**……製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口で連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。
- (2) **本規定に基づく製品保証のご依頼**……(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『製品納品日が証明できる書類』を用意して、製品を購入された販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。
- (3) **製品の発送**……不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品／液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

① 常製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～3 年	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～2 年	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品納品日から30日以内に弊社または販売店に申告を頂いた不具合を初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途お問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類はDOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL(生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された場合に適用されます。それ以前に購入された製品については、1年間の保証となります。

【補足】

- ・ 本規定はATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ ケーブル類・電源アダプタは初期不良対応に準じます。
- ・ 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。
- ・ 製品保証を受けるにあたり、製品の納品日が証明できない場合は製品のシリアルナンバーから判別した製造日を起算日とします。ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、全て有償修理とさせていただきます。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

FCC.....	11
RoHS	11
SJ/T 11364-2006	11
安全にお使い頂くために	12
一般的な注意.....	12
ラックへのマウント.....	14
同梱品	15
本マニュアルについて.....	16
マニュアル表記について	17
第1章 はじめに.....	18
製品概要	18
特長.....	19
システム要件	21
コンソール.....	21
コンピュータ	22
KVMモジュール	22
ケーブル.....	23
オペレーティングシステム	23
フロントパネル.....	24
リアパネル	26
第2章 ハードウェアセットアップ	28
概要.....	28
セットアップの前に.....	28
デバイスの卓上設置とラックマウント	29
卓上設置.....	29
ラックマウント(フロント部分を分離して設置する場合)	30
ラックマウント(ラックのフロント側に設置する場合)	32
ラックマウント(ラックのリア側に設置する場合)	33
デバイスの接地.....	34
1 段階構成のセットアップ.....	35
接続図(1 段階構成)	36
複数段階構成のセットアップ.....	37
概要.....	37

カスケード接続	38
デ이지チェーン接続	46
ネットワークのセットアップ	49
KM0832 の接続形態	49
第 3 章 基本操作	50
ホットプラグ	50
デ이지チェーン接続時におけるKVMスイッチの位置変更	50
カスケード接続時におけるKVMスイッチの位置変更	50
ユーザーポートのホットプラグ	50
電源OFFおよび再起動	51
ポートの選択	51
第 4 章 アドミニストレーターユーティリティ	52
概要	52
IPアドレスの設定	53
ログイン	56
メニュー	58
アイコン	59
ツリービューにおけるアイコン	60
ポートの状態	61
ステーションネームの設定	62
Webページセッションタイムアウトの設定	63
ネットワークの設定	64
IPインストーラーの設定	65
IPアドレス	65
ポートの設定	66
システムイベントの通知	66
日時と時刻の設定	67
グループの管理	69
グループの追加	70
グループの編集	71
グループの削除	72
グループ単位でのポートアクセス権限の管理	73
ユーザーの管理	75
ユーザーの追加	76
ユーザーの編集	79
ユーザーの削除	81

ユーザー単位でのポートアクセス権限の管理.....	83
ポートの管理	85
ポートへのアクセス	85
ポートアクセスの管理.....	87
カスケード接続の構成.....	92
ポート設定の変更.....	92
KVMポートデフォルト値のリストア	95
OSDビューの設定	96
View Mode	97
Set Port ID.....	98
Display Duration	98
Set Scan	99
OSDにおけるユーザー設定の変更	100
ポートとステーションの検索	103
ファームウェアのアップグレード	104
パッケージのダウンロード	104
作業をはじめる前に.....	105
アドミニストレーターユーティリティを使用したアップグレード	106
ファームウェアアップグレードユーティリティを使用したアップグレード	108
アップグレードに失敗した場合	112
アップグレードに失敗した場合の回復作業	113
親機のKM0832 と子機のKM0832 の入替.....	114
設定のバックアップとリストア	115
ユーザーセッションの参照と終了	118
ログファイルの参照と消去	120
システム情報の参照.....	122
ヘルプの参照.....	124
ログアウト	124
第 5 章 OSD操作.....	125
OSDメイン画面における一覧の見出し.....	128
OSDナビゲーション.....	128
スイッチやコンピュータへのアクセス	129
1 段階構成の場合.....	129
カスケード接続の構成の場合	129
デ이지チェーン接続の構成の場合	130
ポートIDの割り当て	132

カスケード接続の構成の場合	132
マトリックスプラスを使用した構成の場合	132
デージーチェーン接続の構成の場合	133
OSDの機能	135
F1: HELP	136
F2: VIEW.....	136
F3: SET	140
F4: ADM	142
F5: SCH	155
F6: BCK.....	155
F7: SCAN	156
F8: LOUT.....	157
第 6 章 ホットキー操作	158
ホットキーによるポート操作.....	158
ホットキーモードの起動	158
ポートの切替	159
オートスキャン	160
ホットキーによるビープ音の切替	162
ホットキー一覧表	162
第 7 章 キーボードエミュレーション	164
Macキーボード	164
Sunキーボード	165
付録.....	167
製品仕様	167
工場出荷時における初期設定一覧	170
その他の接続図	171
対応KVMスイッチ	175
信頼された証明書	177
概要.....	177
証明書のインストール.....	178
証明書のインストール完了	179
トラブルシューティング	180
概要.....	180
一般的な操作.....	180
Sunシステム.....	183
工場出荷時の初期設定のリストア	184

okプロンプトの起動(Sun Solaris)	185
-------------------------------	-----

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。
この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

- : 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款，但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

一般的な注意

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 製品は相間電圧 230V の配電装置向けに設計されています。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源ケーブルやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源ケーブルを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に扱ってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源ケーブルが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と記載されている RJ-11 ケーブルを電話回線用モジュージャックに接続しないでください。

ラックへのマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

KM0832 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

◆ KM0832 マトリックス KVM スイッチ	×1
◆ 電源ケーブル	×1
◆ ラックマウントキット	×1
◆ フットパッドセット(4 個入)	×1
◆ 英語版ユーザーマニュアル	×1
◆ 多言語版クイックスタートガイド	×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、KM0832 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

第1章 はじめに: KM0832 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明しています。

第2章 ハードウェアセットアップ: ハードウェアセットアップの手順および基本的な操作方法について説明しています。

第3章 基本操作: KM0832 の機能概要および操作方法について説明しています。

第4章 アドミニストレーターユーティリティ: KM0832 への Web ブラウザメニューからのログイン方法や、KM0832 アドミニストレーターユーティリティを使用した KM0832 の作業環境の構築方法について説明します。

第5章 OSD 操作: KM0832 の OSD (オンスクリーンディスプレイ) の詳細内容、および操作方法について説明しています。

第6章 ホットキー操作: KM0832 のホットキー操作に関する機能概要、および操作手順について説明しています。

第7章 キーボードエミュレーション: Mac キーボードのエミュレーション、また、Sun キーボードのエミュレーションについて対応表を用いて説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。



◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。



矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

第1章 はじめに

製品概要

マトリックス KVM スイッチ KM0832 によって、システム管理者は複数台のコンピュータを、従来の方法よりも更に進化した形で管理することが可能になりました。KM0832 を導入すると、8 箇所の KVM コンソール(キーボード、モニター、マウス)を使用するユーザーが、32 台のコンピュータに独立してアクセスすることができます。ATEN の先端のビデオルーティングテクノロジーによって、KM0832 の増設時には最大 8,000 台ものコンピュータを集約管理することができます。

本製品に接続されたコンピュータは、KVM スイッチの接続方法がダイレクト接続、デジチーチェーン接続、またはカスケード接続であるかを問わず、すべて 1 台目の KM0832 における 8 箇所の KVM コンソールからアクセスします。

KM0832 のコンソールは PS/2、USB の両インターフェースに対応しており、これらのコンソールから製品に接続された PC 互換機、Sun、Mac、シリアルデバイスを操作することができます。本製品はカテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを使用し、コンソールモジュールと KVM モジュール間は最大 300m まで信号の授受が可能です。また、本製品は自動信号補正機能(ASC)を搭載しておりますので、高解像度でのビデオ出力にも耐えられます。更に、RJ-45 コネクタを採用したデザインによって 8 ユーザーポートおよび 32 KVM ポート搭載の KVM スイッチを、わずかシステムラック 1U サイズでのマウントできますので、貴重な IT 資産を有効活用することができます。

セットアップは必要なケーブルを適切に接続するだけです。簡単で時間もかかりません。KM0832 はキーボード、マウスの入力を直接受け取りますので、ソフトウェアの設定も不要です。手間のかかるメンテナンス作業や互換性の問題に悩まされることもございません。

本製品は Web ベースの KM0832 アドミニストレーターユーティリティを提供しておりますので、ユーザーは時間や場所を問わず、機器の環境設定、アカウントおよびアクセス管理を行うことができます。各コンピュータへのアクセスは、メニュー形式のオンスクリーンディスプレイ(OSD)、またはキーボードからのホットキー入力によって簡単に操作できます。便利なオートスキャン機能は、KVM スイッチに接続されたコンピュータの表示画面を自動スキャンしますので、1 台毎に切替操作を行うことなくすべてのコンピュータをモニタリングすることができます。

特長

- ◆ KM0832 1 台で、8 台のユーザーコンソール/32 台のコンピュータの接続に対応
- ◆ 自動ビデオルーティングテクノロジーによって、KM0832 にカスケード接続された別々のポートに複数の KVM コンソールから同時アクセスすることが可能
- ◆ 最大 1024 ユーザーの作成が可能
- ◆ 最大 256 グループの作成が可能
- ◆ Web ブラウザから簡単にアクセスできるメンテナンスユーティリティ「KM0832 アドミニストレーターユーティリティ」によって、製品の設定や保守が可能
- ◆ ルートステーションの変更時に設定をバックアップおよびリストア¹するため、メンテナンスにありがちな冗長した作業にまつわる時間を削減
- ◆ パスワード認証対応
- ◆ 3 段階のユーザー権限 (スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザー)
- ◆ ポートアクセス権限は、ユーザーやグループアカウントの設定メニュー、およびポート別設定メニューの両方から設定することが可能
- ◆ 最大 3 段階の KM0832 に、KM0832 以外の KVM スイッチを 1 段階デ이지チェーン接続することによって 8,000 台以上のコンピュータを切り替えることが可能²
- ◆ マルチプラットフォーム対応: PC、Mac、Sun、シリアル
- ◆ 用途に応じた自由度の高いラックマウントを実現—フロントパネルは機器本体から分離できるため、製品のフロントパネルをラックのフロント側に、本体をリア側にそれぞれマウントするといった方法が可能
- ◆ コンソール変換—KVM コンソールは PS/2 および USB に対応。また、コンピュータと KVM スイッチの間に使用する KVM モジュールは PS/2、USB、Sun、Mac およびシリアルデバイスに対応。これによって、KVM コンソールとコンピュータは、システム要件を満たしている限り、どのような組み合わせでも使用することが可能
- ◆ フロントパネルに増設されたユーザーポートによってシステムのメンテナンスが簡単³
- ◆ ホットプラグ対応—KVM スイッチの電源を切ることなくコンポーネント追加や取り外しが可能
- ◆ セットアップソフトウェア不要
- ◆ 便利なコンピュータ切替—直感的なホットキー操作や、オンスクリーンディスプレイ (OSD) といった方法を提供

¹ バックアップの対象となるのはユーザーアカウント、グループアカウント、ステーションネーム、ポートへのアクセス権限、ユーザープロファイルの各設定です。

² KM0832 以外で使用可能な KVM スイッチの型番については p.175 の「対応 KVM スイッチ」をご覧ください。

³ リアパネルの「USER PORT 1」と同一バスを共有します。

- ◆ KA9233 コンソールモジュールや Web ベースのアドミニストレーターユーティリティからは、
便利で操作性の高い GUI を提供
- ◆ 最大 7 台のKM0432 またはKM0216 を追加してデイジーチェーン接続することが可能¹
- ◆ デイジーチェーン接続の構成におけるステーションの位置を自動認識—OSD およびフロントパネル LED でステーション位置を表示
- ◆ ステーションの順序が変更された場合にポートネームを自動で再設定
- ◆ 解像度の変更を認識し、OSD 画面を自動調整
- ◆ オートスキャン機能—ユーザーが選択したコンピュータを自動で切替表示
- ◆ スーパーアドミニストレーター限定機能—ユーザーセッションの状態の閲覧およびセッションの終了が可能。また、KVMスイッチに接続されたすべてのコンピュータに対してキーボード入力をブロードキャストすることが可能。
- ◆ PS/2 キーボードおよびマウスの各信号をエミュレート—KVM スwitchが他のポートを選択していてもエラーを回避してブートすることが可能
- ◆ LCD、VGA、SVGA、XGA、マルチシンク対応、DDC2B 準拠
- ◆ ビデオ解像度—1,024×768@60Hz (最大 300m)、1,920×1,440@60Hz (延長可能な距離は機器構成の環境に依存)
- ◆ 自動信号補正機能(ASC)により最適なビデオ解像度に調整—コンピュータと KVM コンソール間の距離は最大 300m まで延長することが可能。DIP スwitchの設定も不要
- ◆ 無期限保証のファームウェアアップグレード
- ◆ コンパクトデザイン—わずか 1U サイズでのラックマウントを実現
- ◆ マルチアーキテクチャー互換
 - PC (x86/x64)
 - Macintosh PowerPC
 - Sun Microsystems Sparc
- ◆ 分散した場所に設置されたコンピュータの一元管理を実現

¹ この機能がご利用いただけない場合は、新しいバージョンのファームウェアを適用する必要があります。詳細については販売店までお問い合わせください。

システム要件

コンソール

各 KVM コンソールには以下のハードウェアコンポーネントが必要です。

- ◆ KVM スイッチに接続されているコンピュータの中で、最も解像度が高いものを表示できる VGA、SVGA またはマルチシンク対応モニタ
- ◆ キーボード、マウス(PS/2 または USB)

KVM コンソールを KM0832 に接続するにはコンソールモジュールが必要です。コンソールモジュールは、KVM コンソール側で PS/2 および USB インターフェースが混在していても、適切なものをコンピュータに接続することで、インターフェース間の差異を吸収することができます。KM0832 に対応したコンソールモジュールは下表のとおりです。詳細については販売店までご連絡いただくか、お使いのコンソールモジュールに同梱された説明書をご確認ください。

製品画像	機能	型番	コネクタ仕様
	PS/2 コンソールを接続し、カテゴリ 5LAN ケーブルで KM0832 と接続し、リモートコントロールを形成。KVM ケーブルを使用しローカルコンピュータを接続。	KA9222A	キーボード用ミニ DIN6 ピン メス マウス用ミニ DIN6 ピン メス モニタ用 D-sub15 ピン メス
	PS/2 または USB コンソールを接続し、カテゴリ 5LAN ケーブルで KM0832 と接続し、リモートコントロールを形成。KVM ケーブルを使用しローカルコンピュータを接続。画像のゲインコントロールが可能。	KA9233	キーボード用ミニ DIN6 ピン メス マウス用ミニ DIN6 ピン メス USB タイプ A メス ×2 モニタ用 D-sub15 ピン メス
	USB コンソールを接続し、カテゴリ 5LAN ケーブルで KM0832 と接続し、リモートコントロールを形成。KVM ケーブルを使用しローカルコンピュータを接続。	KA9272A	USB タイプ A メス モニタ用 D-sub15 ピン メス

コンピュータ

使用する各コンピュータには以下のハードウェアコンポーネントに対応している必要があります。

- ◆ D-sub15 ピン対応、またはレガシーSun システム用の Sun13W3 ビデオポートに対応した VGA、SVGA、マルチシンクビデオグラフィックカード
- ◆ 以下のいずれかの条件を満たすマウスおよびキーボードの利用環境
 - PS/2 対応マウス、キーボードポート(ミニ DIN 6 ピン)
 - USB ポート(1 ポート以上)
 - レガシーSun 用 Sun キーボードポート(ミニ DIN 8 ピン)

KVMモジュール

KVM モジュールはマルチプラットフォームのコンピュータ(PS/2、USB、Sun、Mac およびシリアル対応)および KM0832 にカスケード接続された KVM スイッチに接続します。現在の KVM モジュールのラインナップは下表のとおりです。詳細については販売店までお問い合わせください。

製品画像	機能	型番	コネクタ仕様
	PS/2 タイプコンソールポートを持つコンピュータとの接続	KA9120	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニタ用 D-sub15 ピン オス
	USB コンソールポートを持つコンピュータとの接続 (Mac、Sun 含む)	KA9170	USB タイプ A オス モニタ用 D-sub15 ピン オス
	Sun 13W3 コンソールポートを持つコンピュータとの接続	KA9130	ミニ DIN8 ピン オス 13W3 オス
	VT100 ターミナル対応	KA9140	D-sub15 ピン メス ミニ DIN6 ピン メス RS-232C DB-9 ピン メス

ケーブル

KM0832 をご利用の際には以下のケーブルが必要です。

製品画像	機能	型番(長さ)
	デジチェーン専用ケーブル	
	スイッチ側 DB-25 オス	2L-1700KM(0.6m) 2L-1701KM(1.2m)
	コンピュータ側 DB-25 メス	2L-1704KM(4m)

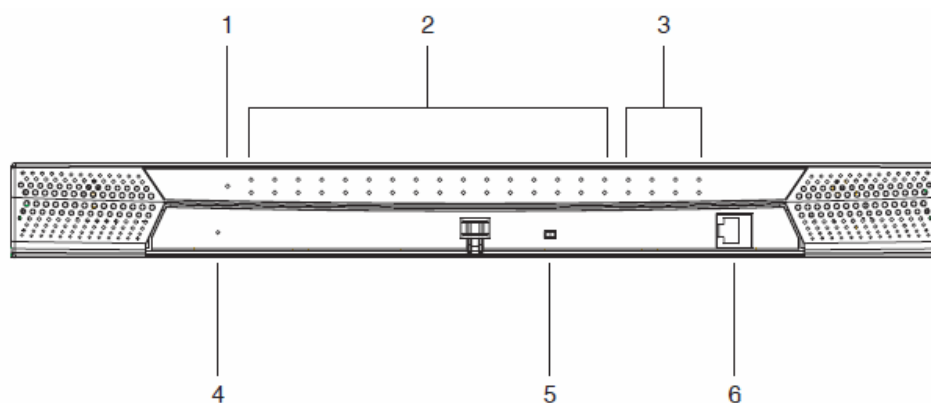
KM0832 とコンソールモジュール、また、KVMモジュールとKM0832 の接続(p.171参照)にはカテゴリ 5 以上のLANケーブルをご使用ください。

オペレーティングシステム

本製品に対応したオペレーティングシステムは下表のとおりです。

OS		バージョン
Windows		2000 以降
Linux	RedHat	6.0 以降
	SuSE	8.2 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
Unix	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	3.51 以降
	Sun	Solaris8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
Mac		OS9 以降
OS/2		Warp Ver.2
DOS		6.22

フロントパネル

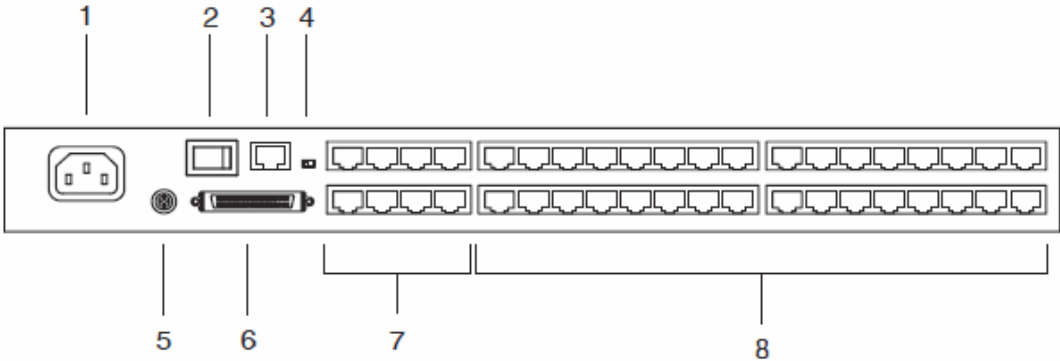


No.	名称	説明
1	電源 LED ランプ	本体に電源が供給されている場合、このランプは青色に点灯します。
2	ポート LED ランプ	◆ 黄色に点灯している場合、そのポートがスイッチによって選択されており、かつ、そのポートに接続されたコンピュータに電源が入っていることを表します。 ◆ 黄色に点滅している場合、そのポートがスイッチによって選択されており、かつ、そのポートにカスケード接続された KVM スイッチに電源が入っていることを表しています。 ◆ 緑色に点灯している場合、そのポートはスイッチによって選択されていませんが、そのポートに接続されたコンピュータには電源が入っていることを表しています。 ◆ 緑色に点滅している場合、そのポートはスイッチによって選択されていませんが、そのポートに接続された KVM スイッチには電源が入っていることを表しています。 ◆ 赤色に点灯している場合、そのポートはスイッチによって選択されていますが、そのポートに接続されているコンピュータに電源が入っていないか、コンピュータが接続されていないことを表します。 ◆ ポートがスイッチによって選択されておらず、そのポートに接続されたコンピュータにも電源が入っていない場合、そのポートの LED ランプは OFF になります。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
3	ユーザーポート LED ランプ	◆ 緑色に点灯している場合、対応するユーザーポートに接続されたコンソールモジュールがオンラインであることを表しています。 ◆ 親機となる KVM スイッチの KVM ポートからカスケード接続されている場合、このランプは点滅します。
4	リセットボタン	このボタンを押すことでシステムリセットを行います。システムがリセットされると、KM0832 はビープ音を発し、KVM ポート LED はリセット処理が完了するまで連続して点滅します。リセット処理が完了すると、再度ログインすることが可能です。 注意:このボタンはピンホール型ボタンになっているので、ペン等の細いもので押してください。
5	USER PORT 1 スイッチ	このスイッチはフロントパネルとリアパネルの「USER PORT 1」の選択を切り替えます。このスイッチを「FRONT」にセットすると、フロントパネル側の「USER PORT 1」を有効にし、「REAR」にセットするとリアパネル側の「USER PORT 1」を有効にします。
6	USER PORT 1 (メンテナンス用ポート)	このユーザーポートはシステムメンテナンス用に提供されており、リアパネル側の「USER PORT 1」と同等の機能を備えています。USER PORT 1 スイッチを「FRONT」に切り替えることで、リアパネル側の「USER PORT 1」は無効になり、フロントパネル側の「USER PORT 1」が有効になります。このポートは他のユーザーポートと同様の方法でお使いいただけます。(リアパネル側の「USER PORT 1」を再び有効にする場合は USER PORT 1 スイッチを「REAR」に戻さなければなりません。)

リアパネル



No.	名称	説明
1	電源ソケット	AC 電源に接続する電源ケーブルをここに挿します。
2	電源スイッチ	KVM スイッチの電源を ON または OFF にするロッカースイッチです。
3	コンフィグレーションポート	KM0832 はこのコンフィグレーションポート経由でローカルネットワークに接続します。KM0832 の設定、ユーザーやグループアカウントの作成および管理、機器へのアクセス権限の設定、ファームウェアアップグレードなどの機能を実現したアドミニストレーターユーティリティにはこのポートからアクセスされます。
4	ファームウェアアップグレードスイッチ	通常操作時やファームウェアアップグレードの実行中には、このスイッチが「NORMAL」にセットされていなければなりません。ファームウェアアップグレードに失敗した場合、このスイッチを使ってファームウェアのリカバリーを行います。詳細についてはp.113の「アップグレードに失敗した場合の回復作業」をご参照ください。
5	接地ターミナル	機器を接地する際に使用する接地線をここに接続します。
6	CHAIN OUT ポート	KVMスイッチをデイジーチェーン接続する場合 (p.46参照)、このポートを使って下位レベルのKVMスイッチとKM0832 を接続します。 注意: この機能がお使いいただけない場合、新しいバージョンのファームウェアを適用する必要があります。詳細については販売店までお問い合わせください。

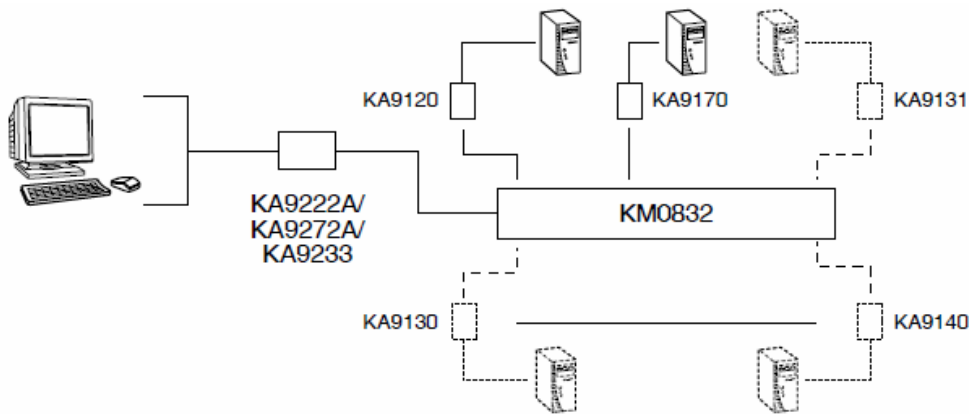
(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
7	ユーザーポート	コンソールモジュールに接続されたカテゴリ 5 以上のLANケーブルをここに挿します。「USER PORT 1」はフロントパネル側の「USER PORT 1」とKVMアクセスを共有します。フロントパネルの「USER PORT 1」は 2 つのユーザーポートのうち有効になっているものを操作します。詳細についてはp.25の「USER PORT 1 スイッチ」をご参照ください。
8	KVM ポート	KVM モジュールと KM0832 との接続に使用するカテゴリ 5 以上の LAN ケーブルをここに挿します。

第2章 ハードウェアセットアップ

概要

PS/2 や USB インターフェースが混在した環境でも便利で柔軟にお使いいただけるように、KM0832 は、KVM コンソールと KVM スイッチ間の信号変換媒体として機能するコンソールモジュール、および KVM スイッチとコンピュータ間の媒体として機能する KVM モジュールといった機器を使用した設計を採用しております。



コンソールモジュールはKVMコンソールごとに、また、KVMモジュールはコンピュータごとにそれぞれご用意ください。コンソールモジュールおよびKVMモジュールの詳細についてはp.21またはp.22をご参照ください。また、お使いの環境で必要になるコンソールモジュールやKVMモジュールの型番の詳細については、お手数ですが販売店までお問い合わせください。

セットアップの前に



1. 機器の設置に際し重要な情報をp.12に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。

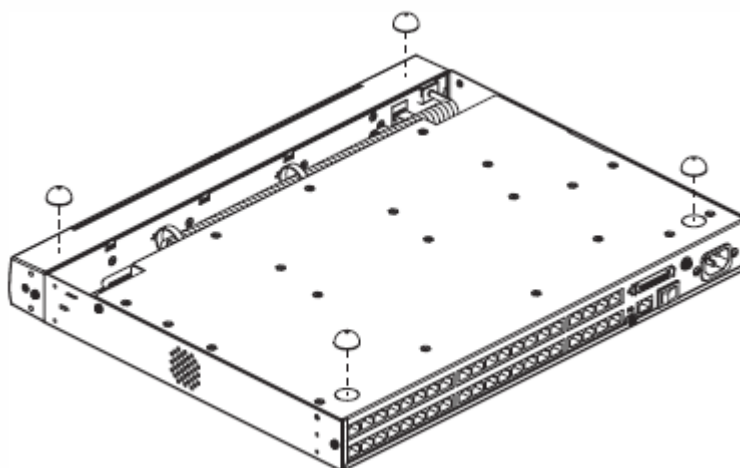
デバイスの卓上設置とラックマウント

KM0832 は卓上に置いて使用したり、ラックのフロント側・リア側にマウントして使用したりすることができます。下記のセクションでは KM0832 の卓上設置とラックマウントの方法について説明します。

-
- 注意:**
1. 製品同梱のラックマウントキットには、ラックマウント時に KM0832 に取り付けるネジおよびケージナットは同梱されていません。ネジまたはケージナットが必要な場合は、お手数ですが、お使いのシステムラックの販売店までお問い合わせください。
 2. 機器への通気を確保するために、製品の両側面は 5.1cm 以上、また、背面はケーブル類の配線を考慮して 12.7cm 以上の空間をもうけるようにしてください。
-

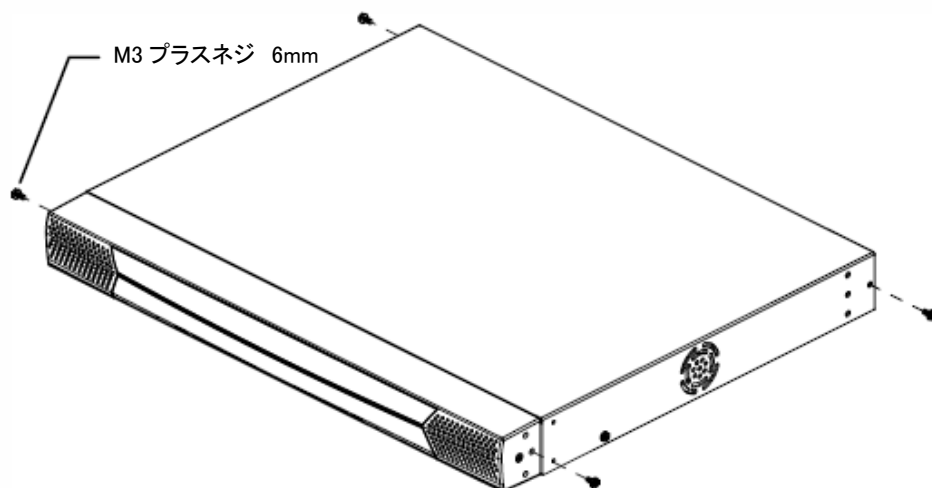
卓上設置

KM0832 は製品本体と同梱ケーブルの重量に耐えられる場所であれば、どんな場所でも設置することが可能です。セットアップを開始する前に、製品の表面に汚れや傷がついておらず、排気口をさえぎるものや KVM スイッチの操作に支障をきたすものがないことを確認してください。KM0832 本体を水平な場所に置く際には、同梱ゴム製フットパッドの裏面のはくり紙をはがし、下記の図のように KM0832 底面の四隅に貼り付けてください。

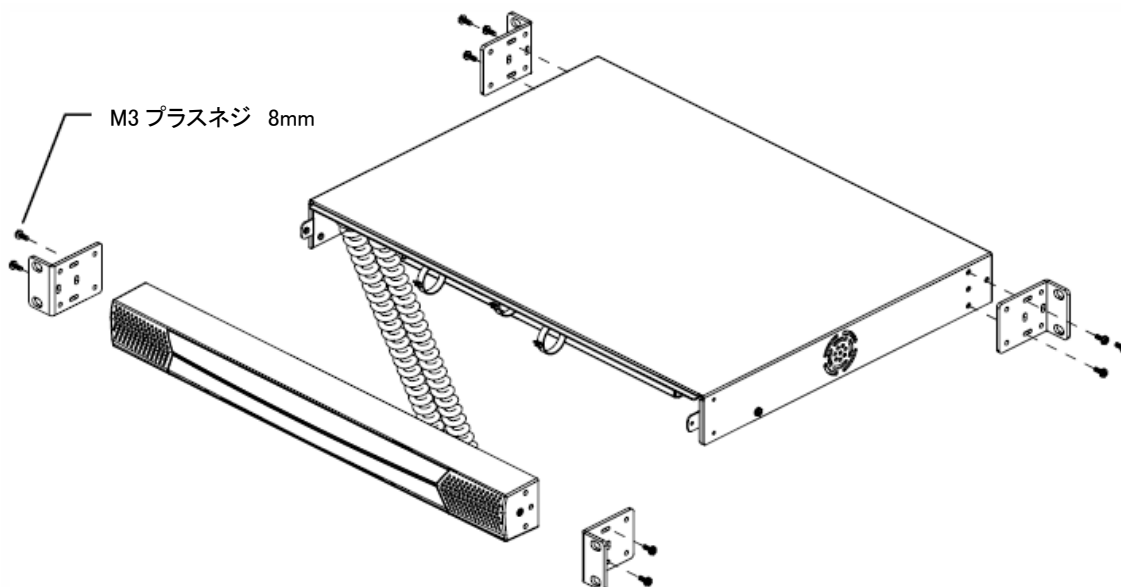


ラックマウント(フロント部分を分離して設置する場合)

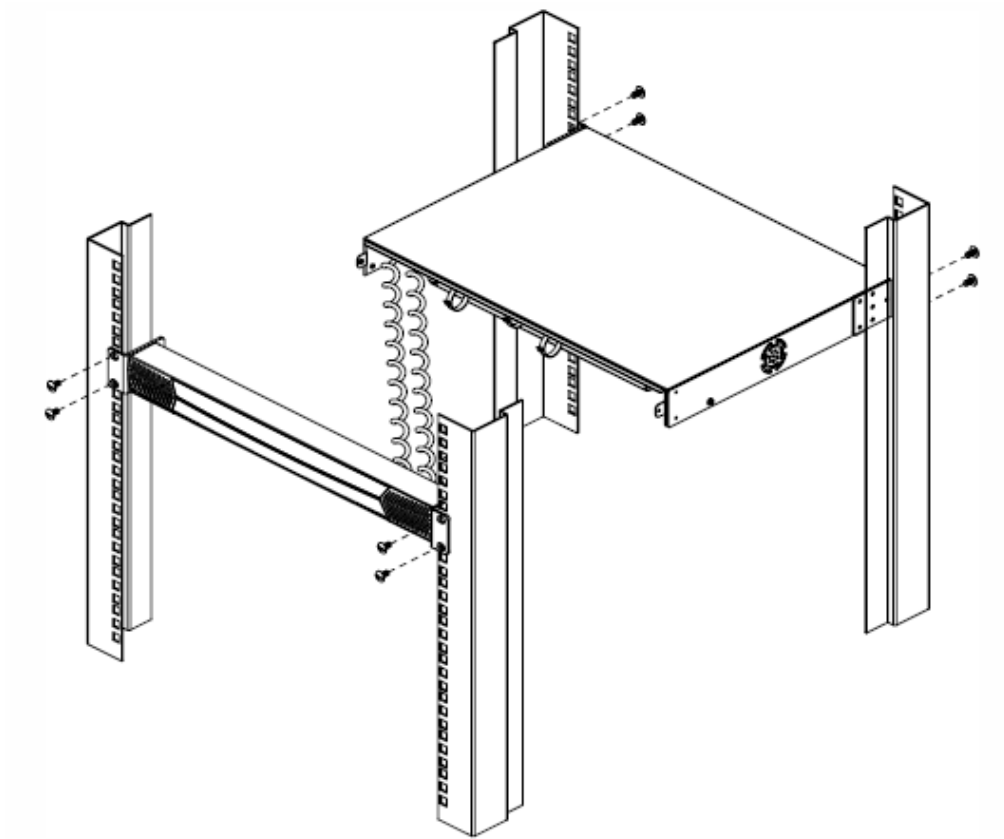
1. 製品の側面についているネジ(フロント側とリア側の各 2 箇所)をはずしてください。フロント側のネジは取り外し可能なフロントパネルを固定しているものです。



2. フロントパネルを本体からはずしてください。このとき、フロントパネルと本体につながっているケーブルは取り外さないように注意してください。製品同梱のラックマウントキットに付属している M3 プラスネジ(8mm)を使って、フロントパネルおよび本体にラックマウント用の金具を下図のように取り付けてください。

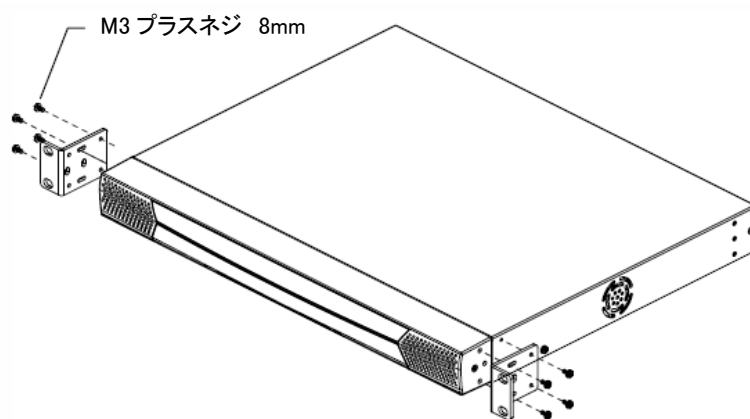


3. 手順 2 で製品に取り付けた金具の穴がシステムラックの穴に合うように製品を固定し、下図のようにシステムラックのフロント側にフロントパネルを、リア側に製品本体をそれぞれネジ止めしてください。

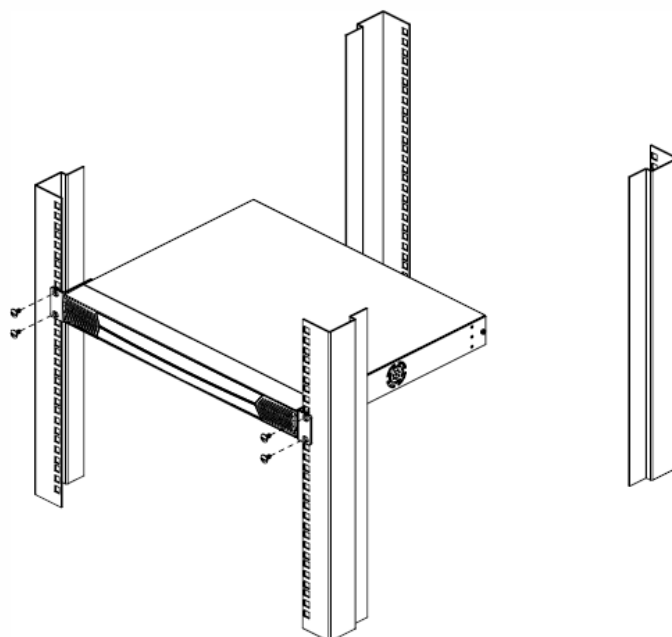


ラックマウント(ラックのフロント側に設置する場合)

1. フロントパネルを製品本体に固定しているネジを 2 箇所外してください。(p.30「ラックマウント(フロント部分を分離して設置する場合)」の手順 1 参照)
2. 製品に同梱されたラックマウントキットに付属している M3 プラスネジ(8mm)を使って、ラックマウント用金具を下図のように製品側面のフロント側にネジ止めしてください。

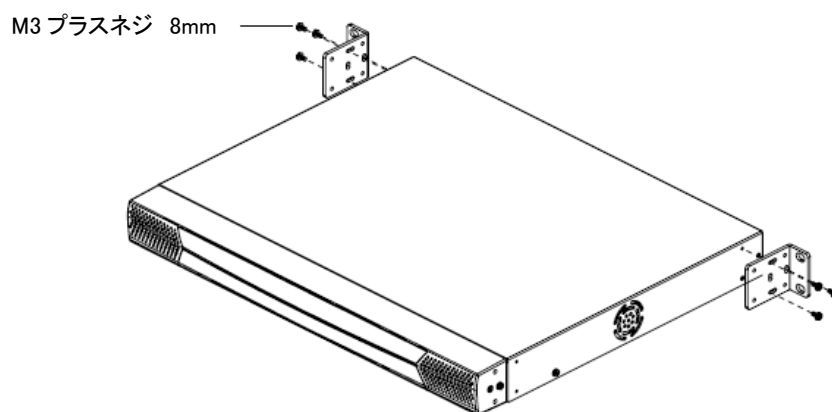


3. 手順 2 で製品に取り付けた金具の穴がシステムラックの穴に合うように製品を固定し、下図のようにシステムラックのフロント側にネジ止めしてください。

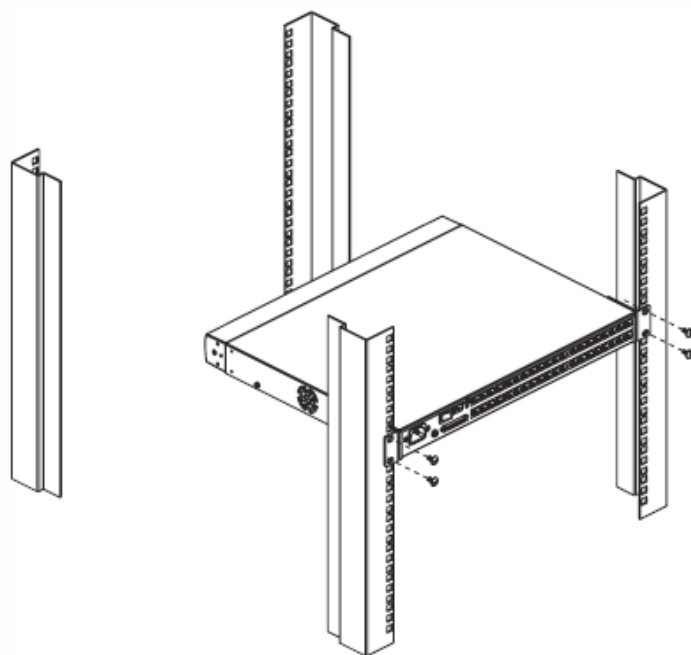


ラックマウント(ラックのリア側に設置する場合)

1. 製品側面のリア側にあるネジを 2 箇所外してください。(p.30「ラックマウント(フロント部分を分離して設置する場合)」の手順 1 参照)
2. 製品に同梱されたラックマウントキットに付属している M3 プラスネジ(8mm)を使って、ラックマウント用金具を下図のように製品側面のリア側にネジ止めしてください。



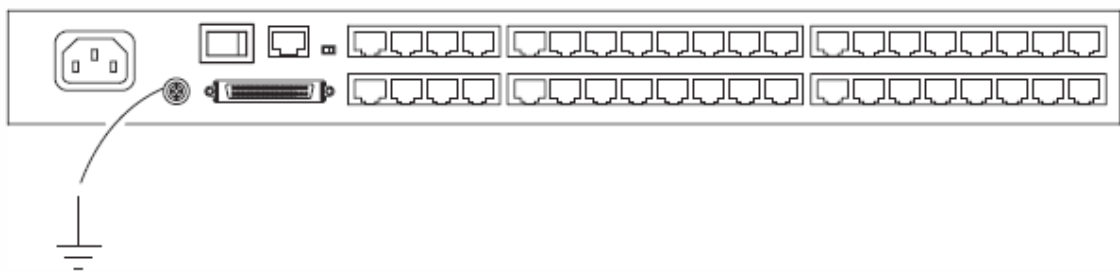
3. 手順 2 で製品に取り付けた金具の穴がシステムラックの穴に合うように製品を固定し、下図のようにシステムラックのリア側にネジ止めしてください。



デバイスの接地

お使いの機器への損傷を防ぐためには、使用するすべてのデバイスを適切に接地する必要があります。

接地線の一端を接地ターミナルに、もう一端を適切な接地物にそれぞれ接続することで KM0832 を接地してください。



1 段階構成のセットアップ

KM0832 を 1 段階の構成で使用する場合は、他のKVMスイッチをカスケード接続したりデジタイチェーン接続したりする必要はありません。この方法でセットアップする場合は、p.36の接続図を参考にしながら以下の手順で作業を行ってください。

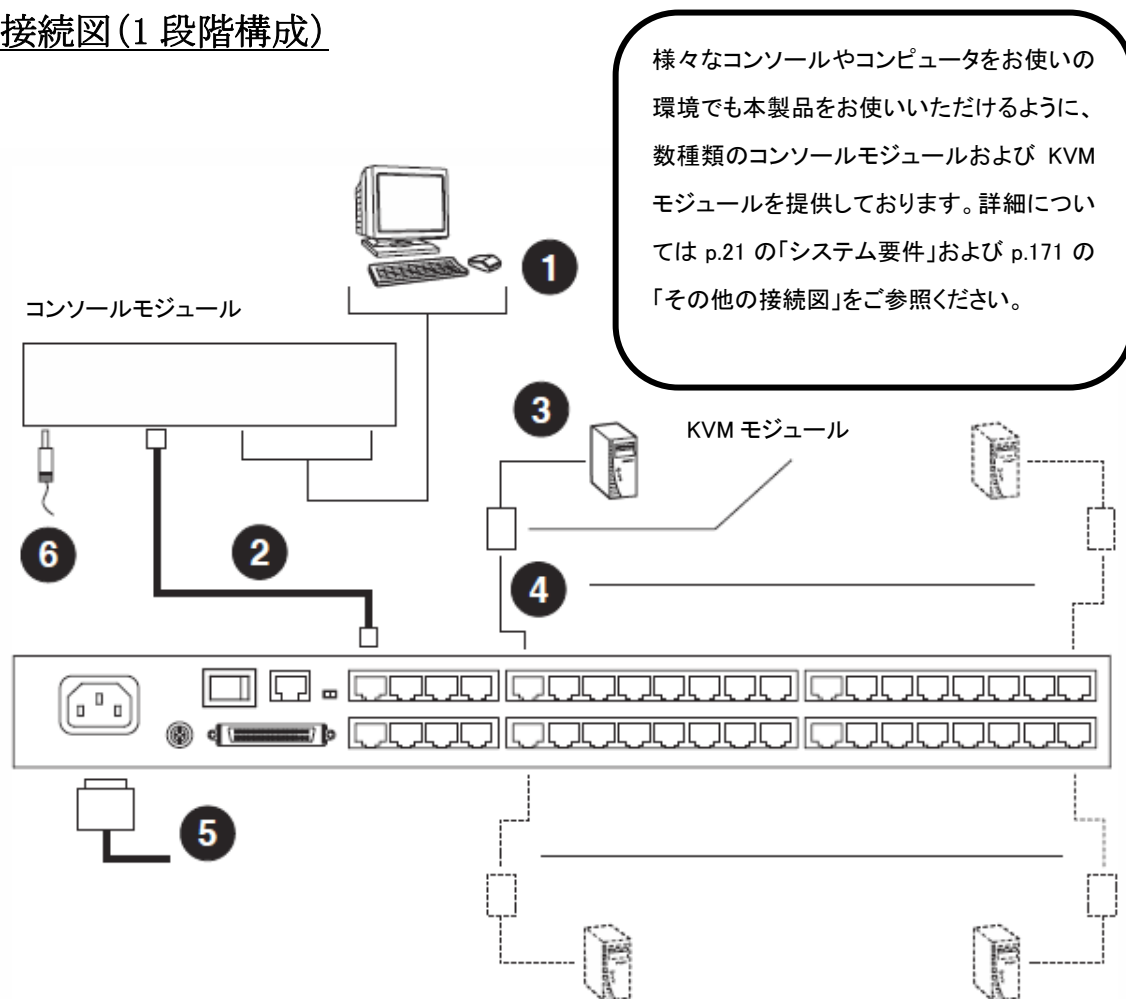
1. KVM コンソール(キーボード、マウス、モニタ)をコンソールモジュールに接続してください。
お使いのキーボード、マウス、モニタの各コネクタをコンソールモジュールの該当ポートに接続してください。各ポートにはわかりやすくするため、接続するデバイスのアイコンとPC99 準拠のカラーリングが施されています。
2. コンソールモジュールと KM0832 を接続してください。
カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを使ってコンソールモジュールのリンクポートと KM0832 のリアパネルにあるユーザーポートを接続してください。
(他にもコンソールモジュールを接続する場合は、手順 1～2 の作業を繰り返してください。
この方法で最大 8 つの KVM コンソールを接続することができます。)

注意:	弊社が保証するコンソールモジュールと KVM モジュール間の距離は最大で 300m です。
------------	---

3. KVM モジュールとコンピュータを接続してください。
KVM モジュールのコネクタをお使いのコンピュータの該当ポートに接続します。
4. KVM モジュールを KM0832 に接続してください。
カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを使って、お使いのコンピュータに適した KVM モジュールと KM0832 の利用可能な KVM ポートを接続します。
(他にも接続するコンピュータがある場合は、手順 3～4 の作業を繰り返してください。この方法で最大 32 台のコンピュータを接続することができます。)
5. すべてのコンピュータを接続したら、KM0832 の電源ソケットに電源ケーブルを挿して、その電源ケーブルを AC 電源に接続してください。
6. 電源アダプタをコンソールモジュールと AC 電源に接続してください。

7. KM0832 に電源を入れてください。
8. コンピュータに電源を入れてください。

接続図(1 段階構成)



複数段階構成のセットアップ

KM0832 を複数台接続することによって、製品に追加できるコンピュータの台数を増やすことが可能です。KM0832 では以下の拡張方法に対応しております。

- ◆ カスケード接続
- ◆ デイジーチェーン接続

概要

カスケード接続する場合は、親機となる KVM スイッチ (下に KVM スイッチが接続されているもの) の KVM ポートに、子機となる KVM スイッチのユーザーポートを接続します。

デイジーチェーン接続する場合は、デイジーチェーン専用ポートを使って KVM スイッチを追加していきます。(p.46の接続図参照) マトリックス KVM スイッチである KM0432 や KM0216 をデイジーチェーン接続する際には、1 台目となる KM0832 の KVM ポート 1～4 を使用することができません。コンピュータやカスケード接続された KVM スイッチも、これらの KVM ポートに接続できませんので、ご注意ください。

KM0832 はデイジーチェーン接続とカスケード接続の両方に対応しておりますので、機器構成の拡張性や柔軟性が期待できます。以下のセクションでは KVM スイッチのカスケード接続およびデイジーチェーン接続の各方法について説明していきます。

注意:	お使いのユニットでデイジーチェーン機能がお使いいただけない場合は、新しいファームウェアを適用する必要があります。詳細については販売店までお問い合わせください。
------------	---

カスケード接続

KM0832 は最大で同一機種 (KM0832) を 3 段階および KM0832 以外の KVM スイッチを 1 段階接続してお使いいただくことが可能です。(p.175「対応 KVM スイッチ」参照) ただし、KM0832 は弊社がサポートする範囲であれば複数段階でカスケード接続できるのに対し、KM0832 以外の KVM スイッチは 1 段階しかカスケード接続することができません。KM0832 以外の KVM スイッチをカスケード接続すると、その KVM スイッチには他の子機となる KVM スイッチを接続することはできません。

本製品と互換性のある KVM スイッチは各スイッチの OSD を統合しますので、1 段階目の KM0832 のコンソールが OSD を起動すると、ポートディレクトリはカスケード接続されたスイッチに接続されたすべてのコンピュータを一覧表示します。

カスケード接続の構成では、親機および子機の各 KVM スイッチ間におけるバス接続の数によって、子機の KVM ポートに対する同時アクセス可能ユーザーの数が決まります。バス接続は親機の KVM ポートの子機のユーザーポートに接続することで確立します。最大バス接続数は、KM0832 同士のカスケード接続時は 8、また、他機種とのカスケード接続時は 1 となっております。

カスケード接続された KM0832 の KVM スイッチに、1 台目の KM0832 の 8 箇所すべての KVM コンソールから同時接続するためには、1 段階目の KVM スイッチから子機の上に 8 つのバス接続のコネクションを作成する必要があります。2 台の KVM スイッチがダイレクトに接続していない場合、間に接続されている KVM スイッチは親機となる KVM スイッチと子機となる KVM スイッチの間に 8 つのバス接続を作成する必要があります。

カスケード接続された KVM スイッチのユーザーポートに接続された KVM コンソールは同一レベルの KVM スイッチやカスケード接続された KVM スイッチの KVM ポートにアクセスすることができますが、親機となる KVM スイッチの KVM ポートにアクセスすることはできませんので、ご注意ください。

KM0832 のカスケード接続

KM0832 をカスケード接続する場合は、p.41の接続図を参考にしながら以下の手順で作業を行ってください。

注意: KM0832 を追加してカスケード接続する前に、その KM0832 のファームウェアのバージョンが 1 段階目の KM0832 のファームウェアのバージョンと同じであることをご確認ください。異なるバージョンのファームウェアを使用した場合、互換性の問題が発生する可能性があります。

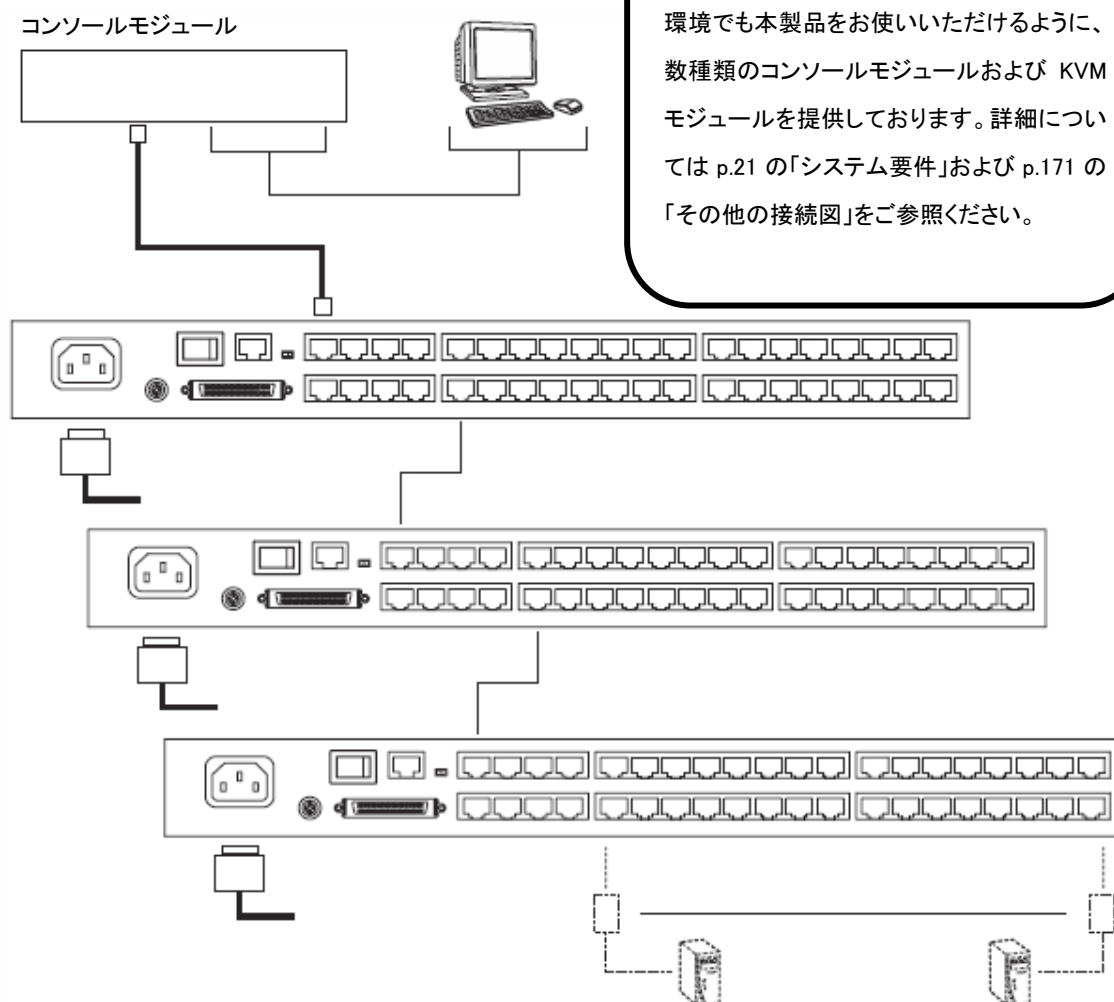
1. KVM コンソールをコンソールモジュールに接続してください。
キーボード、マウス、モニタをコンソールモジュールの該当するポートに接続します。各ポートはわかりやすくするため、接続するデバイスのアイコンが表示されています。
2. コンソールモジュールを KM0832 に接続してください。
カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルで、コンソールモジュールのリンクポートと KM0832 のリアパネルにあるユーザーポートを接続します。
(他にも接続する KVM コンソールがある場合は手順 1～2 の作業を繰り返してください。この方法で最大 8 つの KVM コンソールを接続することができます。)

注意: 弊社が保証するコンソールモジュールと KVM モジュール間の距離および 1 段階目の KVM スイッチと末端の KVM スイッチ間の距離はそれぞれ最大 300m です。

3. カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを使用して、1 段階目の KVM スイッチの KVM ポート(最大 8 箇所)と、2 段階目の KVM スイッチのユーザーポートを接続してください。(1 段階目の KM0832 にカスケード接続された KVM スイッチに同時接続できるコンソール数は、親機と子機の KVM スイッチ間の接続数によって制限されます。)
(2 段階目のステーションとしてカスケード接続する KVM スイッチが他にもある場合は、手順 3 の作業を繰り返してください。3 段階目の KVM スイッチをカスケード接続する場合は、手順 3 の指示に従いながら、2 段階目の KVM スイッチから 3 段階目の KVM スイッチにカスケード接続してください。)

4. マトリックスプラスをカスケード接続する場合は、p.42の「マトリックスプラスのカスケード接続」をご参照ください。また、KM0832 以外のKVMスイッチをカスケード接続する場合は、p.44の「KM0832 以外のKVMスイッチのカスケード接続」をご参照ください。
5. カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルで、KVM モジュールと KVM スイッチ上の利用可能なポートを接続してください。また、KVM モジュールのキーボード、マウス、モニタの各コネクタをお使いのコンピュータの該当ポートにそれぞれ接続してください。
6. 1 段階目の KM0832 の電源ソケットに、製品同梱の電源ケーブルを接続し、その電源ケーブルを AC 電源に接続してください。
7. 1 分ほど待機してから、2 段階目の KM0832 に対して手順 6 の作業を行ってください。
8. 1 分ほど待機してから、3 段階目の KM0832 に対して手順 6 の作業を行ってください。
9. コンソールモジュールに付属している電源アダプタを適当な AC 電源に接続し、電源ケーブルをコンソールモジュールのリアパネルにある電源ジャックに接続してください。
10. KVM スイッチに接続されているすべてのコンピュータに電源を入れてください。

接続図 (KM0832 のカスケード接続)



マトリックスプラスのカスケード接続

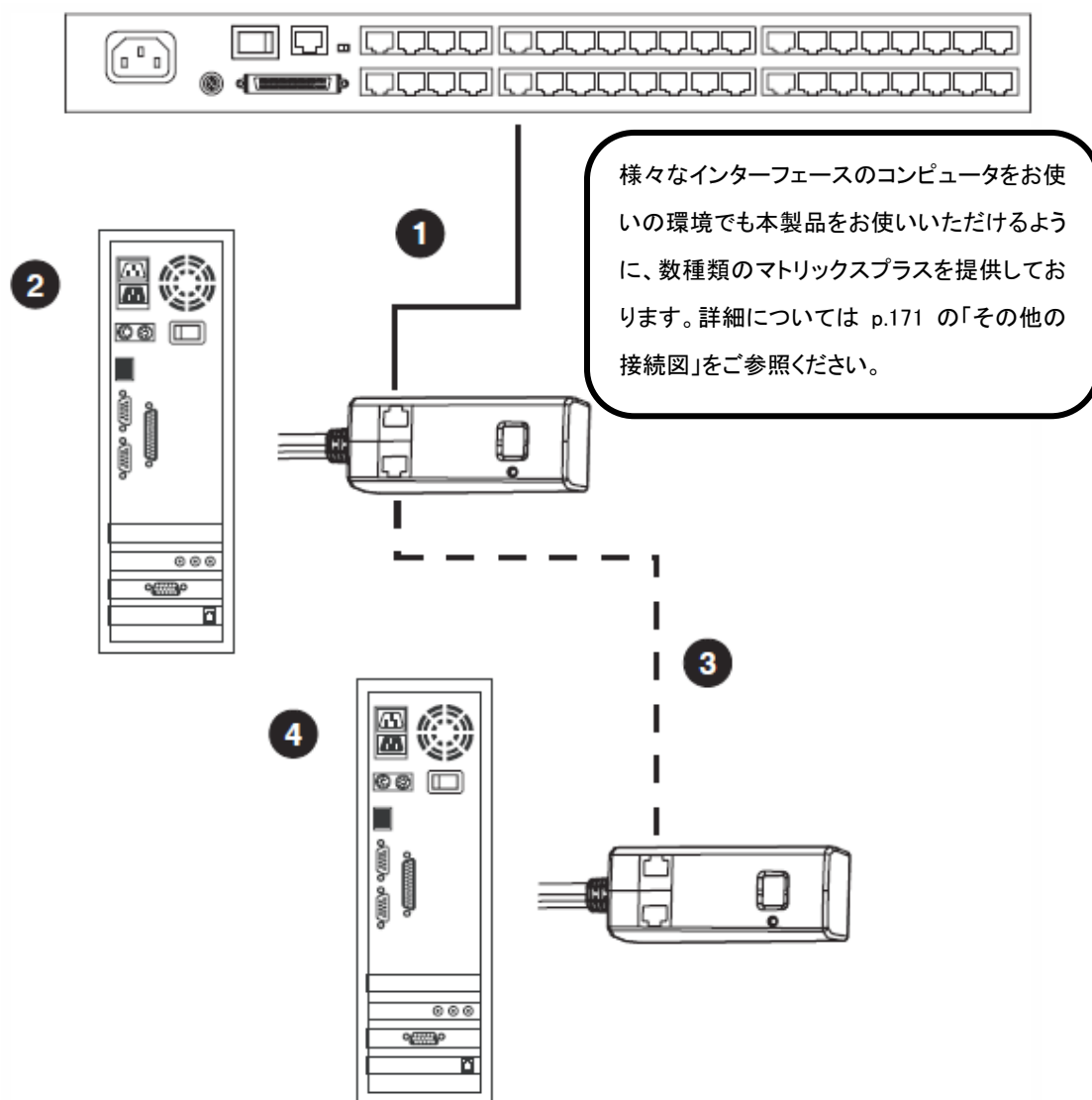
KM0832 は、接続するコンピュータ 1 台に対してマトリックスプラスと呼ばれるモジュールデバイスを 1 つずつ鎖状に追加することによって、機器を拡張していくことができます。このマトリックスプラスを KM0832 に接続する場合、他のマトリックス KVM スイッチのように MP0101M マスターモジュールをセットアップする必要はありません。p.175 の表には、互換性のあるマトリックスプラスおよび対応するコンピュータプラットフォームが記載されていますので、詳細はそちらをご覧ください。

マトリックスプラスをセットアップする場合は、p.43 の接続図 (図内における番号は手順の番号に対応) を参考にしながら以下の手順で作業してください。

-
- | | |
|------------|---|
| 注意: | <ol style="list-style-type: none">1. 弊社が保証する KM0832 と末端のマトリックスプラス間の距離は最大 150m です。2. 弊社が保証する隣接するマトリックスプラス間の距離は最大 50cm です。 |
|------------|---|
-

1. カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを使って、KM0832 の KVM ポートと、マトリックスプラスにおける「CHAIN IN」ポートを接続してください。
2. マトリックスプラスのケーブルを、お使いのコンピュータのキーボード、モニタ、マウスの各ポートにそれぞれ接続してください。他に使用するマトリックスプラスがない場合は、作業はここで終了です。モジュールを複数個使用する場合は手順 3 に進んでください。
3. カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを使って、1 段階目のマトリックスプラスの「CHAIN OUT」ポートと、2 段階目のモジュールの「CHAIN IN」ポートを接続してください。
4. マトリックスプラスの各コネクタを、お使いのコンピュータのキーボード、モニタ、マウスの各ポートにそれぞれ接続してください。
5. 他にも接続するマトリックスプラスがある場合は、手順 3～4 の作業を繰り返してください。

接続図 (マトリックスプラス接続時)



KM0832 以外の KVM スイッチのカスケード接続

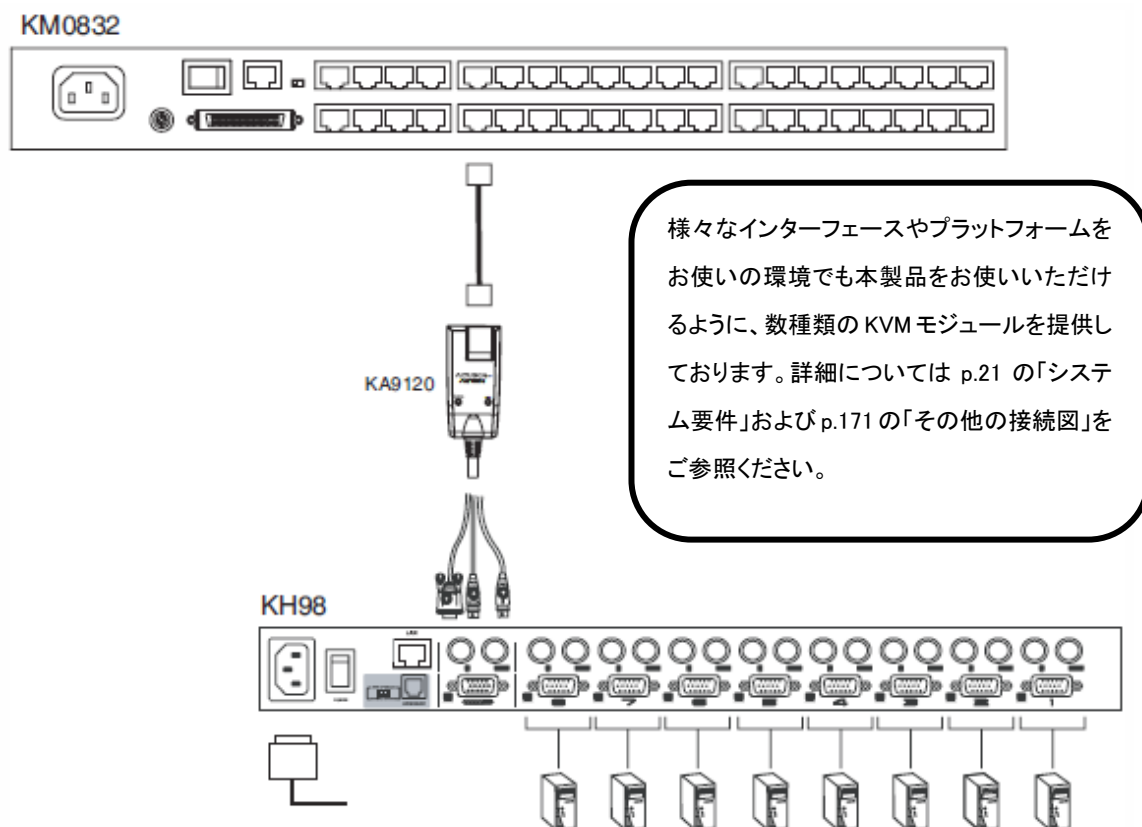
KM0832 以外のKVMスイッチをカスケード接続する場合は、KVMモジュールと呼ばれるデバイスが必要です。KVMモジュールは、KM0832 で使用されているKVMポートのコネクタを、お使いのKVMスイッチに適したコネクタに変換します。p.22の表に対応するKVMモジュールが記載されていますので、そちらをご参照ください。

注意:	KM0832 以外の KVM スイッチを使用した場合、その KVM スイッチをどのレベルで接続しても、1 台しかカスケード接続することができません。KM0832 以外の KVM スイッチをカスケード接続した場合、そのスイッチから更にカスケード接続することはできませんので、ご注意ください。
------------	--

KM0832 以外の KVM スイッチをカスケード接続する場合は以下の手順で作業してください。

1. カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを使って、KM0832 の KVM ポートと KVM モジュールを接続してください。
2. KVM モジュールのコネクタを、お使いの KVM スイッチのコンソールポートにそれぞれ接続してください。
3. KVM ケーブルを使ってコンピュータを KVM スイッチに接続してください。

接続図 (KM0832 以外の KVM スwitch のカスケード接続)



デ이지ーチェーン接続

1 段階目の KM0832 には、最大 7 台のマトリックス KVM スイッチ (KM0432 または KM0216) をデ이지ーチェーン接続することができます。KM0432 または KM0216 をデ이지ーチェーン接続した場合、KM0832 はマスター (1 段階目のスイッチ) として、KM0432 や KM0216 はスレーブ (マスターとなるスイッチにカスケード接続された KVM スイッチ) としてそれぞれセットアップする必要があります。

KM0432 や KM0216 をデ이지ーチェーン接続する場合、1 段階目のスイッチにおける 1～4 の KVM ポートは使用することができません。また、コンピュータやカスケード接続された KVM スイッチもこれらの KVM ポートに接続することができなくなります。

KM0432 または KM0216 はそれぞれ 4 箇所または 2 箇所の独立した KVM コンソールに対応しているのに対し、KM0832 は 8 箇所の独立した KVM コンソールに対応しています。KM0832 はデ이지ーチェーン接続時に最大 8 箇所の KVM コンソールから、その構成におけるすべてのコンピュータへのアクセスおよび制御が可能です。一方、スレーブとなる KM0432 または KM0216 に接続されている 4 箇所または 2 箇所の KVM コンソールからは、その KVM スイッチに接続されているコンピュータしか制御することができません。

注意: デ이지ーチェーン機能がお使いの機器でご利用いただけない場合は、新しいバージョンのファームウェアを適用する必要があります。詳細についてはお手数ですが販売店までお問い合わせください。

デ이지ーチェーン接続の構成をセットアップする場合は、p.48 の接続図を参考にしながら以下の手順で作業してください。

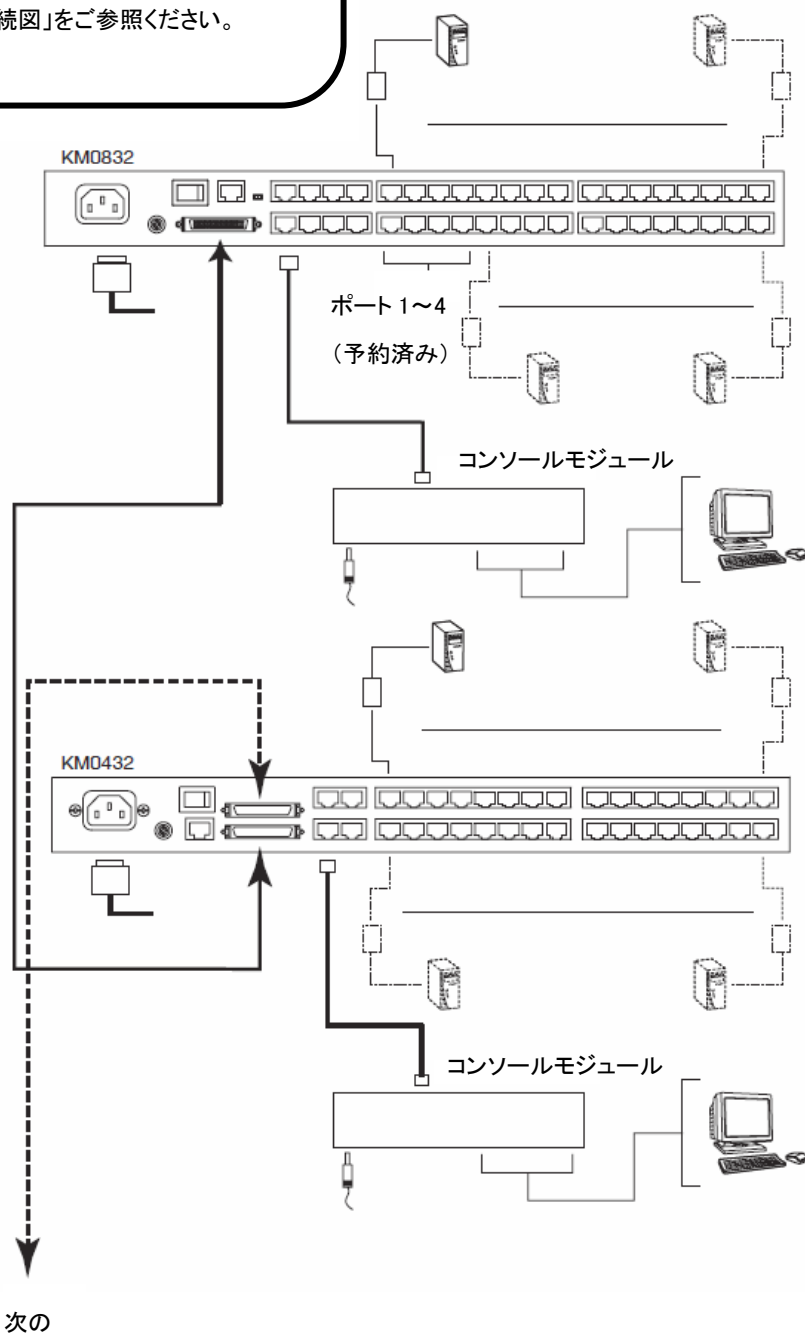
1. 専用デ이지ーチェーンケーブルセット (p.23「ケーブル」参照) を使って、1 段階目の KM0832 の「CHAIN OUT」ポートと、スレーブとなる KM0432 または KM0216 の「CHAIN IN」ポートを接続してください。(3 台以上の機器をデ이지ーチェーン接続する場合は、1 台目の「CHAIN OUT」ポートと 2 台目の「CHAIN IN」ポートを、2 台目の「CHAIN OUT」ポートと 3 台目の「CHAIN IN」ポートを接続するといった要領で作業してください。)

-
- 注意:**
1. KM0432 または KM0216 をデ이지ーチェーン接続する場合、KM0832 をマスターステーション(1 段階目のステーション)として、また、KM0432 や KM0216 をスレーブステーションとしてセットアップする必要があります。
 2. 弊社が保証する 2 台の KVM スイッチ(KM0432 または KM0216)の間の距離は最大 10m です。
 3. 弊社が保証する、デ이지ーチェーン接続の構成における 1 段階目の KM0832 と末端の KM0432 または KM0216 との間の距離は最大 20m です。
-

2. KM0432 または KM0216 にコンソールモジュールや KVM モジュールを接続する場合は、p.34 の「デバイスの接地」に記載されている作業を行ってください。
(他にも KM0432 や KM0216 をデ이지ーチェーン接続する場合は、上記の手順を繰り返して作業してください。)
3. 電源ケーブルを AC 電源に接続し、KM0832、KM0432 または KM0216 の電源ソケットにこれらの電源ケーブルを接続してください。
4. 以下の手順に従って、機器に電源を入れてください。
 - a) 1 段階目の KVM スイッチ(KM0832)に電源を入れて、KVM スイッチが自身の位置を認識するまで 1 分ほど待機してください。(KM0832 は常に 1 段階目のステーションとして使用されますので、ステーション ID は付番されません。)
 - b) 2 段階目のステーションから順に電源を入れていってください。このとき、KVM スイッチに電源を入れ、その KVM スイッチが自身のステーション ID を LED 表示したことを確認してから次のステーションに電源を入れるようにしてください。(2 段階目の KVM スイッチのステーション ID は **02**、3 段階目のスイッチのステーション ID は **03** といったルールで付番されます。)
 - c) すべての KVM スイッチに電源が入ったら、KVM スイッチに接続されているコンピュータに電源を入れてください。

接続図(デジーチェーン接続)

様々なコンソールやコンピュータをお使いの環境でも本製品をお使いいただけるように、数種類のコンソールモジュールおよび KVM モジュールを提供しております。詳細については p.21 の「システム要件」および p.171 の「その他の接続図」をご参照ください。



次の
KM0432 に接続

ネットワークのセットアップ

KM0832 の設定の大半は Web ブラウザで行うことができます。Web ブラウザを使用して設定を行う場合、KM0832 をローカルネットワーク上にセットアップする必要があります。

KM0832 をローカルネットワーク上にセットアップする場合は、カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルの一端をネットワーク上のアクセスポイントに接続し、もう一端を KM0832 のリアパネルにある「CONFIGURATION」ポートに接続してください。

注意: KM0832 にカスケード接続された KVM スイッチは、1 段階目の KVM スイッチの KM0832 アドミニストレーターユーティリティによって管理されますので、これらの KVM スイッチはネットワークに接続する必要はありません。

KM0832 の接続形態

本製品は、KVM ポートに RJ-45 インターフェースを採用し、自動信号補正機能 (ASC) を搭載しておりますので、信号を最大 300m まで転送しても、信頼性と高いビデオ解像度を保持することが可能です。これによって、KM0832 はカテゴリ 5e やカテゴリ 6 ケーブルが利用されている大部分の商用ビルでも導入いただけます。

データ信号はパケット形式では転送されませんので、送信信号はネットワークハブやスイッチといった機器を経由することはできません。また接触抵抗による信号劣化を避けるため、パッチパネル、キーストーンジャック、パッチケーブルといった受動部品の使用は推奨しておりません。

第3章 基本操作

ホットプラグ

KM0832 はホットプラグに対応しておりますので、KVM スイッチをシャットダウンすることなく、ポートからケーブルを抜き差しすることでコンポーネントの追加や取り外しが可能ですが、ホットプラグが正常に動作するために、以下の手順に従って操作してください。

デ이지ーチェーン接続時におけるKVMスイッチの位置変更

デ이지ーチェーン接続された KM0432 や KM0216 の位置は、古いマスターKVM スイッチからケーブルを抜いて、新しいマスタースイッチに接続しなおすだけで変更できます。

カスケード接続時におけるKVMスイッチの位置変更

カスケード接続された KM0832 の位置は、古い親機からケーブルを抜いて、新しいスイッチに接続しなおすだけで変更できます。ステーションネームとポートノートは、新しい構成の内容に自動的に同期します。

KM0832 以外の KVM スイッチをカスケード接続した場合もホットプラグが可能ですが、ポートノートは自動的に同期されませんので、KM0832 以外の KVM スイッチや KVM スイッチに接続されたコンピュータの位置を変更した場合は、手動でポートノートを更新する必要があります。

ユーザーポートのホットプラグ

コンソールポートに接続されたキーボード、モニタ、マウスはすべてホットプラグに対応しています。新しいマウスをホットプラグした後で問題が発生した場合は、KM0832 のフロントパネルにあるリセットボタンを押してシステムリセットを行ってください。この方法でも解決しない場合は、問題が発生しているコンピュータを再起動してください。

電源OFFおよび再起動

KM0832 の電源を切っても、本体に接続されているコンピュータに影響は及びません。KM0832 を再起動した場合も、再起動終了後すぐにお使いいただけます。KM0832 を交換する場合は、製品の電源を切って、ケーブルをはずし、それらのケーブルを新しい KVM スイッチに接続して、新しい KVM スイッチに電源を入れてください。

注意: KM0832 の終了や再起動、または新しい KVM スイッチへの交換後にお使いのコンピュータが正常に動作しない場合は、そのコンピュータを再起動してください。

ポートの選択

ポートの選択は、OSD メニューやキーボードからのホットキー操作によって行うことが可能です。OSD 操作の詳細については第 5 章で、ホットキーによるポート選択については第 6 章でそれぞれ説明します。

1 段階の構成においてはホットキーによる操作が便利ですが、特にカスケード接続やデジチェーン接続によって複数台のスイッチをご利用の場合は、より強力で豊富な機能を搭載した OSD メニューをご利用いただくことをお勧めします。

第4章

アドミニストレーターユーティリティ

概要

KM0832 のアドミニストレーターユーティリティによって、ネットワーク管理者は、時間や場所を問わず KM0832 を安全に管理することができます。スーパーアドミニストレーターは、直感的で操作性の高いメニューやアイコンを使って、ユーザーやグループの管理、ポートアクセスの制御、ファームウェアのアップグレードやその他の管理機能を利用することができます。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティはブラウザベースのツールですので、クライアントコンピュータやサーバに新しいソフトウェアをセットアップする必要もありません。

KM0832 のアドミニストレーターユーティリティは、最大 16 名のアドミニストレーターおよびユーザーからの同時アクセスが可能です。KM0432 や KM0216 をデ이지チェーン接続した場合は一度に1ユーザーしか環境設定を行うことができなかったのに対し、KM0832 では一度に最大 7 ユーザーが環境設定を行うことができます。KM0832 は、ユーザーパスワード権限、3 段階のユーザーアクセスコントロール、およびポートへの制限によって高いセキュリティを維持しています。これらの機能によって、権限のないユーザーによる重要なサーバへのアクセスを防ぐことができます。

また、KM0832 のアドミニストレーターユーティリティの統合型ツリービューは、デ이지チェーン接続、またはカスケード接続された KVM スイッチのシームレスな操作性を実現します。ルートステーションの設定は、カスケード接続されたすべての KM0832 に自動同期します。

このアドミニストレーターユーティリティの大半の機能は、テキストベースの OSD からでもご利用いただけます。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティから加えられた変更は、テキストベースの OSD メニューにも反映されます。

本章では、KM0832 の環境設定、ユーザーやグループアカウントのセットアップ、KVM ポートの設定、ファームウェアのアップグレード、および、その他の管理者限定機能についてそれぞれ説明します。

IPアドレスの設定

KM0832 のネットワークの設定は、Web ブラウザ、IP インストーラー、OSD、またはネットワークコマンドの実行によって行うことができます。Web ブラウザを使用して KM0832 の設定を行う場合は、以下の環境をご用意ください。

- (1) Web ブラウザがインストールされているコンピュータ
- (2) 2 ポート以上のイーサネットハブ
- (3) カテゴリ 5 以上の LAN ケーブル

Web ブラウザでネットワークの設定を行う場合は、以下の手順で操作してください。

- 1. カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルの一端をイーサネットハブに、もう一端を KM0832 リアパネルにある「CONFIGURATION」ポートにそれぞれ接続してください。
- 2. カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルの一端をイーサネットハブに、もう一端を Web ブラウザがインストールされているコンピュータのネットワークアダプタにそれぞれ接続してください。
- 3. コンピュータの IP アドレスが、KM0832 と同じサブネット内にあることを確認してください。
(KM0832 のデフォルト IP アドレスは 192.168.0.10 です) コンピュータのネットワークアダプタの IP アドレスを 192.168.0.XXX (XXX は KM0832 用に予約されている 10 および 254 を除いた 1~254 の値を使用すること) に設定してください。(KM0832 のデフォルトネットワーク設定については p.170 の「工場出荷時における初期設定一覧」をご参照ください。)

注意:	お使いのネットワーク環境でプロキシサーバが使用されている場合、KM0832 にアクセスする前にコンピュータ側でのプロキシサーバの設定を変更する必要があります。
------------	---

- 4. Web ブラウザのアドレスバーに、192.168.0.10 を入力し、このページに移動してください。アクセスに成功すると、KM0832 のログイン Web 画面が表示されます。
- 5. ログインしたら、お使いのネットワーク環境で有効な IP アドレスを KM0832 に設定してください。(p.64「ネットワークの設定」参照)

6. ログアウトしたら、お使いのコンピュータのネットワークの設定を元の値に戻してください。

IP インストーラーを使ってネットワークの設定を行う場合は、まず、弊社 Web サイトのダウンロードページにアクセスしていただき、「ドライバー & ソフトウェア」の型番リストから KM0832 を選択してください。ページ下部に IP インストーラーがダウンロードできるリンクが表示されますので、そこから IP インストーラーをダウンロードし、お使いのコンピュータにインストールしてお使いください。

OSD でネットワークの設定を行う場合は以下の手順で操作してください。

1. KVMコンソールからOSDを起動し、「IP ADDRESS SETTING」メニューに移動してください。
(p.152「SET NETWORK」参照)s
2. 手動でIPアドレスを設定するか、現在の設定内容を確認する場合は、本マニュアルのp.153に記載されている内容にしたがってください。(DHCPが有効になっている場合、IPアドレスをこのメニューから確認することはできません。)

コマンドラインから IP アドレスを設定する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 の電源を切ってください。
2. コマンドラインから以下のコマンドを実行してください。

```
arp -s <IP アドレス> <MAC アドレス>
```

<IP アドレス>の部分には、KM0832 がセットアップされているネットワークセグメントで有効な IP アドレスを入力してください。

<MAC アドレス>の部分には、製品底面のラベルに記載されている MAC アドレスを入力してください。

3. KM0832 に電源を入れてください。

4. KM0832 に電源を入れたら、30 秒以内にコマンドラインから以下のコマンドを実行してください。

ping <IP アドレス>

<IP アドレス>の部分には、手順 2 で設定した IP アドレスを入力してください。

このコマンドに対して応答があった場合、KM0832 にはこのIPアドレスが設定されたことを意味しますので、KM0832 にログインすることができます。(p.56参照)

ログイン

KM0832 のアドミニストレーターユーティリティでは、パスワード保護機能によって、安全な KM0832 へのアクセスを実現しております。デフォルトのスーパーアドミニストレーターのアカウントの初期設定は以下のとおりです。

ユーザーネーム:ADMIN

パスワード:ADMIN

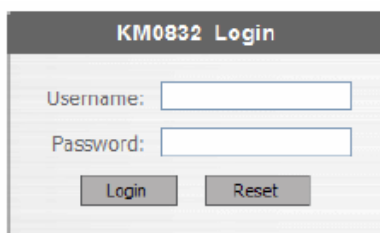
このデフォルトの設定を使用し続けると、お使いの KM0832 に誰でも簡単にアクセスすることができてしまい、システムが危険な状態にさらされますので、このデフォルトスーパーアドミニストレーターのパスワードは後で変更することを推奨します。なお、パスワードの変更については p.100 の「OSDにおけるユーザー設定の変更」をご覧ください。KM0832 に新しいユーザーアカウントを作成すると、デフォルトのスーパーアドミニストレーターのアカウントを使ってログインする必要はなくなりますが、このデフォルトアカウントは削除できないユーザーで、ユーザーネームの一覧にも表示されません。

KM0832 のアドミニストレーターユーティリティにログインする場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 の IP アドレスを Web ブラウザのアドレスバーに入力し、[Enter]キーを押してください。

注意: KM0832 の IP アドレスがご不明な場合は、KM0832 がセットアップされているネットワークの管理者にご確認ください。

2. 「**セキュリティの警告**」ダイアログが表示されますが、この証明書は安全なものですので、これを受け入れてください。（詳細については p.177「信頼された証明書」参照）下図のような KM0832 ログイン Web 画面が表示されます。

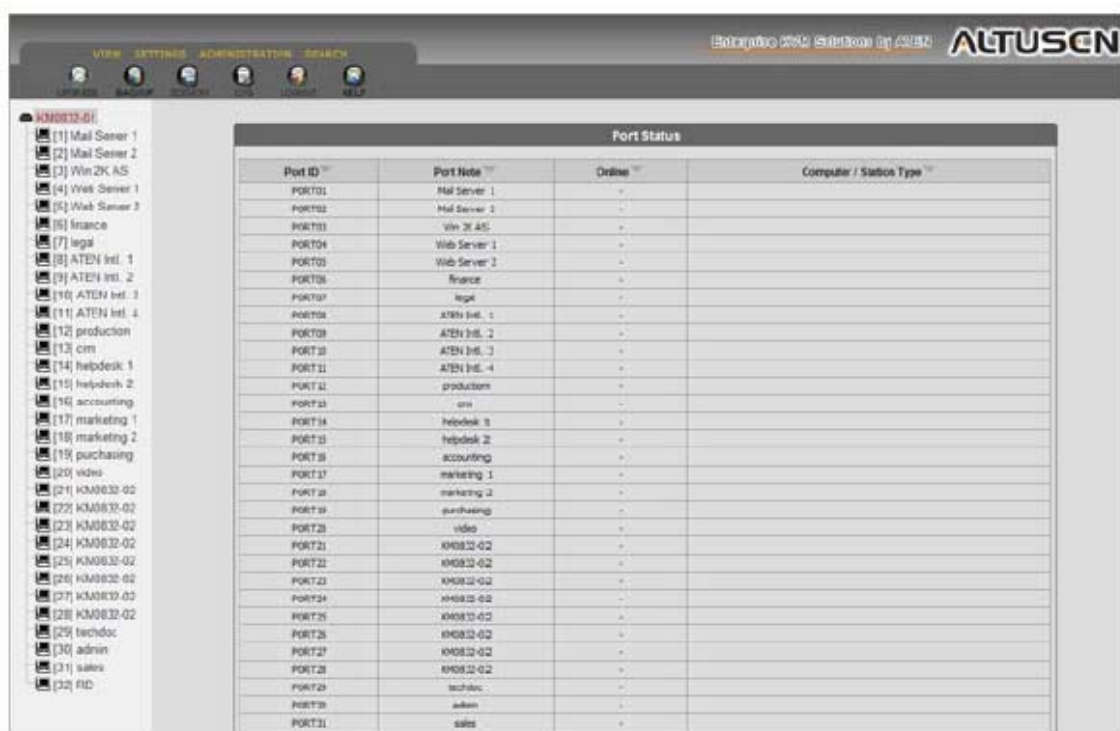


The image shows a web browser window titled "KM0832 Login". Inside the window, there are two input fields: "Username:" and "Password:". Below these fields are two buttons: "Login" and "Reset". The background of the window is light gray with a subtle grid pattern.

3. KM0832 に有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」ボタンをクリックしてください。

注意: Web ブラウザからこのアドミニストレーターユーティリティにログインする場合、ユーザーネームおよびパスワードの項目は大文字と小文字を区別しますので、注意して入力してください。

ログインに成功すると、KM0832 のアドミニストレーターユーティリティのメイン Web 画面が表示されます。



メニュー

KM0832 のアドミニストレーターユーティリティの上部にある各メニューの内容は下表のとおりです。

メニュー	説明
VIEW	このメニューをクリックすると、OSD 画面の設定ができる「View」画面が表示されます。
SETTINGS	このメニューをクリックすると、パスワードの変更を行う「Settings」画面が表示されます。また、ユーザーはパスワードのほかに OSD 起動キー、ログアウト時間、スクリーンブランカー、ホットキーやビープ音の設定、タイムアウト時間の各設定を変更することもできます。
ADMINISTRATION	このメニューをクリックすると、関連するサブメニューがポップアップ形式で表示されます。このメニューを使って、スーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターは、ユーザー、KVM ポート、ステーションの管理を行うことができます。また、スーパーアドミニストレーターはグループの管理、ネットワーク環境の設定、日時や時刻の設定、また、KM0832 のシステム情報の確認が可能です。
SEARCH	このメニューをクリックすると、「Search」画面が表示されます。全ユーザーは、現在の構成から、入力した文字列に一致するコンピュータやステーションを検索することができます。

アイコン

KM0832 のアドミニストレーターユーティリティの上部にある各アイコンの内容は下表のとおりです。

アイコン	説明
UPGRADE	このアイコンをクリックすると、「Firmware Upgrade」画面を表示します。スーパーアドミニストレーターは、この機能を使ってファームウェアのアップグレードを行うことができます。
BACKUP	このアイコンをクリックすると、「Backup and Restore」画面を表示します。この機能によって、アドミニストレーターはシステム設定をローカルコンピュータにバックアップしたり、ステーションにリストアしたりすることができます。
SESSION	このアイコンをクリックすると、「Active Sessions」画面を表示します。このページを使って、スーパーアドミニストレーターは、現在 KM0832 にログインしているユーザーと、各ユーザーが使用しているセッション情報を確認することができます。また、スーパーアドミニストレーターは、この画面からユーザーを強制的にログアウトさせることもできます。
LOG	このアイコンをクリックすると、「Event Log」画面を表示します。アドミニストレーターはこの画面から KM0832 で発生したすべてのイベントを参照することができます。
LOGOUT	このアイコンをクリックすると、現在のセッションを終了します。
HELP	このアイコンをクリックすると、KM0832 のオンラインヘルプを表示します。

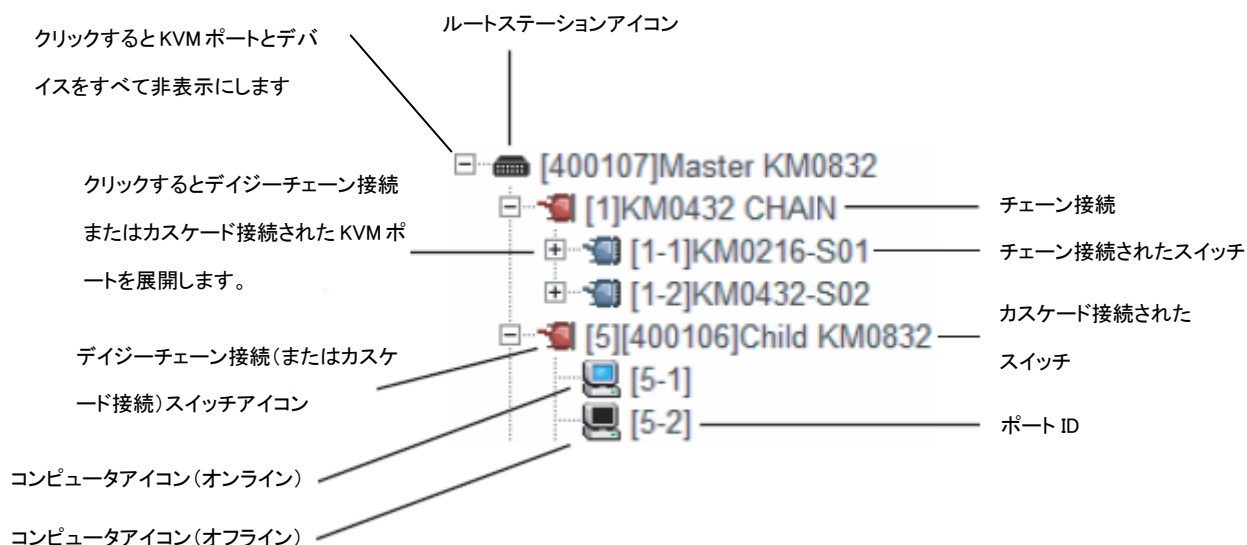
ツリービューにおけるアイコン

「Main」画面の左側にあるツリービューには、ステーションおよびポートが表示されます。KM0832 のルートステーションアイコン(ツリーの上部)は、ルートノードを表しています。ルートステーションアイコンの下には、コンピュータアイコン、チェーンコネクタアイコン、ステーションアイコンがありますが、これらはサブノードを表し、降順に表示されます。

- ◆ コンピュータアイコンをクリックすると、その KVM ポートの「Port Management」画面を表示します。
- ◆ チェーン接続アイコンをクリックすると、KM0832 にデイジーチェーン接続されたステーションの「Station Status」画面を表示します。

注意: 「Station Status」画面には、「Port Status」画面 (p.61参照)と同じ項目が表示されます。

- ◆ ステーションをクリックすると、その KVM ポートにカスケード接続されたステーションの「Port Status」画面を表示します。
- ◆ チェーンコネクタアイコンの隣にある「+」印をクリックすると、ツリーを展開し、そのステーションにあるKVMポートを表示します。各ポートIDはカッコ([])内に表示されます。(ポートIDの構成についてはp.132「ポートIDの割り当て」参照)



ポートの状態

Port Status			
Port ID ▼	Port Note ▼	Online ▼	Computer / Station Type ▼
PORT01	40010a	On	KM0832
PORT02	40010a	On	KM0832
PORT03		-	
PORT04		-	
PORT05		-	
PORT06		-	
PORT07		-	
PORT08		-	
PORT09		-	
PORT10		-	
PORT11		-	
PORT12		-	
PORT13		-	
PORT14		-	
PORT15		-	
PORT16		-	
PORT17		-	
PORT18		-	
PORT19		-	
PORT20		-	
PORT21		-	
PORT22		-	
PORT23		-	
PORT24		-	
PORT25		-	
PORT26		-	
PORT27		-	
PORT28		-	
PORT29		-	

KM0832 のアドミニストレーターユーティリティにログインすると、デフォルトで「Port Status」画面が表示されます。(この「Port Status」画面は、ツリービューの KM0832 ステーションアイコンをクリックするといつでも表示できます。また、ステーションのスイッチアイコンをクリックすると、カスケード接続されたステーションの「Port Status」画面を参照することができます。)ユーザーは、フルアクセス権限または参照権限のある KVM ポートのみを見ることができます。一番上の列に表示されている三角ボタンをクリックすると、その列を昇順または降順でソートします。

列	説明
Port ID	KVM ポートのポート番号を一覧表示します。
Port Note	KVMポートのポートノートがあれば、この欄に表示します。ポートノートについては、p.92の「ポート設定の変更」をご参照ください。
Online	その KVM ポートに接続されたデバイスに電源が入っているかどうかを表示します。
Computer/Station Type	カスケード接続されたステーション、またはコンピュータを KVM ポートに接続する際に使用されている KVM モジュールに関する情報を表示します。

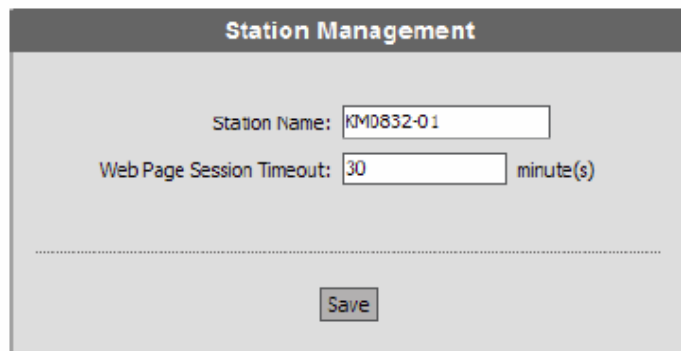
ステーション名の設定

カスケード接続された機器構成では、デバイスの識別を容易にするために、スーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターによって各 KM0832 に固有の名前を設定することができます。

注意: ステーションに名前をつけると、デバイスの検索機能がご利用いただけます。

KM0832 にステーション名を設定する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティのメイン画面が表示されます。
2. ツリービューから目的のステーションをクリックしてください。
3. 「ADMINISTRATION」メニューから、「**Station Management**」を選択してください。下図のような「**Station Management**」画面が表示されます。



The screenshot shows a web interface titled "Station Management". It contains two text input fields. The first is labeled "Station Name:" and contains the text "KM0832-01". The second is labeled "Web Page Session Timeout:" and contains the number "30", followed by the text "minute(s)". Below these fields is a horizontal dashed line, and at the bottom center is a button labeled "Save".

4. 「**Station Name**」の欄にステーション名を入力してください。ステーション名は、最大半角 15 文字で、英字(大文字、小文字ともに可)、数字、スペース、ハイフンを使って入力してください。また、現在の構成における他の KVM スイッチと名前が重複しないように、ステーション名を設定してください。
5. 「**Save**」ボタンをクリックしてください。

Webページセッションタイムアウトの設定

KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーで設定されたユーザー操作のアイドル時間が経過すると、そのユーザーのセッションは終了します。Web ページセッションのタイムアウトの有効な値の範囲は 1～240 分で、デフォルトでは 3 分に設定されています。

KM0832 アドミニストレーターユーティリティーの Web ページセッションタイムアウトを設定する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 アドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログイン画面にアクセスして、ログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「ADMINISTRATION」メニューから、「**Station Management**」を選択してください。「**Station Management**」画面が表示されます。
3. 「**Webpage Session Timeout**」の項目に、KM0832 アドミニストレーターユーティリティーで非アクティブなユーザーがタイムアウトするまでの経過時間を入力してください。
4. 「**Save**」ボタンをクリックしてください。

ネットワークの設定

ネットワークの設定はスーパーアドミニストレーターに限定された機能です。KM0832 アドミニストレーターユーティリティにログインしたら、ネットワーク環境を設定する必要があります。ネットワークの設定は「Network Settings」画面で行います。

「Network Setting」画面を表示する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティのメイン画面が表示されます。
2. 「ADMINISTRATION」メニューから、「Super Adm Configuration」→「Set Network」を選択してください。「Network Settings」画面が表示されます。

Network Settings

✚ IP Installer Setting
☒ Enabled ☐ View Only ☐ Disabled

✚ DHCP Enabled
☐ Yes ☒ No

✚ Manual IP Address
IP Address:
Subnet Mask:
Default Gateway:
Primary DNS Server:
Alternate DNS Server:

✚ Port Settings
HTTP Port:
HTTPS Port:

✚ System Event Report Settings
Mail Notification: ☒ Yes ☐ No
SMTP Server Address:
SMTP Authentication: ☒ Yes ☐ No
Account Name:
Password:
From:
To:

Save

IPインストーラーの設定

KM0832はIPインストーラーを使用してネットワークの設定を確認したり、その設定内容を変更したりすることができます。IPインストーラーは、弊社 Web サイトからダウンロードしてご利用いただけます。

- ◆ 「**Enabled**」を選択すると、IPインストーラーを使ってKM0832のIPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイの設定を変更することができます。
- ◆ 「**View Only**」を選択すると、IPインストーラーを使ってKM0832のIPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイの設定を参照することができます。
- ◆ 「**Disabled**」を選択すると、IPインストーラーからのKM0832のネットワーク設定の変更および参照を行うことはできません。

IPアドレス

KM0832には固定IPアドレスを設定することも、DHCPを使用して動的IPアドレスを設定することも可能です。KM0832のIPアドレスを、DHCPサーバを使用して割り当てる場合、IPアドレスの変更をユーザーにメール通知するようKM0832側に設定しておくことを推奨します。詳細についてはp.66の「システムイベントの通知」をご参照ください。

DHCPサーバを使ってKM0832にIPアドレスを設定する場合は、「**DHCP Enabled**」の項目で「**Yes**」をクリックしてください。

手動でIPアドレスを設定する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「**DHCP Enabled**」の項目で「**No**」のラジオボタンを選択してください。
2. 「**Manual IP Address**」の項目で、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、プライマリDNSサーバの内容をそれぞれ入力してください。また、必要であれば代替DNSサーバの内容も入力してください。

ポートの設定

KM0832 が Web ページを転送する際に使用するポートと、クライアントソフトウェアとの通信に使用するポートを入力してください。通常、80 番のポートは HTTP 通信に、443 番のポートは HTTPS 通信にそれぞれ使用されます。これらのポートが正しく設定されていないと、KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーが正常に動作しない場合があります。

システムイベントの通知

DHCP サーバによって KM0832 に新しい IP アドレスが割り当てられた際に、メール通知するように KM0832 側に設定することができます。メール通知機能を有効にして、SMTP サーバのアドレス、サーバ上で有効なメールアカウント、およびそのメールのあて先となるユーザーのメールアドレスをそれぞれ入力してください。

システムイベント通知機能を有効にする場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「**System Event Report Settings**」の項目で「**Yes**」のラジオボタンを選択し、メール通知機能を有効にしてください。
2. SMTP サーバのアドレスを入力してください。
3. SMTP サーバで認証が必要な場合は、「**Yes**」をクリックして SMTP 認証を有効にしてください。認証が不要である場合は、手順 6 に進んでください。
4. 「**Account Name**」の項目に、手順 2 で入力した SMTP サーバで有効なメールアカウントのユーザーネームを入力してください。
5. 「**Password**」の項目に、手順 4 で入力したメールアカウントのパスワードを入力してください。
6. 「**From**」の項目に、手順 4 で入力したメールアカウントのメールアドレスを入力してください。
7. 「**To**」の項目に、メールのあて先となるユーザーのメールアドレスを入力してください。
8. 「**Save**」ボタンをクリックしてください。

日時と時刻の設定

スーパーアドミニストレーターは KM0832 の日付および時刻を設定することができます。これによって、KM0832 はシステムログ、アクティブセッション、「System Information」画面におけるシステム関連の情報をより正確な内容で保持することができます。

日付や時刻を設定する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「ADMINISTRATION」メニューから、「Super Adm Configuration」→「Date & Time」を選択してください。下図のような「Date & Time」画面が表示されます。

Date & Time

Current Settings

Date (yyyy-mm-dd) 2006-04-14

Time (hh:mm:ss) 15:41:40

Change Settings

☒ Synchronize with my computer

Date (yyyy-mm-dd) 2006-04-14

Time (hh:mm:ss) 15:41:43

☐ Set manually

Date (yyyy-mm-dd) 2006-04-14

Time (hh:mm:ss) 15:41:29

☐ Automatically synchronize with an NTP server on the Internet

Time Zone

Time Zone: (GMT-08:00) Pacific Time (US & Canada); Tijuana

☒ Enable Daylight Saving Time (Summer Time)

Save

KM0832 の現在の日付および時刻が画面上部に表示されます。

3. 「System Date & Time」の項目で、以下のオプションからお使いの環境に適したものを1つ選択し、日付と時刻を設定してください。
 - ◆ 「Synchronize with my computer」:このオプションを選択すると、KM0832 の日付と時刻を、KM0832 とのアクセスに使用しているコンピュータの日付と時刻に同期します。
 - ◆ 「Set manually」:このオプションを選択すると、手動で日付と時刻を設定します。日付と時刻は以下の方法で入力してください。
 - 「Date」:半角数字で、年月日の順に日付を入力してください。年は4桁、月および日はそれぞれ2桁で入力します。年月日はそれぞれハイフンで区切ってください。例えば、「2005年12月5日」は、「2005-12-05」というように入力します。
 - 「Time」:24時間制で「時:分:秒」の形式で時刻を入力してください。例えば、「午後3時」の場合は、「15:00:00」というように入力します。
 - ◆ 「Automatically synchronize with an NTP server on the Internet」:このオプションを選択すると、KM0832 の日付および時刻を、インターネット上にあるNTPサーバの日付および時刻に同期します。この機能をご利用になる場合は、お使いのファイアウォールで123番のUDPポートを開放する必要があります。
4. 「Time Zone」リストから、KM0832 がセットアップされている場所が属するタイムゾーンを選択してください。
5. KM0832 がセットアップされている場所がサマータイム制を導入している場合は、「Daylight Saving Time (Summer Time)」の項目にチェックを入れてください。
6. 「Save」ボタンをクリックしてください。この操作によって、入力した設定内容が KM0832 に反映され、システム日付と時刻が更新されます。

グループの管理

KM0832 では最大 255 のグループを管理することができます。スーパーアドミニストレーターはこれらのグループを作成、編集、削除することが可能です。(デフォルトグループの編集および削除はできません。)

ユーザーをグループ分けすることによって、グループ単位でアクションを管理できるため、KVM ポートの管理が簡単になります。(ただし、ユーザーアカウントを個別に変更する場合は、「User Management」画面を使う必要があります。詳細はp.75の「ユーザーの管理」をご参照ください。)

グループ管理操作は、すべて「Group Management」画面から開始します。この画面には、KM0832 上に作成されたすべてのグループが表示され、新しいグループの作成や既存グループの編集または削除を行うことができます。

グループの追加

新しいグループを追加する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティのメイン画面が表示されます。
2. 「ADMINISTRATION」メニューから、「Account Management」→「Group Management」を選択してください。グループが作成されていない場合は、「No Local Groups」画面が表示されます。グループが既に作成されている場合は、「Group Management」画面が表示されます。その場合は、ここで「Add」ボタンをクリックして手順 4 に進んでください。
3. 「New」ボタンをクリックしてください。以下のように「Group Information」画面が表示されます。

Note	Port Path	Computer / Station	Not Assigned	View Only	Full Access
40010a	01	KM0832	☒	☐	☐
40010a	02	KM0832	☒	☐	☐
	03		☒	☐	☐
	04		☒	☐	☐
	05		☒	☐	☐

4. 「Group Name」の項目にグループ名を入力してください。グループネームは、最大半角 15 文字で、英字(大文字、小文字ともに可)、数字、スペース、ハイフン、角カッコ、丸カッコを使って入力してください。
5. 特定のグループに対してKVMポートへのアクセス権限を設定する場合は、p.73の「グループ単位でのポートアクセス権限の管理」をご参照ください。

6. 「Save」ボタンをクリックしてください。新しいグループが「Group Management」画面に追加されます。

Select	Group Name
☒	tech doc

Add Modify Delete

グループの編集

グループアカウントを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「Group Management」画面を開いてください。

Select	Group Name
☐	accounting
☐	admin dept
☐	computing
☐	finance
☐	helpdesk
☐	marketing
☐	purchasing
☐	sales
☒	tech doc

Add Modify Delete

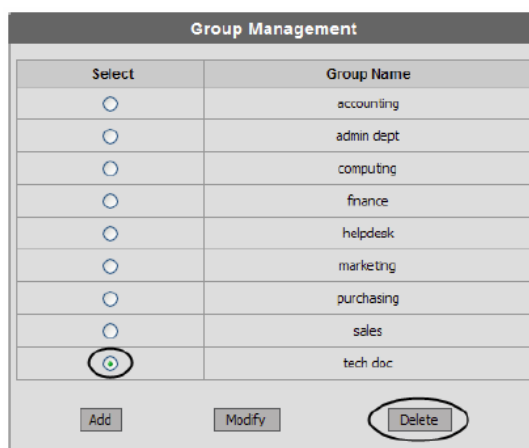
3. 編集したいグループの「Select」欄にあるラジオボタンを選択し、「Modify」ボタンをクリックしてください。「Group Information」画面が表示されます。
4. グループアカウントの設定を編集し、「Save」ボタンをクリックしてください。「Group Management」画面に新しいグループ名が反映されます。

グループの削除

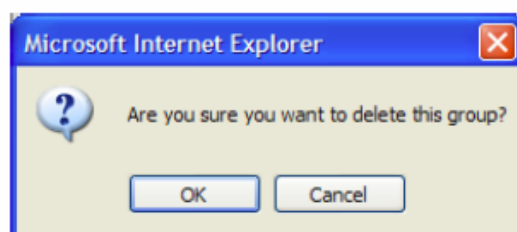
グループを削除すると、そのグループに登録されているすべてのユーザーも削除されます。そのグループに削除したくないユーザーがいる場合は、そのユーザーの所属グループを変更してからグループを削除してください。

グループを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「Group Management」画面を開いてください。



3. 対象となるグループネームの「Select」の欄にあるラジオボタンを選択し、「Delete」ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



4. 「OK」ボタンを押してグループを削除してください。削除したグループネームが「Group Management」画面から消え、そのグループに属しているユーザーもすべて削除されます。

グループ単位でのポートアクセス権限の管理

スーパーアドミニストレーターは「Group Information」画面でグループ単位での KVM ポートアクセス権限の管理を行うことができます。

注意: グループ単位でのアクセス権限は、KM0832 にカスケード接続している KVM ポートに対して設定する必要はありませんが、KM0832 以外の KVM スイッチをカスケード接続している場合は、そのポートに権限を設定する必要があります。KM0832 以外の KVM スイッチ、もしくはマトリックスプラスにカスケード接続している KVM ポートに対してアクセス権限を設定する場合、そのアクセス権限はカスケード接続されているすべての KVM モジュールに適用されます。デ이지チェーン接続された KM0216 や KM0432 にもこれと同様のルールで権限が適用されます。

グループ単位で KVM ポートのアクセス権限を設定する場合は、以下の手順で作業してください。

1. 「Group Management」画面から、権限を設定するグループを一覧から選択し、「Modify」ボタンをクリックしてください。「Group Information」画面が表示されます。(すでに表示されている場合は手順 2 にお進みください。)

Group Information					
Group Name: accounting					
Note	Port Path	Computer / Station	Not Assigned	View Only	Full Access
WIN 2003	01				
	02				
	03				
	04				
	05				

「Group Information」画面には、現在の構成におけるすべての KVM ポートが一覧表示されます。KVM ポートはルートステーション、デ이지チェーン接続またはカスケード接続されたステーションであるかにかかわらず、構成における位置順に表示されます。

2. リストの右側から、各ポートに対するアクセス権限の種類をラジオボタンで選択してください。

Group Information

Group Name:

Note	Port Path	Computer / Station	Not Assigned	View Only	Full Access
WIN 2003	01		☐	☐	☒
	02		☐	☐	☒
	03		☐	☒	☐
	04		☐	☐	☒
	05		☒	☐	☐

3. 「Save」ボタンをクリックして変更内容を反映させてください。
4. 変更内容を反映せずに終了する場合は、他のメニューまたはアイコンをクリックしてください。

ユーザーの管理

KM0832 では、最大 1023 ユーザーのアカウントを作成することができます。(このユーザー数の範囲内であれば、どのユーザータイプのユーザーを何名作成しても構いません。)各ユーザーは、KVM コンソールまたは KM0832 アドミニストレーターユーティリティを使って KM0832 にアクセスする際に固有のユーザーアカウントが必要です。アドミニストレーターは他のアドミニストレーターおよびユーザーのアカウントの追加、修正、削除が可能であるのに対し、スーパーアドミニストレーターはどのユーザータイプのアカウントであってもそれぞれに対して追加、修正、削除が可能です。(ただし、デフォルトスーパーアドミニストレーターのアカウントは修正することも削除することもできません。)また、セッションがすべて使用中の場合、スーパーアドミニストレーターは KM0832 アドミニストレーターユーティリティにログインし、他のユーザーのセッションを終了させることもできます。

KM0832 では各ユーザーを必ずグループに所属させなければなりませんので、ユーザーを作成する前にグループを作成することを推奨します。グループを作成したくない場合は、ユーザーをデフォルトのグループアカウントに登録することも可能ですが、デフォルトグループに所属しているユーザーにグループ単位で権限設定を行うことはできません。この場合、ユーザーを個別に KVM ポートに追加する必要があります。

「User Management」画面は「Group Management」画面と同じような構成になっており、KM0832 に登録されたユーザーと所属グループ情報がすべて表示されます。また、新規ユーザーの作成や、既存ユーザーの修正や削除の各ボタンもこの画面に表示されます。

ユーザーの追加

ユーザーアカウントを追加する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「ADMINISTRATION」メニューから、「Account Management」→「User Management」を選択してください。ユーザーが登録されていない場合は、「No Local Users」画面が表示されます。ユーザーが登録されている場合は、「User Management」画面が表示されます。「Add」ボタンをクリックして手順 4 にお進みください。
3. 「New」ボタンをクリックしてください。「User Information」画面が表示されます。

Note	Port Path	Computer / Station	Not Assigned	No Access	View Only	Full Access
40010a	01	KM0832	☒	☐	☐	☐
40010a	02	KM0832	☒	☐	☐	☐
	03		☒	☐	☐	☐
	04		☒	☐	☐	☐

4. 「Username」欄に、ユーザーネームを入力してください。ユーザーネームは最大半角 15 文字で、英字(大文字、小文字ともに可)、数字、スペース、ハイフン、角カッコ、丸カッコ、ピリオドを使って入力してください。

5. 「Password」の欄にパスワードを、「Confirm Password」の欄に確認用パスワードをそれぞれ入力してください。パスワードは最大半角 15 文字で、英字(大文字、小文字ともに可)、数字、スペース、ハイフン、角カッコ、丸カッコ、ピリオドを使って入力してください。この項目は空白で設定することができません。
6. ユーザーのアカウントタイプを選択してください。下表は各アカウントタイプの権限を表しています。(権限はローカルステーションのみに適用されます。カスケード接続またはデジタイチェーン接続されたステーションにおける権限についてはp.92「カスケード接続の構成」をご参照ください。)

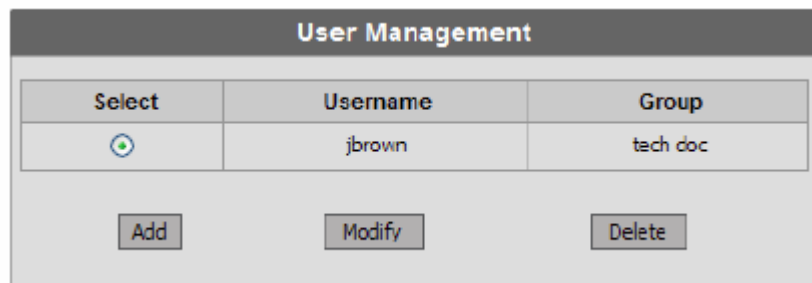
権限	ユーザー	アドミニストレーター	スーパー アドミニストレーター
KVM ポートへのアクセス	○	○	○
個人プロフィールの設定変更	○	○	○
検索	○	○	○
オンラインヘルプの参照	○	○	○
ユーザー/アドミニストレーター アカウントの管理		○	○
スーパーアドミニストレーター アカウントの管理			○
ステーションの管理		○	○
KVM ポートの管理		○	○
ログファイルの参照/消去		○	○
設定のバックアップ/リストア		○	○
グループアカウントの管理			○
ネットワーク設定の変更			○
日付および時刻の設定			○
システム情報の参照			○
ファームウェアのアップグレード			○
ブロードキャストモードの起動			○

* スーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターはすべての KVM ポートに対してフルアクセス権限が与えられていますが、一般ユーザーは各 KVM ポートに対してアクセス権限を設定しなければなりません。

7. ユーザーの所属グループを選択してください。そのユーザーをグループに所属させない場合は、デフォルトグループアカウントを選択してください。

注意: 各ユーザーアカウントは1つのグループにしか所属することができません。

8. KVMポートのアクセス権限をそのユーザーに与える場合は、p.83の「ユーザー単位でのポートアクセス権限の管理」をご参照ください。
9. 「**Save**」ボタンをクリックしてください。新しく追加されたユーザーが「**User Management**」画面に表示されます。



Select	Username	Group
☒	jbrown	tech doc

ユーザーの編集

ユーザーアカウントを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「User Management」画面を開いてください。



The screenshot shows the 'User Management' interface. It features a table with three columns: 'Select', 'Username', and 'Group'. The 'Select' column contains radio buttons for each user. The 'Username' column lists names like 'billb', 'bilt', 'dustin', etc. The 'Group' column lists departments like 'accounting', 'production', 'purchasing', etc. The radio button for 'jbrown' is selected and circled in green. Below the table, there are three buttons: 'Add', 'Modify' (circled in red), and 'Delete'.

Select	Username	Group
☐	billb	accounting
☐	bilt	production
☐	dustin	purchasing
☐	fernando	tech doc
☐	hingdi	marketing
☒	jbrown	tech doc
☐	jeffrey	production
☐	josiah	helpdesk
☐	megan	production
☐	michael	sales
☐	mike	computing
☐	opal	finance
☐	rebekah	admin dept
☐	rhonda	helpdesk
☐	robert	tech doc
☐	sam	sales
☐	sharon	legal

Buttons: Add, Modify, Delete

3. 編集対象となるユーザーアカウントをラジオボタンで選択し、「Modify」ボタンをクリックしてください。「User Information」画面が表示されます。

4. ユーザーアカウントの設定を編集してください。(パスワードを変更しない場合は、パスワードの欄に何も入力しないでください。)

注意: ユーザーのパスワード、アカウントタイプ、所属グループを編集した場合、そのユーザーのセッションは自動的に終了します。

5. 「Save」ボタンをクリックしてください。ユーザーアカウント情報が更新されます。

ユーザーの削除

ユーザーアカウントを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「User Management」画面を開いてください。

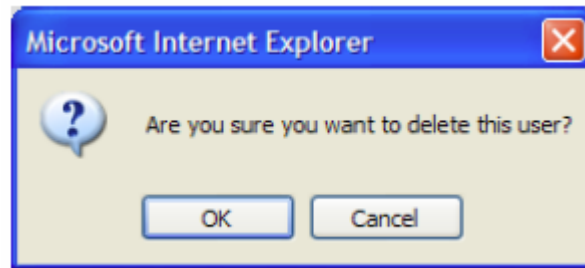


The screenshot displays the 'User Management' interface. It features a table with three columns: 'Select', 'Username', and 'Group'. The table lists 20 users. The 'Select' column contains radio buttons, with the button for 'jbrown' highlighted by a green circle. Below the table, there are three buttons: 'Add', 'Modify', and 'Delete'. The 'Delete' button is circled in black.

Select	Username	Group
☐	bilb	accounting
☐	bilt	production
☐	dustin	purchasing
☐	fernando	tech doc
☐	hingdi	marketing
☒	jbrown	tech doc
☐	jeffrey	production
☐	joshiah	helpdesk
☐	megan	production
☐	michael	sales
☐	mike	computing
☐	opal	finance
☐	rebekah	admin dept
☐	rhonda	helpdesk
☐	robert	tech doc
☐	sam	sales
☐	sharon	legal

Buttons: Add, Modify, Delete

3. 削除対象となるユーザーをラジオボタンで選択し、「Delete」ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



4. 「OK」ボタンを押して、ユーザーネームを削除してください。この操作によって、先ほど選択したユーザーネームが「User Management」画面から削除されます。

ユーザー単位でのポートアクセス権限の管理

スーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターは、「User Information」画面においてユーザー単位でポートアクセス権限を管理することができます。（スーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターは KM0832 にカスケード接続された KVM スイッチを含めたすべての KVM ポートに対してアクセスが可能ですので、これらのユーザーに対してポートアクセス権限を設定する必要はありません。）

注意: グループ単位でのアクセス権限は、KM0832 にカスケード接続している KVM ポートに対して設定する必要はありませんが、KM0832 以外の KVM スイッチをカスケード接続している場合は、そのポートに権限を設定する必要があります。KM0832 以外の KVM スイッチ、もしくはマトリックスプラスにカスケード接続している KVM ポートに対してアクセス権限を設定する場合、そのアクセス権限はカスケード接続されているすべての KVM モジュールに適用されます。デ이지チェーン接続された KM0216 や KM0432 にもこれと同様のルールで権限が適用されます。

ユーザー単位で KVM ポートに対するアクセス権限を管理する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「User Management」画面で、アクセス権限を設定したいユーザーを一覧からラジオボタンで選択し、「Modify」ボタンをクリックしてください。「User Information」画面が表示されます。

Note	Port Path	Computer / Station	Not Assigned	No Access	View Only	Full Access
WIN 2003	01		☒	☐	☐	☐
	02		☒	☐	☐	☐
	03		☒	☐	☐	☐
	04		☒	☐	☐	☐

「User Information」画面には、お使いの KM0832 の構成におけるすべての KVM ポートが一覧表示されます。KVM ポートは、ルートステーション、デ이지チェーン接続またはカスケード接続されたステーションであるかにかかわらず、現在の構成における位置順に表示されます。

2. 各ポートに対して、そのユーザーのアクセス権限をラジオボタンで選択してください。

Note	Port Path	Computer / Station	Not Assigned	No Access	View Only	Full Access
WIN 2003	01		☐	☐	☐	☒
	02		☐	☐	☐	☒
	03		☐	☐	☒	☐
	04		☒	☐	☐	☐

3. 「Save」ボタンをクリックして、変更内容を反映させてください。
4. 変更内容を保存せずに終了する場合は、他のメニューまたはアイコンをクリックしてください。

ポートの管理

ユーザー単位およびグループ単位での KM0832 のポートアクセス権限は、ポート毎に行われますので、アドミニストレーターは、ユーザーがどの KVM ポートへのアクセスが可能で、それらの KVM ポートにどのようにアクセスするかを高度な方法で管理することができます。ユーザーによる KVM ポートへのアクセスを有効にするには、最初に各 KVM ポートへのユーザーアクセス権限を定義しなければなりません。デフォルトでは、すべてのスーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターが、全 KVM ポートに対してフルアクセス権限を持っています。

注意: ユーザーをグループに登録すると、一度にユーザーグループ全体にポートアクセス権限を設定することが可能になりますので、KVM ポートの設定が簡単になります。

このセクションでは、以下の操作方法について説明します。

- ◆ ユーザーおよびグループ単位でのポートアクセス権限の設定
- ◆ KVM ポートの設定および KVM ポートへの名前の割り当て
- ◆ KVM ポートのデフォルト値のリストア

ポートへのアクセス

お使いのステーションにおけるすべての KVM ポートは「Port Select」画面で一覧表示されます。

「Port Select」画面を表示する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. ツリービューから、対象となるステーションをクリックしてください。

3. 「ADMINISTRATION」メニューから、「Port Management」を選択してください。選択されたステーションの「Port Select」画面が表示されます。

Port Select	
Port ID	Port Note
IO-PORT1	Mail Server 1
IO-PORT2	Mail Server 2
IO-PORT3	Win 2K AS
IO-PORT4	Web Server 1
IO-PORT5	Web Server 2
IO-PORT6	finance
IO-PORT7	legal

「Port Select」画面の一覧は2列から構成されており、ポートIDまたはポートナンバーは左側の列に昇順で表示されます。ポートIDをクリックすると、そのKVMポートの「Port Management」画面にアクセスすることができます。KVMポートに名前が設定されている場合は、その名前が「Port ID」の右側にある「Port Note」という列に表示されます。

ポートアクセスの管理

「Port Management」画面から、各KVMポートに対して、ポートアクセス権限の設定、ポートネームの設定、およびその他のポート設定の変更を行います。カスケード接続されているステーションのKVMポートも同様の方法で設定を行います。（「User Information」画面からポートにユーザーを直接追加する場合は、p.83の「ユーザー単位でのポートアクセス権限の管理」をご参照ください。また、「Group Information」画面からポートをグループに直接追加する場合は、p.73の「グループ単位でポートアクセス権限の管理」をご参照ください。）

KVM ポートの「Port Management」画面を開く場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. メイン画面左側にあるKM0832 のツリーで、コンピュータのアイコンをクリックしてください。各コンピュータのアイコンはKM0832 のKVMポートに対応しています。そのポートの「**Port Management**」画面が表示されます。（コンピュータアイコンの使用に関する詳細はp.60をご参照ください。）または、「**Port Select**」画面を開いて、手順 3 に進んでください。

3. 「Port ID」の列で、ポートID をクリックして、その KVM ポートの「Port Management」画面を開いてください。以下のような「Port Management」画面が表示されます。

Port Management

IO_PORT1

Port Access

Available Users:

No Access Users:

View Only Users:

Full Access Users:

JOEL
dustin
josiah

Available Groups:

accounting
admin dept
computing
finance
helpdesk
legal
marketing
production
purchasing
sales

View Only Groups:

Full Access Groups:

Port Settings

Port Note:

OS Language:

Port OS:

Save

注意: デイジーチェーン接続されたKM0216 およびKM0432 では、ポートを個別に管理することができませんので、画面上に「Port Settings」の部分しか表示されません。スイッチの構成全体に対するアクセスは「Group Management」(p.69参照)および「User Management」(p.75参照)の各画面で行います。

ユーザーやグループ単位でのポートアクセス権限の管理は「Port Management」画面の「Port Access」の部分を使って行います。Web 画面の左側にあるボックスには、現在登録されているユーザーおよびグループがすべて表示されます。右側にあるボックスはポートアクセス権限を決定します。

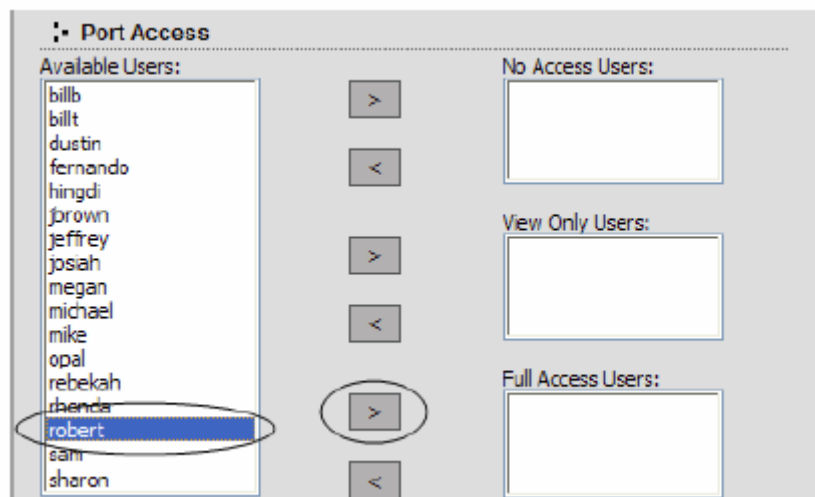
画面中央には、「>」ボタンと「<」ボタンの組み合わせが縦に5つ並んでおり、それぞれ、そのボタンの右側と左側のボックスに対して操作を行います。「>」ボタンを押したときにはアイテムを右側に、また、「<」ボタンを押したときにはアイテムを左側に移動させます。これらのボックスの機能は下表のとおりです。

ボックス	説明
Available Users	KVM ポートに対するアクセス権限が設定されていないユーザーを一覧表示します。
Available Groups	KVM ポートに対するアクセス権限が設定されていないグループを一覧表示します。
No Access Users	KVM ポートに対するアクセスが制限されているユーザーを一覧表示します。このボックスに一覧表示されているユーザーが、そのポートへのアクセス権限を持つグループのメンバーである場合、このボックスにそのユーザーを移動させることでその KVM ポートへのアクセスを制限します。
View Only Users	その KVM ポートの出力画面の参照が許可されたユーザーを一覧表示します。
Full Access Users	その KVM ポートの出力画面の参照および操作が許可されたユーザーを一覧表示します。その KVM ポートが KVM スイッチをカスケード接続している場合、そのユーザーは個々の KVM ポートにアクセス権限が付与されるまでそのステーションの KVM ポートにはアクセスすることができません。
View Only Groups	その KVM ポートの出力画面の参照が許可されたグループを一覧表示します。
Full Access Groups	その KVM ポートの出力画面の参照および操作が許可されたグループを一覧表示します。その KVM ポートが KVM スイッチをカスケード接続している場合、そのグループは個々の KVM ポートにアクセス権限が付与されるまでそのステーションの KVM ポートにはアクセスすることができません。

-
- 注意:**
1. 1 つの KVM ポートに追加できるユーザー数およびグループ数は、それぞれ最大 32 です。32 を超えるユーザーを KVM ポートに追加する必要がある場合は、まずユーザーをグループに登録し、その後でそれらのグループを KVM ポートに登録してください。
 2. ユーザーは同一 KVM ポートに対してユーザー単位のアクセス権限とグループ単位のアクセス権限の両方が付与されると、ユーザー単位のアクセス権限が優先的に適用され、グループ単位でのアクセス権限は無効になります。
-

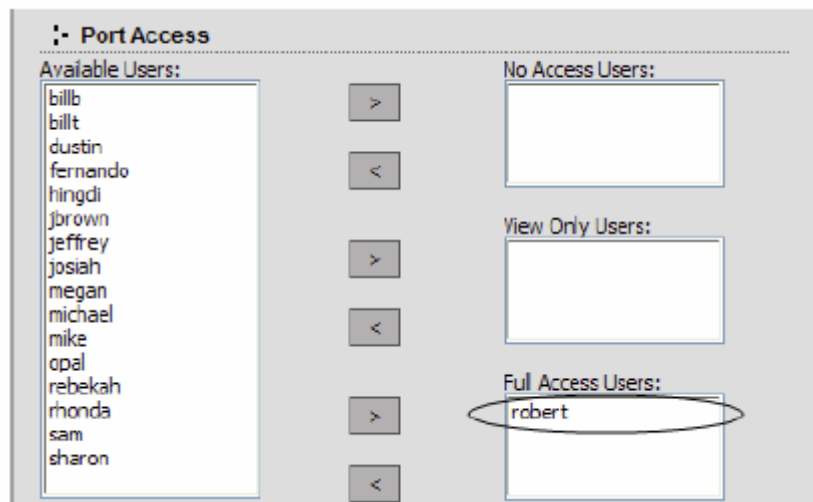
ポートアクセス権限をユーザーまたはグループに設定する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティのメイン画面が表示されます。
2. アクセス権限を設定する KVM ポートの「Port Management」画面を開いてください。



3. ユーザー別に権限設定を行う場合は「**Available Users**」ボックスで、対象となるユーザーネームを選択してください。また、グループ別に権限設定を行う場合は「**Available Groups**」ボックスで、対象となるグループネームを選択してください。

設定したいアクセス権限のボックスに対応した「>」ボタンをクリックして、ユーザー（またはグループ）をその権限のボックスに移動させてください。



他のユーザーやグループにもアクセス権限を設定する場合は、手順 2～3 の操作を繰り返してください。

もし、ユーザーやグループの権限を誤って設定した場合は、右側のボックスからそのユーザーネーム（またはグループネーム）を選択して、「<」ボタンをクリックしてください。選択されたユーザー（またはグループ）が右側の権限リストボックスから消え、元の位置に戻ります。

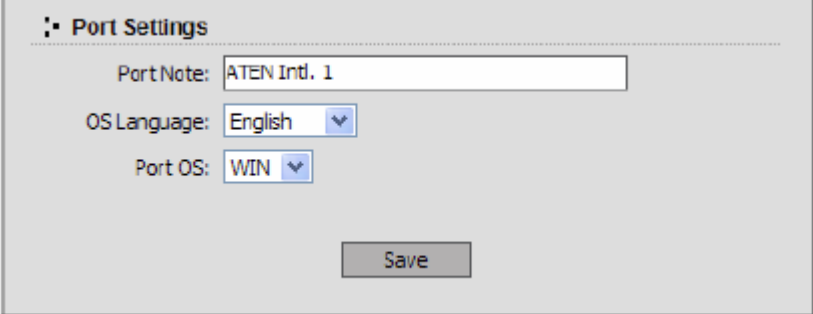
4. 「**Save**」ボタンをクリックしてください。選択されたユーザー（またはグループ）にその権限が付与されます。

カスケード接続の構成

スーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターは、お使いの KM0832 の構成におけるすべての KVM ポートに対してフルアクセス権限を持っています。これ以外のユーザーやグループに対しては、KVM ポートに対するアクセス権限を設定しなければなりません。KM0832 をカスケード接続しているポートにはユーザーやグループのアクセス権限を設定する必要はありませんが、KM0832 以外の KVM スイッチをカスケード接続している場合は、そのポートに対してアクセス権限を設定しなければなりません。マトリックスプラスをカスケード接続している KVM ポートにアクセス権限を設定した場合、そのアクセス権限はデ이지チェーン接続の構成におけるすべての KVM モジュールに対して適用されます。

ポート設定の変更

ポート設定を変更する前に、まず、設定を変更する KVM ポートの KVM モジュールが製品リアパネルの適切な KVM ポートに接続されていることを確認してください。なお、「Port Management」画面の下部における設定項目は、下図のとおりです。



Port Settings

Port Note:

OS Language:

Port OS:

項目	説明
Port Note	この項目にはポートノートを入力します。最大半角 15 文字で、英字（大文字、小文字ともに可）、数字、スペース、ハイフンを使って設定してください。また、この項目は他ポートのポートノートと重複しないように設定してください。このポートノートは「Port Status」画面および「Port Select」画面、コンピュータアイコンの隣にある KM0832 ツリー、および OSD で使用されます。 注意: ポートノートにスペースを使用すると、ブラウザによってはそのポートノートが複数行にわたって表示される場合があります。 ◆ KVMポートがKM0832 にカスケード接続されている場合、そのポートノートはカスケード接続されたKM0832 にステーションネームに置き換わります。ステーションネームの変更については p.62「ステーションネームの設定」をご参照ください。 ◆ KM0832 以外の KVM スイッチ、またはコンピュータが KVM モジュールを使って KVM ポートに接続している場合、そのポートノートは変更することができます。KVM スイッチまたはスイッチに接続されたコンピュータの位置が変更された場合、新しい KVM ポートのポートノートは KVM モジュールに保存されているポートノートに自動的に変更されますが、古い KVM ポートのポートノートは手動で削除しなければなりません。 ◆ KVM ポートに何も接続されていない場合、ポートノートは変更することができますが、カスケード接続された KVM スイッチや KVM モジュールがそのポートに後から接続された場合、そのポートノートは KVM モジュールに保存されているポートノートに変更されます。
Keyboard Layout (OS Language)	このポートに割り当てられたコンピュータにアクセスする際に使用するキーボードのレイアウトを設定します。KM0832 では、英語（アメリカ）、日本語、フランス語の各キーボードレイアウトに対応しています。この設定を適切に行うことによって、入力された文字が正しく表示され、レイアウトを日本語に設定した場合は、日本語キーボードの特殊キーもお使いいただけるようになります。

（表は次のページに続きます）

項目	説明
Keyboard (Port OS)	このポートに接続されたコンピュータにアクセスする際に使用するキーボードのモデルを設定します。KM0832 では、IBM PC (101/104 キー)、Apple、Sun の各キーボードモデルに対応しております。この設定を適切に行うことによって、Apple および Sun キーボードの特殊キーもお使いいただけるようになります。

KVMポートデフォルト値のリストア

「Port Select」画面の下部にある「Restore Defaults」ボタンをクリックすることで、KVMポートのデフォルト値をリストアすることができます。KVMポートのデフォルト値をリストアすると、ユーザーおよびグループに対するポートアクセス権限は無効になり、ポートノートおよびパーソナルビューへのショートカットは削除され、「Port Operating System」および「Port Language」の設定は工場出荷時のデフォルト設定値に戻ります。(p.170「工場出荷時における初期設定一覧」参照)

カスケード接続された機器構成では、一度に最大 2 段階の KVM スイッチまで KVM ポートのデフォルト値をリストアすることができます。2 段階を超える KVM スイッチに KVM ポートのデフォルト値をリストアしたい場合は、デフォルト値のリストア対象となる 3 段階目の KVM スイッチで同様の作業を行ってください。このとき、KVM ポートのデフォルト値が 4 段階目の KVM スイッチまでリストアされます。

デ이지チェーン接続された機器構成では、一度に 1 台のステーションの KVM ポートのデフォルト値をリストアします。

KVM ポートのデフォルト値をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. ツリービューで、KVM ポートのデフォルト値をリストアしたいステーションを選択してください。
3. 「ADMINISTRATION」メニューから、「Port Management」を選択してください。そのステーションの「Port Select」画面が表示されます。
4. 「Restore Defaults」をクリックしてください。選択されたステーション(カスケード接続している場合は次の段階のステーションも含む)に KVM ポートのデフォルト値がリストアされます。

OSDビューの設定

ユーザーアカウントを作成すると、これらのユーザーは KM0832 アドミニストレーターユーティリティにログインすることができるようになります。ユーザーは、自身が使用する OSD 画面の設定を変更することが可能です。ユーザーが設定可能な項目は、OSD ポート一覧に表示される KVM ポートの選択、ポート ID 表示方法、表示位置や表示時間、およびスキャンモードの対象となるコンピュータの種類とスキャン時間です。(OSD については第 5 章で説明します。)

このビューを開く場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティのメイン画面が表示されます。
2. 「View」メニューをクリックすると、下図のような「View」ページが表示されます。

The screenshot shows a web-based configuration interface titled "View". It contains several sections for configuring the OSD (On-Screen Display) settings:

- View Mode (OSD):** Three radio button options: "Personal", "Accessible", and "Accessible + Powered". The "Accessible + Powered" option is selected.
- Set Port ID:** Two dropdown menus. "Tag Mode" is set to "ID + Port Name" and "ID Position" is set to "Upper left".
- Display Duration:** Two radio button options: "Always On" and "User Defined". The "User Defined" option is selected, with a text input field showing the value "3" followed by "second(s)".
- Set Scan:** A text input field for "Scan Timer" showing the value "5" followed by "second(s)". Below it, "Scan Mode" has three radio button options: "Personal", "Accessible", and "Accessible + Powered". The "Accessible + Powered" option is selected.

A "Save" button is located at the bottom right of the form.

View Mode

OSD 機能の大半は、OSD メイン画面に現在表示されているコンピュータのみを対象に実行されます。一覧表示する KVM ポートの範囲を変更する場合は、この機能をご利用ください。各サブメニューとその内容は下表のとおりです。

項目	内容
Personal	そのユーザーが「personal」に設定したKVMポートがOSDに一覧表示されます。詳細はp.137の「SET PERSONAL VIEW」をご参照ください。
Accessible	そのユーザーがアクセス可能なKVMポートのみがOSDに一覧表示されます。詳細はp.87の「ポートアクセスの管理」をご参照ください。
Accessible + Powered	そのユーザーがアクセス可能で、かつ、接続されているコンピュータに電源が入っている KVM ポートのみが OSD に一覧表示されます。

Set Port ID

ユーザーが OSD から KVM ポートを切り替えると、ポート ID が画面上に表示されます。以下はポート ID 表示に関する設定項目です。

項目	内容
Tag Mode	ポート ID の表示方法を選択します。選択できる項目は以下のとおりです。 ID : ポートナンバーのみを表示 Port Name : ポートノートのみを表示 ID + Port Name : ポートナンバーとポートノートの両方を表示 デフォルトでは「ID + Port Name」に設定されています。
ID Position	モニタ上におけるポート ID の表示位置を設定します。デフォルトでは、左上に表示されますが、このリストを使うことで表示位置を変更することが可能です。リストから「Other」が選択されると、表示位置は変更することができなくなります。

Display Duration

この項目では、KVM ポートが変更された後に画面上にポート ID を表示しておく時間の長さを設定します。以下は各設定内容の詳細です。

項目	内容
Always On	常にポート ID を表示します。
User Defined	ここで指定された秒数 (1~240 秒) の間、ポート ID が画面上に表示されます。デフォルトでは 3 秒に設定されており、0 を設定するとこの機能が無効になります。

Set Scan

オートスキャンモードで参照するKVMポートと、それらのポートをオートスキャンモードでアクセスした際に画面上に表示する時間を設定します。

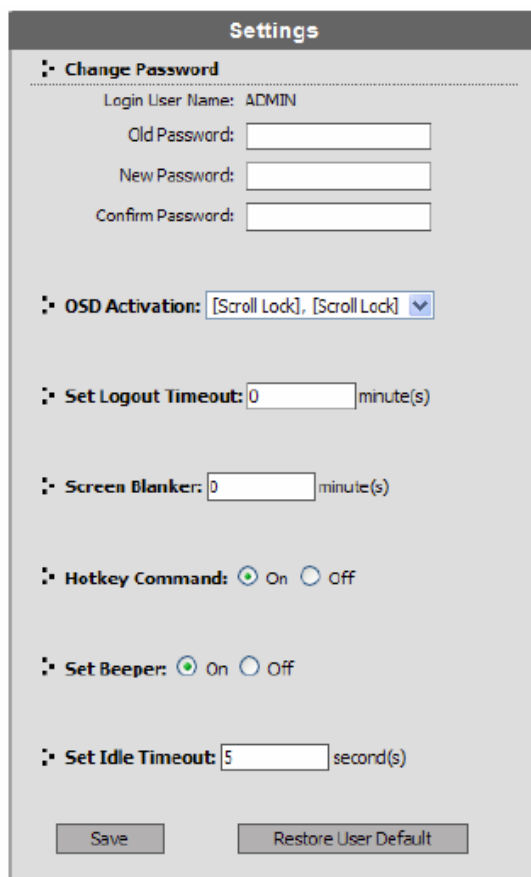
項目	内容
Scan Timer	オートスキャンモード起動時に、各ポートを表示する時間を設定します。(p.156「F7 SCAN」参照)0～240 秒の範囲でこの項目を設定してください。デフォルトでは 5 秒に設定されています。また、0 を設定すると、オートスキャンモードが起動した際に、KM0832 は自動的にスキップモードを開始します。
Scan Mode	オートスキャンモード時にアクセスの対象となるコンピュータを選択します。(p.156「F7 SCAN」参照)設定できる項目は以下のとおりです。 Personal: そのユーザーが「personal」に設定したKVMポートのみを対象にします。(p.137「SET PERSONAL VIEW」参照) Accessible: そのユーザーがアクセスを許可されたKVMポートのみを対象にします。(p.87「ポートアクセスの管理」参照) Accessible + Powered: そのユーザーがアクセスを許可されており、かつ、電源が入ったコンピュータが接続されている KVM ポートのみを対象にします。 デフォルトでは「Accessible + Powered」が選択されています。

OSDにおけるユーザー設定の変更

この機能を使うと、ユーザーはアカウントパスワードの変更や、個別の作業環境の定義を行うことができます。ユーザー別のプロフィールは OSD によって保存され、ログイン時に使用されるユーザーネームに基づいて、そのユーザーの作業環境を構築します。

「Settings」画面を表示する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「**SETTINGS**」メニューをクリックしてください。以下のような「**Settings**」画面が表示されます。（この画面における各項目については次のページで詳しく説明します。）



The screenshot shows a 'Settings' window with a dark title bar. Below the title bar, there is a section titled 'Change Password' with a dashed line separator. This section contains four input fields: 'Login User Name' (pre-filled with 'ADMIN'), 'Old Password', 'New Password', and 'Confirm Password'. Below this is a section titled 'OSD Activation' with a dropdown menu showing '[Scroll Lock], [Scroll Lock]'. The next section is 'Set Logout Timeout' with a text input field set to '0' and the unit 'minute(s)'. This is followed by 'Screen Blanker' with a text input field set to '0' and the unit 'minute(s)'. The 'Hotkey Command' section has two radio buttons, 'On' (selected) and 'Off'. The 'Set Beeper' section also has two radio buttons, 'On' (selected) and 'Off'. The 'Set Idle Timeout' section has a text input field set to '5' and the unit 'second(s)'. At the bottom of the window are two buttons: 'Save' and 'Restore User Default'.

項目	内容
Change Password	「Old Password」の欄に変更前のアカウントパスワード、「New Password」と「Confirm Password」の各欄に新しいパスワードを入力してください。パスワードは空白で設定することもできます。また、パスワードを変更しない場合は、これらの欄に何も入力しないでください。
OSD Activation	OSD 機能を有効にするホットキーを選択してください。選択できるホットキーは以下のいずれかです。 [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] [Ctrl]キーの組み合わせは、お使いのコンピュータにインストールされているアプリケーションの操作と競合する可能性がありますので、デフォルトでは[Scroll Lock] [Scroll Lock]に設定されています。
Set Logout Timeout	この機能によって、非アクティブなユーザーが OSD でタイムアウトになる時間(分)を設定することができます。ユーザーからの入力がないまま、ここで設定された時間が経過すると、そのユーザーは自動的にログアウトします。この値を 1～180 分の範囲で入力し、「 Save 」ボタンをクリックしてください。0 を入力するとこの機能を無効にします。デフォルトでは 0(無効)に設定されています。
Screen Blanker	KVM コンソールからの入力がないまま、この機能で設定された時間が経過すると、スクリーンが空白になります。この値を 1～30 分の範囲で入力し、「 Save 」ボタンをクリックしてください。デフォルトでは 0(無効)に設定されています。
Hotkey Command	コンピュータで起動しているアプリケーションとホットキーが競合した場合でも対処できるように、ホットキーコマンド機能を有効/無効にします。デフォルトでは有効に設定されています。
Set Beeper	ONに設定されると、KVMポートの切替時、オートスキャンモードの起動時(p.156参照)、OSDメニューでの無効データの入力時にそれぞれビーブ音が鳴ります。デフォルトではONに設定されています。

(表は次のページに続きます)

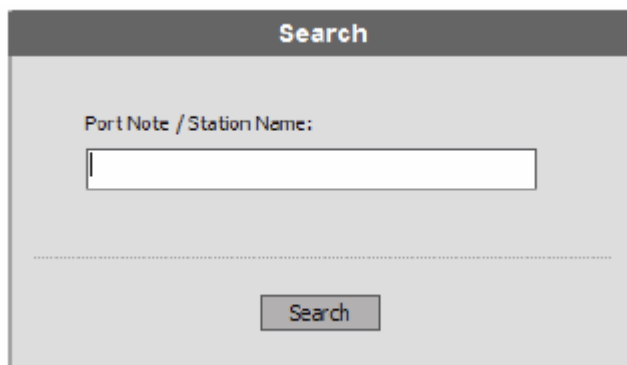
項目	内容
Set Idle Timeout	KVM ポートにアクセスしている KVM コンソールからの入力がないまま、この機能で設定された時間が経過すると、KVM ポートが解放され、他の KVM コンソールによるアクセスが可能になります。 0～240 秒の範囲でこの値を入力し、「Save」ボタンをクリックしてください。 0 を入力するとこの機能を無効にします。また、デフォルトでは 5 秒に設定されています。
Restore User Default	工場出荷時におけるデフォルト値をリストアします。リストアの対象となる項目は以下のとおりです。 ● 「View Mode (OSD)」 ● 「Set Port ID」 ● 「Display Duration」 ● 「Set Scan」 ● 「OSD Activation」 ● 「Set Logout Timeout」 ● 「Screen Blanker」 ● 「Hotkey Command」 ● 「Set Beeper」 ● 「Set Idle Timeout」

ポートとステーションの検索

ポートやステーションの名前の文字列の全部または一部を指定して、お使いの KVM スイッチの構成における KVM ポートやカスケード接続されたステーションを検索することが可能です。

KVM ポートを検索する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリーのメイン画面が表示されます。
2. 「**Search**」メニューをクリックしてください。以下のような「**Search**」画面が表示されます。



3. 「**Port Note / Station Name**」の欄にポートノートまたはステーション名前を入力してください。この欄には半角の英字(大文字、小文字ともに可)、数字、スペース、ハイフンを入力することができます。この欄に何も入力されなかった場合、お使いの構成におけるすべての KVM ポートが一覧表示されます。
4. 「**Search**」ボタンをクリックしてください。入力された文字列に一致、または、その文字列を含むエントリがリストに表示されます。

ファームウェアのアップグレード

スーパーアドミニストレーターは、KM0832、およびスイッチに接続されているコンソールモジュール(ただし KA9233 を除く)、KVM モジュールやマトリックスプラスの各ファームウェアをアップグレードすることができます。KM0832 のファームウェアは、最新版がリリースされると弊社 Web サイトからダウンロードできるようになります。弊社 Web サイトに定期的にアクセスしていただき、ファームウェアの最新版がリリースされていればその都度お使いの KM0832 に適用してください。

パッケージのダウンロード

ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードする場合は、以下の手順で操作してください。

1. お使いの KM0832 の構成に接続されていないコンピュータから弊社 Web サイトにアクセスし、型番リストから KM0832 を選択してください。本製品のファームウェアアップグレードパッケージが表示されます。
2. お使いの KM0832 に適用するファームウェアアップグレードパッケージ(通常は最新版)を選択し、お使いのコンピュータにダウンロードしてください。ファームウェアのバージョン毎に、2 種類のファームウェアアップグレードパッケージを提供しております。
 - ◆ 現在お使いの構成におけるすべてのスイッチに対してファームウェアを適用したい場合は、「FW」という拡張子がついたファームウェアアップグレードパッケージを選択してください。(このパッケージを使ってファームウェアをアップグレードする場合は、p.106 の「アドミニストレーターユーティリティを使用したアップグレード」をご参照ください。)

注意: 「FW」という拡張子が付いたパッケージを使用すると、KM0832 および KM0832 に接続されたコンソールモジュール (KA9233 を除く)、KVM モジュール、マトリックスプラスのみがファームウェアアップグレードの対象となります。これ以外の KVM スイッチやコンソールモジュール、また、KVM モジュールは、種類に関わらず KM0832 からアップグレードすることはできません。このパッケージでファームウェアの更新ができないデバイスのファームウェアをアップグレードする場合は、各製品のユーザーマニュアルをご参照ください。

- ◆ 1 段階目のステーション (ルートステーション) である KM0832 のみをファームウェアアップグレードの対象にする場合は、「EXE」という拡張子のついたファームウェアアップグレードパッケージ (ファームウェアアップグレードユーティリティ) を選択してください。このパッケージは、1 段階の構成におけるアップグレード作業や、ファームウェアアップグレードに失敗して回復作業を行う際に使用します。(このパッケージを使用してファームウェアアップグレードを行う場合は、p.108 の「ファームウェアアップグレードユーティリティ」を使用したアップグレードをご参照ください。)

作業をはじめる前に

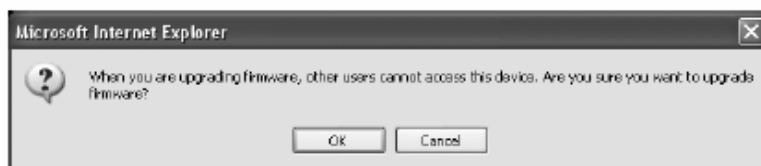
ファームウェアアップグレードを行う前に、以下の準備を行ってください。

- ◆ すべてのユーザーが OSD および KM0832 アドミニストレーターユーティリティを使用していないことを確認してください。使用中のユーザーがいる場合は、ログアウトするよう指示してください。
- ◆ 接続されているコンピュータにすべて電源が入っていることを確認してください。電源が入っていないと KVM モジュールがアップグレードできない場合があります。(ファームウェアアップグレードユーティリティを使用してファームウェアのアップグレードを行う場合、この内容は読み飛ばしていただいても構いません。)

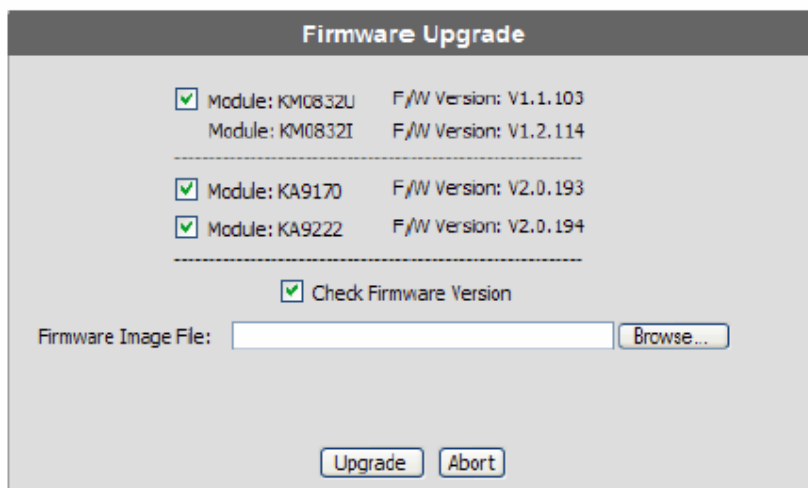
アドミニストレーターユーティリティを使用したアップグレード

お使いの KVM スイッチの構成において適用可能な全デバイスのファームウェアのアップグレードを行う場合は、以下の手順で操作してください。

1. ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードしたコンピュータで、Webブラウザを開き、KM0832 アドミニストレーターユーティリティにログインしてください。(p.56「ログイン」参照)
2. 「Upgrade」アイコンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



3. 「OK」ボタンをクリックして、ファームウェアアップグレードモードを開始してください。システム側でファームウェアアップグレードの準備が整うまで数分ほどかかることがあります。OSDでのセッションが有効なユーザーが存在する場合、そのユーザーにはログアウトを促すメッセージが表示されます。(一部の KVM コンソールは自動的にログアウトします。)
数分後に「Firmware Upgrade」画面が表示されます。この画面には、KM0832 とその他のモジュールの現在のファームウェアのバージョンが表示されます。



4. ファームウェアアップグレードの対象となるモジュールにチェックを入れ、アップグレードの対象外となるモジュールからはチェックをはずしてください。
5. 「Browse」(「参照...」) ボタンをクリックしてください。「ファイルの選択」ダイアログが表示されます。
6. ダイアログで、新しいファームウェアアップグレードパッケージファイルを保存したフォルダに移動し、そのファイルを選択して「Open」(「開く」) ボタンをクリックしてください。ファイルのパスおよびファイル名が「Firmware Image File」欄に表示されます。(ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロードがまだお済みでない場合は、p.104の「パッケージのダウンロード」をご参照ください。)
7. ファームウェアバージョンを確認するかどうかを選択してください。
 - ◆ 「Check Firmware Version」の項目にチェックを入れると、KM0832 アドミニストレーターユーティリティは、現在 KM0832 で使用されているファームウェアと新しいパッケージでバージョンの比較を行います。現在 KM0832 で使用されているファームウェアのバージョンと同じ、もしくは使用中のバージョンの方が新しい場合、ファームウェアアップグレードは中断され、KM0832 が自動的にリセットしてログイン画面に戻ります。
 - ◆ 「Check Firmware Version」の項目からチェックをはずすと、ユーティリティは KM0832 で使用されているファームウェアと、新しいパッケージのバージョンを比較せずにアップグレードファイルをインストールします。
8. ファームウェアのアップグレードを開始する場合は、「Upgrade」ボタンを、また、ファームウェアのアップグレードを中止する場合は、「Abort」ボタンをクリックしてください。操作を中止すると、KM0832 は自動的に再起動し、ユーザーに再ログインを促します。

注意: ファームウェアのアップグレード作業は、1 段階の構成の場合は 7 分ほど、また、カスケード接続の構成の場合は 17 分ほどの時間を要しますので、そのことを念頭において作業してください。

ファームウェアのアップグレードが完了すると、KM0832 は自動的にリセットし、ログイン画面に戻ります。

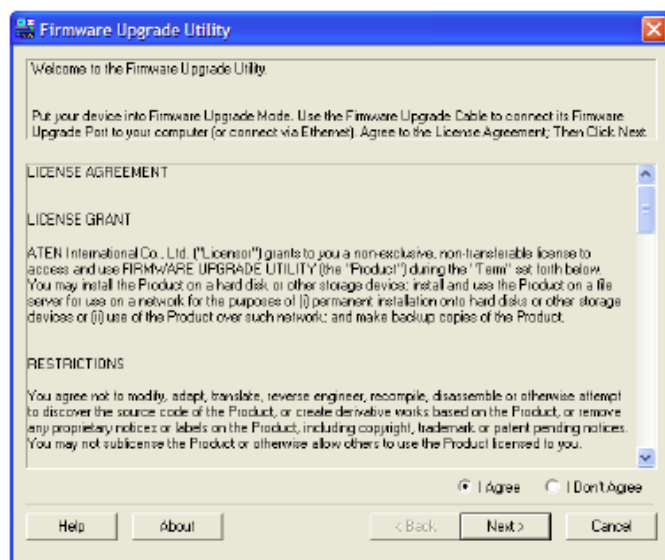
ファームウェアアップグレードユーティリティを使用したアップグレード

ファームウェアアップグレードユーティリティを起動する前に、ホストコンピュータおよび 1 段階目の KM0832 が同一のサブネット内にセットアップされており、ルーターやゲートウェイ、または、ファイアウォールによって物理的に切り離されていないことを確認してください。(ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロードがお済みでない場合は、p.104の「パッケージのダウンロード」をご参照ください。)

注意: カスケード接続している環境で、KM0832、コンソールモジュール、または KVM モジュールをお使いの場合、この方法で各デバイスのファームウェアをアップグレードすることはできません。

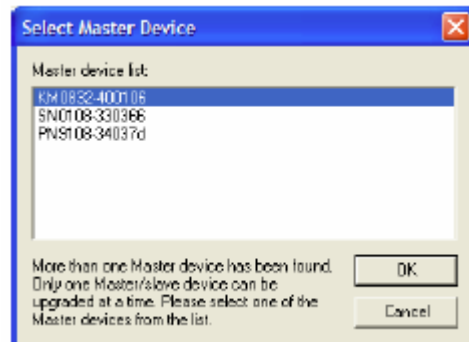
ファームウェアアップグレードユーティリティを使ってファームウェアをアップグレードする場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「KM0832 Firmware Upgrade Utility」アイコンをダブルクリックしてください。下図のような「Firmware Upgrade Utility」の初期画面が表示されます。

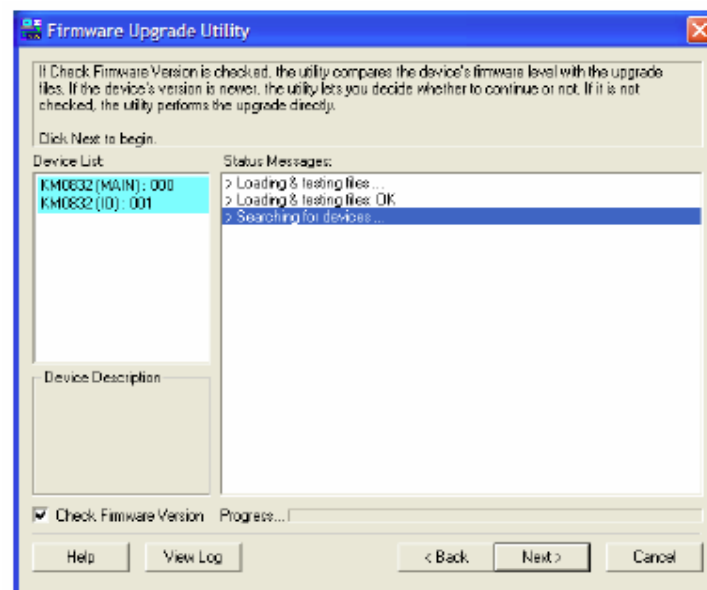


2. ダイアログに表示されている使用許諾契約をご確認いただき、「I Agree」ボタンを選択してください。

3. 「Next」ボタンを押して操作を続けてください。同一サブネットに複数台のマスターステーション(1段階目のステーション)がある場合は、下図のような「Select Master Device」ダイアログが表示されます。

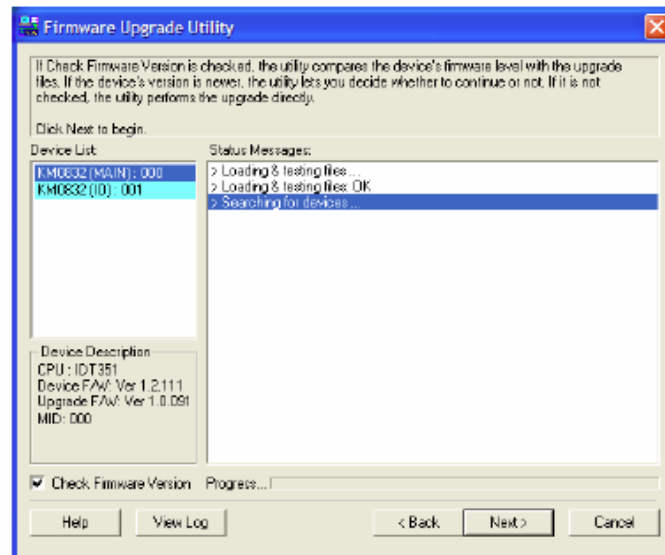


4. 新しいバージョンのファームウェアの適用対象となる KM0832 をリストから選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。「Firmware Upgrade Utility」のメイン画面が表示されます。

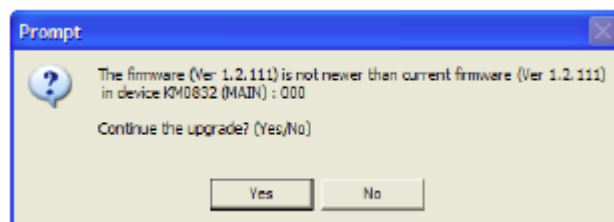


ユーティリティはお使いの KVM スイッチの構成を自動検出し、そのパッケージでアップグレードが可能なデバイスが「Device List」に表示されます。

5. 「Device Description」パネルにデバイス情報を表示する場合は、「Device List」からデバイスを選択してください。



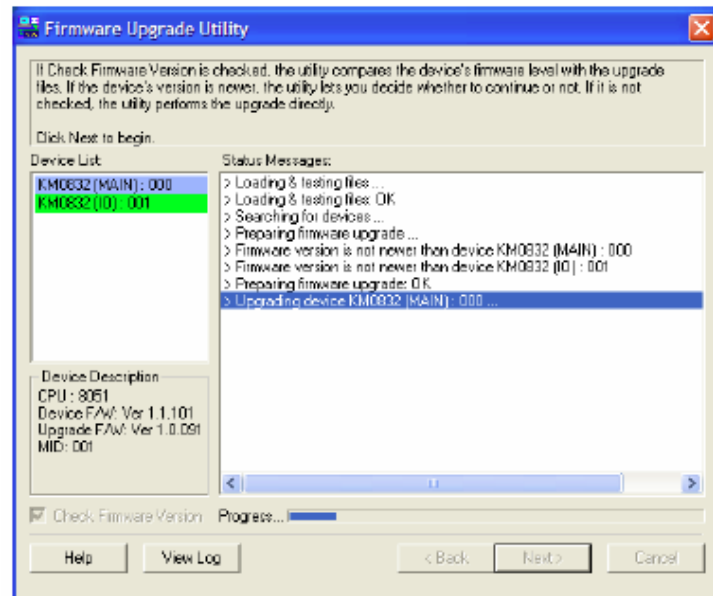
6. 現在 KM0832 で使用されているファームウェアと、新しいパッケージの間でバージョンの比較を行う場合は、「Check Firmware Version」の項目にチェックを入れてください。そのパッケージでアップグレードを開始する場合は、「Next」ボタンをクリックしてください。KM0832 で使用されているファームウェアのバージョンが、新しいパッケージのバージョンと同じ、もしくは使用中のバージョンの方が新しい場合、以下のようなダイアログが表示されます。



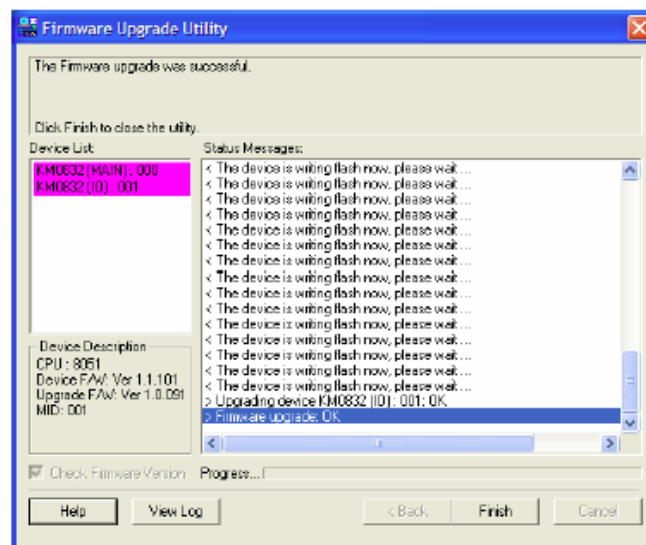
7. ファームウェアの再インストールを行う場合は「Yes」ボタンを、作業を中止する場合は「No」ボタンをクリックしてください。

ファームウェアバージョンの確認を行わない（「Check Firmware Version」の項目にチェックを入れない）場合、ファームウェアアップグレードユーティリティはバージョンの比較を行わずにアップグレードを開始します。

8. アップグレード処理の進捗状況は、「Status Messages」に表示されるメッセージと、ダイアログ下部にあるプログレスバーによって確認することができます。



9. アップグレードが正常に終了すると、下図のような画面が表示されます。



10. 「Finish」ボタンをクリックして、ファームウェアアップグレードユーティリティを終了してください。再インストールに成功すると、KVM スイッチはファームウェアアップグレードモードを終了します。

アップグレードに失敗した場合

デバイスがファームウェアのアップグレードに失敗した場合は、ファームウェアアップグレードの作業を最初からやり直してください。ファームウェアアップグレードに失敗し、KM0832 が正常に動作しなくなった場合は、以下の手順に従って回復作業を行ってください。

アップグレードに失敗した場合の回復作業

ファームウェアアップグレードの作業が停電等の理由で中断された場合、そのときにアップグレードしていた KVM スイッチの動作に異常が見られ、通常の方法ではアップグレードできなくなる場合があります。その場合は、以下の手順で回復作業を行ってください。

1. 1 段階目の KM0832 の電源を切ってください。このとき、このステーションにカスケード接続またはデ이지ーチェーン接続されているスイッチがある場合は、それらのスイッチの電源を切らないでください。
2. 製品リアパネルの「F/W UPGRADE」スイッチを、「RECOVER」の位置にスライドさせてください。
3. 1 段階目の KM0832 に電源を入れてください。
4. ファームウェアアップグレードユーティリティを使ってファームウェアをアップグレードしてください。(p.108「ファームウェアアップグレードユーティリティを使用したアップグレード」)
5. ファームウェアアップグレードの回復作業が完了すると、KM0832 は「ピー」というビープ音を鳴らします。
6. 製品リアパネルの「F/W UPGRADE」スイッチを、「NORMAL」の位置にスライドさせてください。この操作によってビープ音は止まります。
7. 1 段階目の KM0832 の電源を切った後、5 秒待機した後で KM0832 に再度電源を入れてください。
8. 最新のファームウェアを KM0832 に適用してください。(p.106「アドミニストレーターユーティリティを使用したアップグレード」参照) 手順 4 で既に最新版のファームウェアアップグレードを適用した場合、この手順は不要です。

親機のKM0832 と子機のKM0832 の入替

親機(1 段階目)の KM0832 と、子機(下位レベル)の KM0832 を入れ替えると、古い親機のシステム設定を保持するかどうかを問うメッセージが新しい親機側に表示されます。システム設定を保持する場合、既存のグループ、ユーザー、ポートノートはすべて保存されますが、日付や時刻、ステーションネーム、Web ページセッションタイムアウトといったシステム設定は保持されません。設定を保存しない場合、KM0832 のシステム設定は工場出荷時のデフォルトに戻ります。この作業が完了するまで、KM0832 にはアクセスできなくなりますので、ご注意ください。

ルートステーションとしてお使いの KM0832 を子機の KM0832 と交換する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティにログインしてください。システム設定を保持するかどうかを確認する Web ページが表示されます。
2. 古い親機のシステム設定を保持する場合は「**Yes**」を、また、システム設定を保持しないで工場出荷時におけるデフォルト設定に戻す場合は「**No**」をクリックしてください。
3. KM0832 は自動的にリセットし、ログイン画面に戻ります。ログイン画面が表示されたら、KM0832 にアクセスすることができます。

設定のバックアップとリストア

スーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターは KM0832 のシステム設定をファイル形式でバックアップし、必要なときにその内容をリストアすることができます。

システム設定のバックアップは、以下のようなケースで行うことを推奨します。

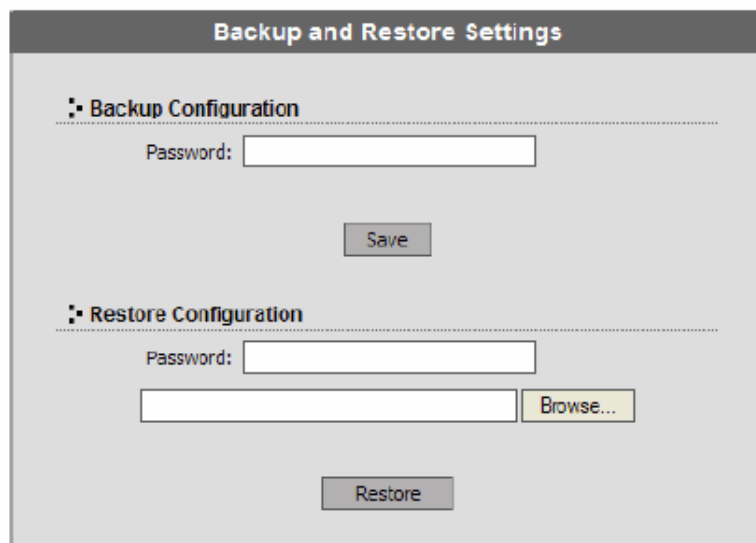
- ◆ デバイスの変更を行う前
- ◆ 別々の機器構成において複数台の KM0832 を導入しており、それらの KM0832 で同様のシステム設定を使用したい場合
- ◆ お使いの KM0832 に問題が発生し、交換する必要がある場合
- ◆ KM0832 を新しいバージョンにアップグレードする場合

システム設定を定期的にバックアップすることにより、システム障害によって、ファームウェアの再インストールが必要な場合でも素早く復旧することが可能です。

動作	説明
バックアップ	ルートステーションの設定、ユーザーやグループアカウント、ユーザープロフィール、ポートアクセス権限、およびショートカットのバックアップを作成します。
リストア	現在のルートステーションの設定、ユーザーやグループアカウント、ユーザープロフィール、ポートアクセス権限、ショートカットを削除し、コンフィグレーションバックアップファイルに保存された設定値をリストアします。

システム設定のバックアップを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティのメイン画面が表示されます。
2. 「Backup」アイコンをクリックしてください。以下のような「Backup and Restore Settings」画面が表示されます。



3. バックアップコンフィグレーションファイルをパスワード保護する場合は、「Backup Configuration」の「Password」の項目にそのパスワードを入力してください。保護しない場合は何も入力する必要はありません。この項目は半角英数字、記号またはスペースを使用してください。
4. 「Save」ボタンをクリックしてください。「File Download」（「ファイルのダウンロード」）画面が表示されます。
5. 「Save」（「保存」）ボタンをクリックしてください。「Save As」（「名前をつけて保存」）ダイアログが表示されます。
6. ファイルの保存先となるフォルダに移動し、「Save」（「保存」）ボタンをクリックしてください。バックアップコンフィグレーションファイルがそのフォルダに保存されます。

システムコンフィグレーションをリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティのメイン画面が表示されます。
2. 「**Backup**」アイコンをクリックしてください。「**Backup and Restore Settings**」画面が表示されます。
3. バックアップコンフィグレーションファイルがパスワード保護されている場合は、「**Restore Configuration**」の「**Password**」の欄にそのパスワードを入力してください。保護されていない場合は、この項目に何も入力する必要はありません。
4. 「**Browse**」(「参照...」)ボタンをクリックしてください。「**Choose file**」(「ファイルの選択」)ダイアログが表示されます。
5. コンフィグレーションバックアップファイルが保存されているフォルダに移動し、そのファイルを選択してください。ファイルを選択すると、ファイルのパスおよびファイル名が表示されます。
6. 「**Restore**」ボタンをクリックしてください。現在の設定が、バックアップコンフィグレーションファイルの内容に置き換わります。設定値がファイルの内容に置き換わると、KM0832 は再起動し、アクティブなセッションがある場合は、そのセッションを使用しているユーザーに対して、KM0832 の設定がリストアされたため、スイッチが再起動するという内容のメッセージが表示されます。

ユーザーセッションの参照と終了

KM0832 では、現在 KM0832 アドミニストレーターユーティリティーや OSD にログインしている全ユーザーおよび各ユーザーのセッション情報の詳細について一覧表示します。ユーザーアカウントが不正に使用されている場合や、別ユーザーが KM0832 アドミニストレーターユーティリティーにログインする必要がある場合に、スーパーアドミニストレーターは他のユーザーのセッションを参照したり、必要であればそれらを終了したりすることができます。スーパーアドミニストレーターは、また、全セッションが使用中でもアドミニストレーターユーティリティーにログインすることや、他ユーザーのセッションを終了することも可能です。

先に KM0832 アドミニストレーターユーティリティーにログインした 7 名のユーザーは、KM0832 に対して通常のアクセスができますので、これらのユーザーは自身に設定されている操作権限の範囲で KM0832 を利用することが可能です。7 ユーザーが同時にログインした場合、スーパーアドミニストレーターは他のユーザーのセッションを終了するために一時的にアクセスすることができます。(なお、一時アクセスは 10 分後にタイムアウトします。)KM0832 アドミニストレーターユーティリティーに同時アクセス可能な最大ユーザー数は 16 です。

現在ログインしているユーザーのセッションを参照する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「**Session**」アイコンをクリックしてください。KM0832 アドミニストレーターユーティリティーに対してアクティブなセッションを保持しているユーザー情報が、以下のような「**Active Sessions**」画面に表示されます。

Active Sessions								
Select	Username	Local User	Admin	Service	IP Address / OSD	Port	Login Time	Last Access
☒	JOSHUA	Yes	-	OSD	[400.106]5		14:47:23	14:47:23
☐	ADMIN	Yes	Yes	HTTPS	10.0.13.226	Local	14:47:55	14:48:06
End Session								

特定ユーザーのセッションを終了する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリーのメイン画面が表示されます。
2. 「Session」アイコンをクリックしてください。以下のような「Active Sessions」画面が表示されます。

Active Sessions								
Select	Username	Local User	Admin	Service	IP Address / OSD	Port	Login Time	Last Access
☒	JOSTIAH	Yes	-	OSD	[400106]5		14:47:23	14:47:23
☐	ADMIN	Yes	Yes	HTTPS	10.0.13.226	Local	14:47:55	14:48:06

End Session

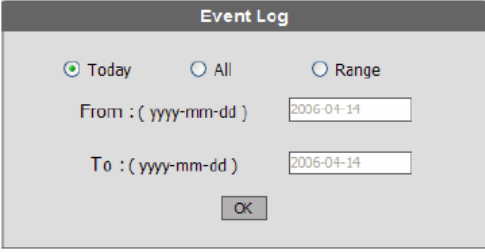
3. セッションを終了するユーザーを一覧からラジオボタンで選択し、「End Session」ボタンをクリックしてください。この操作によって、そのユーザーは KM0832 からログアウトし、ユーザーネームはこの一覧に表示されなくなります。
他のセッションも同時に終了する場合は、手順 3 の操作を繰り返してください。

ログファイルの参照と消去

ログファイルには KM0832 アドミニストレーターユーティリティーで発生したイベントが記録されます。このファイルには、システムブートや、システム設定に関する重要な変更が行われた際に、発生時刻とそのイベントの内容が記録されます。また、このファイルにはユーザーのログイン、ログアウトも記録され、この場合はユーザーがログインまたはログアウトした日時、ユーザーネーム、IP アドレスが記載されます。このログファイルの参照および消去はスーパーアドミニストレーターとアドミニストレーターに限定された機能です。

このログファイルを参照する場合は、以下の手順で操作してください。

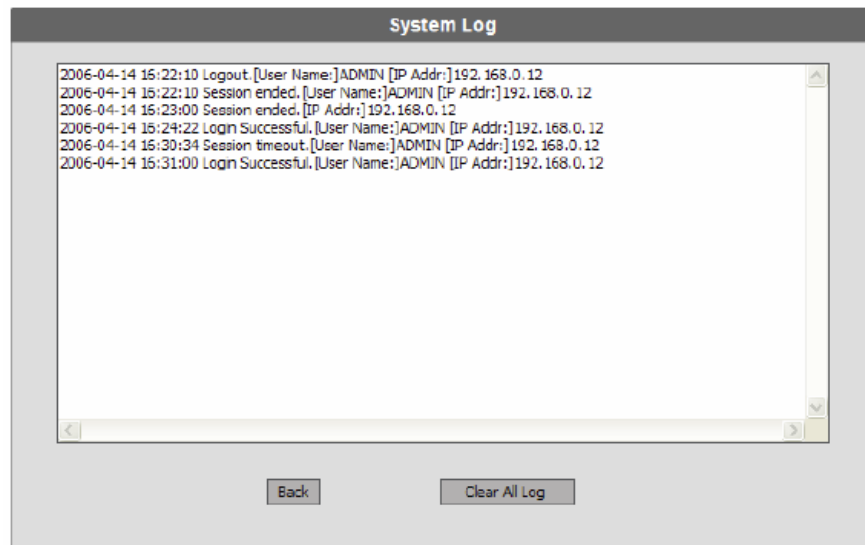
1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「Log」アイコンをクリックしてください。以下のような「Event Log」画面が表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Event Log". At the top, there are three radio buttons: "Today" (which is selected), "All", and "Range". Below these, there are two text input fields. The first is labeled "From : (yyyy-mm-dd)" and contains the date "2006-04-14". The second is labeled "To : (yyyy-mm-dd)" and also contains "2006-04-14". At the bottom center of the dialog is an "OK" button.

3. 参照するログファイルの内容は、以下の期間で絞りこんで表示できます。用途に応じて以下のオプションのうち 1 つを選択してください。
 - ◆ Today: 今日発生したイベントのみを確認する場合は、このオプションを選択してください。
 - ◆ All: ログファイルに記録されているすべてのイベントの内容を確認する場合は、このオプションを選択してください。
 - ◆ Range: 特定の期間におけるイベントの内容を確認する場合は、このオプションを選択してください。「From」欄には期間の開始日を、また、「To」欄には期間の終了日をそれぞれ入力してください。日付は半角数字で「yyyy-mm-dd」の形式で入力してください。月および日は 2 桁で表現する必要がありますので、1 桁の場合は先頭に 0 詰めしてください。例えば、「2005 年 12 月 5 日」の場合は「2005-12-05」と入力します。

4. 「OK」ボタンをクリックしてください。以下のような「System Log」画面が表示されます。



ログファイルは、「Event Log」画面で選択された条件に一致した KM0832 のシステムイベントを表示します。「Event Log」のメモリには最大 4096 のイベント情報が格納され、ログファイルに記録されているイベント数が最大に達すると、古いイベントの内容が切り捨てられ、新しい内容が追加されます。

注意: ログファイルのイベント数が最大に達している際に KM0832 が停電などによって急に電源が失われると、KM0832 が再起動した際には、直近 2048 のイベントの内容しか表示されませんので、ご注意ください。

5. 「Event Log」画面に戻る場合は、「Back」ボタンをクリックしてください。

ログファイルの内容を消去する場合は、以下の手順で操作してください。



一旦消去されたログファイルの内容は回復することはできませんが、これは、それ以降のログイベントに影響を与えるものではありません。

1. ログファイルを参照する場合の 1～4 の手順に従って操作を行ってください。
2. 「System Log」画面の下部にある「Clear All Log」ボタンをクリックしてください。ログファイルに記録されているイベントの内容がすべて消去されます。

システム情報の参照

スーパーアドミニストレーターは「System Information」画面を通じて、KM0832 に関する情報を参照することができます。この画面には、現在 KM0832 や KM0832 に接続されているモジュールで使用されているファームウェアのバージョン、システム時刻、ネットワーク設定、およびファイルシステムの内容が表示されます。

システム情報を参照する場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「ADMINISTRATION」メニューから、「**Super Adm Configuration**」→「**System Information**」を選択してください。以下のような「System Information」画面が表示されます。

System Information

Device: Model: KM0832
 1 Ethernet, 8 Console Ports, 32 IO Ports
 Session Timeout: 30 minute(s)
 MAC Address: 00:10:74:40:01:06

Firmware: Version: V1.2.116

System Time: 2007-01-08 10:16:44

Network Settings:
 DHCP Disabled
 IP Address: 10.0.100.228
 Subnet Mask: 255.255.255.0
 Gateway: 10.0.100.1
 Primary DNS: 0.0.0.0
 Alternate DNS: 0.0.0.0
 HTTP Port: 80
 HTTPS Port: 443
 System Event Report Settings: Enabled
 Mail Server: DESKMAIL.ATEN.COM
 SMTP Authentication Settings: Enabled

File System:
 7 Dir(s), 154 File(s)
 393017 bytes free

Memory:
 6702492 bytes free

Note	Port Path	Station ID	Computer/Station	Firmware
KM0832-01	R	0x400106	KM0832	V1.2.116
	R-MAIN			V1.2.116
	R-UART			V1.1.104
	R-Console5		KA9222	V2.1.203

3. 画面下部に表示されている内容は、スクロールバーを動かすことで参照できます。

ヘルプの参照

KM0832 アドミニストレーターユーティリティーの機能の大半はヘルプに記載されています。

ヘルプファイルを開く場合は、以下の手順で操作してください。

1. KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーにログインしていない場合は、KM0832 のログインページにアクセスしてログインしてください。KM0832 のアドミニストレーターユーティリティーのメイン画面が表示されます。
2. 「**Help**」アイコンをクリックしてください。「**KM0832 Help**」画面が表示されます。

ログアウト

KM0832 アドミニストレーターユーティリティーのセッションを終了する場合は「**Logout**」アイコンをクリックしてください。ユーザーがログアウトの操作を行わずにブラウザを閉じただけでは、そのユーザーのセッションは終了されません。この場合、5分経過するとそのセッションは自動的に終了します。セキュリティの観点から、ログアウトした後はお使いの Web ブラウザを一旦終了するか、ブラウザのキャッシュを消去することを推奨します。

第5章 OSD操作

注意: 以下の章では、KA9222AまたはKA9272Aを使用してアクセスした場合のKM0832のOSD操作について説明します。KA9233を使用した場合のOSD操作については、お手数ですがKA9233のユーザーマニュアルをご参照ください。

KM0832のOSDはGUIベースのメニュー形式で、マウスを使って操作できますので、コンピュータのアクセスや操作が簡単に素早く行えるだけでなく、アクセス権限やパスワードの設定といったユーザー管理等のシステム管理も効率的に行うことができます。OSDで加えられた変更は、KM0832アドミニストレーターユーティリティにも反映されます。

各OSDメニューオプションを使用することで、お使いのKM0832における操作の設定や管理を行うことができます。すべてのメニューはOSDメイン画面から開始します。

OSD画面を開く場合は、以下の手順で操作してください。

1. **[Scroll Lock]**キーを2回押してください。

注意: **[Scroll Lock]**キーはデフォルトのOSD起動用ホットキーですが、これは**[Ctrl]**キーに変更することも可能です。(詳細についてはp.140「OSD ACTIVATION」参照)

以下のようなログイン画面が表示されます。



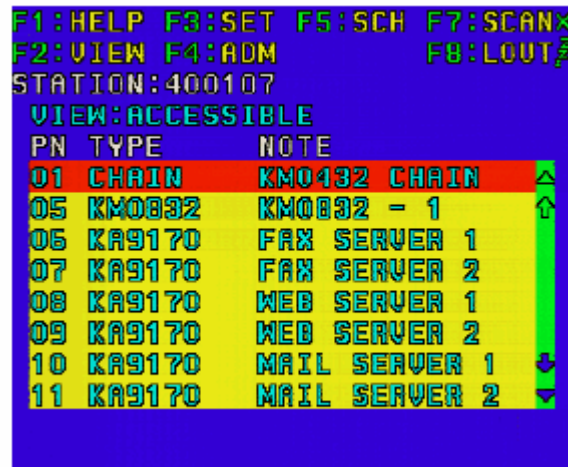
2. KM0832 で有効なユーザーネームとパスワードを入力し、[Enter]キーを押してください。

注意: KM0832 の OSD の初回ログイン時には、デフォルトのスーパーアドミニストレーターのアカウントを使用しなければなりません。デフォルトのユーザーネームは「ADMIN」、パスワードは「ADMIN」です。このアカウントは削除することができないユーザーで、ユーザーネームリストにも表示されません。このアカウントのユーザーネームを変更することはできませんが、パスワードは変更できます。お使いの KVM スイッチが権限のないユーザーに操作されるのを防ぐためにも、このアカウントのパスワードを初回ログイン後すぐに変更されることを推奨します。

KM0832 にログインすると、以下のような画面が表示されます。



3. [Enter]キーを押してください。以下のような画面が表示されます。



-
- 注意:**
1. 上図はスーパーアドミニストレーターでログインした際のメイン画面の例です。「F4」はスーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターに限定された機能で、通常のユーザーは利用できませんので、一般ユーザーのメイン画面にはこのメニューは表示されません。
 2. OSD を起動すると、前回 OSD を使用した際に最後に選択したポートが選択された状態で一覧画面が表示されます。
 3. 画面には、現在ログインしているユーザーがアクセス可能なKVMポートのみが表示されます。(ポートに対する権限はスーパーアドミニストレーターまたはアドミニストレーターによって設定されます。)(詳細についてはp.146「PORT ACCESS」参照)
 4. KM0832(または接続された KVM スイッチやモジュール)に対して KVM スイッチやコンピュータが追加、取り外し、再構築されると、その設定を自動認識し、ポート一覧を自動的に更新します。
-

OSDメイン画面における一覧の見出し

見出し	説明
PN	この列には、KM0832 の全 KVM ポートのポートナンバーが表示されます。カスケード接続またはデ이지チェーン接続された、特定の KVM スイッチまたはコンピュータにアクセスする場合は、ハイライトバーを目的のポートに移動させ、[Enter]キーを押してください。
TYPE	デ이지チェーン接続された KVM スイッチの場合は「CHAIN」という文字が、それ以外の場合は KVM スイッチや KVM モジュールに接続されたデバイスのモデルナンバーが表示されます。
NOTE	この列には、KM0832 に直接接続されたKVMポートのポートネームや、カスケード接続またはデ이지チェーン接続されたスイッチの名前が表示されます。(p.149「SET PC NOTE」、p.151「CREATE STATION NOTE」参照)

OSDナビゲーション

OSD メニューの操作方法是以下のとおりです。

- ◆ メイン画面を閉じて OSD を終了する場合は、OSD 画面右上にある「×」印をクリックするか、[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面上部にある「F8」をクリックするか、[F8]キーを押してください。
- ◆ 1 行ずつ上方向または下方向に移動する場合は、画面内に表示されている上向き(▲)または下向き(▼)の三角ボタンをクリックするか、キーボードの上方向または下方向のカーソルキーを使用してください。表示アイテムが多い場合、画面はスクロールします。
- ◆ ページ単位で画面を上方向または下方向にスクロールする場合は、画面内に表示されている上向き(↑)または下向き(↓)の矢印マークをクリックするか、キーボードの[Page Up]キーや[Page Down]キーを使ってください。表示アイテムが多い場合、画面はスクロールします。
- ◆ OSD で何らかの機能を使用して設定を行うと、自動的に 1 つ上のメニューに戻ります。

スイッチやコンピュータへのアクセス

コンピュータや、カスケード接続またはデイジーチェーン接続された KVM スイッチにアクセスする場合は、その項目をダブルクリックするか、ハイライトバーを目的の項目に移動させて [Enter] キーを押してください。

複数ユーザーが 1 つの KVM ポートに同時アクセスした場合、最初にその KVM ポートにアクセスしたユーザーに操作権限が与えられ、もう片方のユーザーはそのポートを参照することしかできません。1 人目のユーザーが操作を終了すると、2 人目のユーザーがそのポートを操作できるようになります。

1 段階構成の場合

KM0832 を 1 段階の構成でお使いの場合 (p.35 参照)、KM0832 にカスケード接続やデイジーチェーン接続する KVM スイッチはありません。ポート一覧には KM0832 の全ポートが表示されます。

カスケード接続の構成の場合

KM0832 をカスケード接続してお使いの場合 (p.38 参照)、デフォルトでは、ポートナンバーの隣にある「TYPE」列にカスケード接続されたスイッチのモデルナンバーが、モデルナンバーの隣にある「NOTE」列にステーションノート (あれば表示。詳細は p.151「CREATE STATION NOTE」参照) がそれぞれポート一覧に表示されます。

-
- | | |
|------------|--|
| 注意: | <ol style="list-style-type: none">1. 本製品は、最大 3 段階の KM0832 および 1 段階の KM0832 以外の KVM スイッチをカスケード接続に対応しております。2. カスケード接続されたスイッチから更に KVM スイッチをデイジーチェーン接続することはできませんので、ご注意ください。 |
|------------|--|
-

F1:HELP F3:SET F5:SCH F7:SCAN		
F2:VIEW F4:ADM F8:LOUT		
STATION:400107		
VIEW:ACCESSIBLE		
PN	TYPE	NOTE
01	CHAIN	KM0432 CHAIN
05	KM0832	KM0832 - 1
06	KA9170	FAX SERVER 1
07	KA9170	FAX SERVER 2
08	KA9170	WEB SERVER 1
09	KA9170	WEB SERVER 2
10	KA9170	MAIL SERVER 1
11	KA9170	MAIL SERVER 2

デイジーチェーン接続の構成の場合

KM0832 をデイジーチェーン接続してお使いの場合 (p.38参照)、デフォルトでは、ポート一覧の「TYPE」列に「CHAIN」という文字列が、また、ポート 01 の隣にある「NOTE」列に「KM0432 CHAIN」という文字列がそれぞれ表示されます。

-
- 注意:
1. 1 段階目の KM0832 から KM0216 のみがデイジーチェーン接続されている場合、「NOTE」列には「KM0432 CHAIN」という文字列が表示されます。
 2. デイジーチェーン接続されている構成では、KM0832 の KVM ポート 1～4 は使用できません。これらのポートに KVM スイッチや KVM モジュールを接続しないでください。
-

F1:HELP F3:SET F5:SCH F7:SCAN		
F2:VIEW F4:ADM F8:LOUT		
STATION:400107		
VIEW:ACCESSIBLE		
PN	TYPE	NOTE
01	CHAIN	KM0432 CHAIN
05	KM0832	KM0832 - 1
06	KA9170	FAX SERVER 1
07	KA9170	FAX SERVER 2
08	KA9170	WEB SERVER 1
09	KA9170	WEB SERVER 2
10	KA9170	MAIL SERVER 1
11	KA9170	MAIL SERVER 2

デイジーチェーン接続された KVM スイッチのポート一覧を参照する場合は、ポート 01 をダブルクリックするか、ハイライトバーをポート01に移動させ[Enter]キーを押してください。1段階目の KM0832 からは最大 7 台の KM0432 または KM0216 をデイジーチェーン接続することができます。

F1:HELP F3:SET F5:SCH F7:SCANX		
F2:VIEW F4:ADM F6:BCK F8:LCUT		
KM0432 CHAIN		
VIEW: ACCESSIBLE		
PN	TYPE	NOTE
01	KM0216	KM0216-S01
02	KM0216	KM0216-S02
03	KM0432	KM0432-S03
04	KM0216	KM0216-S04
05	KM0432	KM0432-S05
06	KM0216	KM0216-S06
07	KM0432	KM0432-S07

ポートIDの割り当て

スイッチの構成における各 KVM ポートにはそれぞれ固有のポート ID が割り当てられます。このポートIDはハイフンで区切られた最大3つの番号で構成されます。これらのポートナンバーは、1 段階目の KVM スイッチを基点とした目的のデバイスまでの KVM スイッチの構成パスを表しています。ホットキーモード(第 6 章参照)では、ポート ID を入力して目的の KVM ポートに切り替えることができます。

カスケード接続の構成の場合

カスケード接続時におけるコンピュータのポート ID は左から順に以下のルールに則って付番されます。

1. 1 段階目の KM0832 におけるポートナンバー
2. 2 段階目の KVM スイッチにおけるポートナンバー (2 段階目のスイッチがある場合)
3. 3 段階目の KVM スイッチにおけるポートナンバー (3 段階目のスイッチがある場合)

例えば、1 段階目の KM0832 の**ポート 15** から 2 段階目の KM0832 がカスケード接続され、その 2 段階目のスイッチにおける**ポート 6** から 3 段階目の KVM スイッチがカスケード接続されており、更に、その 3 段階目のスイッチにおける**ポート 3** に接続されているコンピュータには、**15-6-3** というポート ID が割り当てられます。

マトリックスプラスを使用した構成の場合

マトリックスプラスを使用した場合のコンピュータのポート ID は、左から順に以下のルールに則って付番されます。

1. 1 段階目の KM0832 のポートナンバー
2. 2 段階目の KVM スイッチにおけるポートナンバー (2 段階目のスイッチがある場合)
3. 3 段階目の KVM スイッチにおけるポートナンバー (3 段階目のスイッチがある場合)
4. マトリックスプラスに表示されているステーション ID

例えば、1 段階目の KM0832 のポート 8 から 2 段階目の KM0832 がカスケード接続され、その 2 段階目のスイッチにおけるポート 15 から 3 段階目の KM0832 がカスケード接続され、更に、その 3 段階目の KM0832 のポート 6 からカスケード接続されているマトリックスプラスモジュールのステーション ID が 3 の場合、そのモジュールに接続されているコンピュータには 8-15-6-3 というポート ID が割り当てられます。

デイジーチェーン接続の構成の場合

デイジーチェーン接続時におけるポート ID は、左から順に以下のルールに則って付番されます。

1. デイジーチェーン接続された KVM スwitch のポート ID (「1」固定)
2. デイジーチェーン接続された KM0432 または KM0216 の位置
デイジーチェーン接続の構成における KM0432 または KM0216 の位置は、ステーション ID から 1 を引くことによって割り出すことができます。

例えば、デイジーチェーン接続の構成で、1 台目の KM0432 または KM0216 のステーション ID が 2 の場合、

$$2 - 1 = 1$$

ですので、この構成における KM0432 または KM0216 の位置は 1 番目ということになります。

下表はデイジーチェーン接続の構成における KM0432 または KM0216 のステーション ID の一覧です。

ステーション ID	デイジーチェーン接続の構成における位置
2	1
3	2
4	3
5	4
6	5
7	6
8	7

3. KM0432 または KM0216 におけるポートナンバー

例えば、1 段階目の KM0832 からデイジーチェーン接続された **7 番目の位置**(ステーション ID は 8)にある KM0432 の**ポート 18**に接続されたコンピュータには、**1-7-18** というポート ID が割り当てられます。

OSDの機能

OSD の機能は、OSD の設定や管理を行います。OSD メニューから行える操作の例として、KVM ポートの切替、特定の KVM ポートのオートスキャンや一覧表示、ポートネームの管理、ユーザー管理、システム管理および OSD 設定調整などが挙げられます。

設定の変更は、すべて一時メモリに一旦格納され、セッションがアクティブである間は保持されています。ログアウトせずにKM0832 をシャットダウンすると、変更された設定内容は破棄されてしまいます。デジタイズ接続されたKM0432 またはKM0216 で設定を変更した場合、OSD からログアウト(p.157参照)してはじめて保存されます。ログアウトせずにKM0432 またはKM0216 をシャットダウンした場合、変更内容は破棄されます。

OSD 機能にアクセスする場合は、以下の手順で操作してください。

1. メイン画面の上部にあるファンクションキーの項目をクリックするか、キーボードからその機能に該当するファンクションキーを押してください。
2. サブメニューが表示されたら、画面から操作対象となるメニューをダブルクリックするか、その項目までハイライトバーを移動させて[Enter]キーを押してください。
3. 前のメニューに戻る場合は画面内の「Esc」をクリックするか、[Esc]キーを押してください。

設定内容を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 変更の対象となる項目をダブルクリックするか、その項目までハイライトバーを移動させて[Enter]キーを押してください。
2. 項目を選択すると、それに関連するサブメニューが表示されます。サブメニューの操作も手順 1 と同様に行ってください。選択された項目の前にはアイコンが表示されます。

KM0832 の OSD 操作の詳細については、以下のセクションで説明しますので、そちらをご参照ください。

F1: HELP

ヘルプにアクセスする場合は画面内の「F1」をクリックするか、[F1]キーを押してください。このヘルプには各 OSD 機能に関する簡単な説明や、ユーザーネーム、所属グループといったユーザー情報や、ユーザーが操作している KVM コンソールに関する情報が表示されます。

OSD メイン画面に戻る場合は、画面内の「Esc」をクリックするか、[Esc]キーを押してください。

F2: VIEW

OSD メニューの多くは、メイン画面に現在表示されているコンピュータのみを対象にして実行されます。この機能を使用すると、メイン画面の OSD が一覧表示する KVM ポートの範囲を設定することが可能です。各サブメニューとその内容については下表をご参照ください。

設定	機能
VIEW MODE	OSD メイン画面に一覧表示するコンピュータを選択することができます。選択項目は以下のとおりです。 PERSONAL: ユーザーが「personal」として選択した KVM ポートを OSD で一覧表示します。詳細は下記「PERSONAL VIEW」の項目をご参照ください。 ACCESSIBLE: そのユーザーがアクセス可能な KVM ポートのみを OSD で一覧表示します。詳細は p.146 「PORT ACCESS」を後参照ください。 ACCESSIBLE + POWERED: そのユーザーがアクセス可能で、かつ、接続されているコンピュータに電源が入っている KVM ポートのみを OSD で一覧表示します。 デフォルトでは「ACCESSIBLE + POWERED」に設定されています。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET PERSONAL VIEW	1 段階目の KVM スイッチの KVM ポートからカスケード接続されている KVM スイッチがある場合、OSD リストに表示する下位レベルの KVM スイッチに接続されているコンピュータへのショートカットを作成することができます。 ショートカットの作成 1. 「ADD SHORTCUT」を選択してください。ボックスが表示されます。 2. ショートカットを作成したいコンピュータのポートIDを入力してください。(例: 1-1-1) ポートIDの付番方法に関しては p.132をご参照ください。 ショートカットの削除 1. 「DELETE SHORTCUT」を選択してください。ショートカットの一覧が表示されます。 2. リストから、削除の対象となるショートカットを選択してください。 3. 削除する場合は[Y]を、削除しない場合は[N]を選択してください。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET PORT ID	以下の 3 つの選択項目がサブメニューで表示されます。 ID POSITION: モニタ上におけるポート ID の表示位置を設定することができます。デフォルトではポート ID は左上に表示されますが、これは任意の位置に変更することが可能です。 マウスやカーソルキー、[Page Up]キー、[Page Down]キー、[Home]キー、[End]キーを押すか、[Num Lock]キーを OFF にした状態で[5]キーを押してポートIDの表示位置を変更し、「Enter」をクリックするか[Enter]キーを押して位置を確定させてください。操作が完了すると「View」のサブメニュー一覧に戻ります。 DISPLAY DURATION: ポート切替後にポート ID を画面上に表示する時間を設定します。設定できる項目は以下のとおりです。 USER DEFINED: 1～240 秒の範囲の値を設定できます。 ALWAYS ON: ポート ID を常に表示します。 「USER DEFINED」を選択した場合は、秒数を入力し[Enter]キーを押してください。デフォルトでは 3 秒に設定されています。0 を設定すると、この機能が無効になります。 DISPLAY MODE: ポート ID の表示方法を選択します。設定できる項目は以下のとおりです。 PORT NUMBER + PC NAME: ポートナンバーとポートネーム PORT NUMBER: ポートナンバーのみ PC NAME: ポートネームのみ デフォルトでは「PORT NUMBER + PC NAME」に設定されています。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET SCAN	SCAN INTERVAL:選択されたKVMポートをオートスキャンモード (p.156参照) でアクセスする際に、各KVMポートを表示する時間を設定します。0～240 秒の範囲で値を設定し、[Enter]キーを押してください。デフォルトでは 5 秒に設定されています。また、この項目に0を設定すると、KM0832はオートスキャンモードが起動された際に自動的にスキップモードを開始します。 SCAN MODE:オートスキャンモードでアクセス対象となるコンピュータを選択します。設定できる項目は以下のとおりです。 PERSONAL:ユーザーが「personal」として設定した KVM ポートのみを対象にスキャンします。 ACCESSIBLE:ユーザーがアクセス可能なKVMポートのみを対象にスキャンします。(p.146「PORT ACCESS」参照) ACCESSIBLE + POWERED:ユーザーがアクセス可能で、かつ、接続されたコンピュータに電源が入っている KVM ポートのみを対象にスキャンします。 デフォルトでは「ACCESSIBLE + POWERED」に設定されています。

F3: SET

ユーザーはこの機能を使ってパスワードの変更や個別の作業環境のセットアップを行うことができます。各ユーザーのプロフィールは OSD に格納され、ログインしたユーザーネームに従ってその値が有効になります。設定内容は下表のとおりです。

設定	機能
CHANGE PASSWORD	ユーザーのパスワードを変更することができます。 上部のフィールドに古いパスワードを、中央のフィールドに新しいパスワードを、下部のフィールドに確認用の新しいパスワードをそれぞれ入力してください。変更内容を保存し、前のメニューに戻る場合は[Enter]キーを押してください。
OSD ACTIVATION	OSD メニューを起動するホットキーを、 [Scroll Lock]キー2 度押し または [Ctrl]キー2 度押しのいずれかに選択することができます。[Ctrl]キー2 度押しはお使いのコンピュータで動作しているプログラムの操作と競合する可能性があるため、デフォルトでは[Scroll Lock]キー2 度押しに設定されています。
SET LOGOUT TIMEOUT	KVM コンソールから入力がないまま、この項目で設定された時間が経過すると、そのユーザーは自動的にログアウトします。この場合、KVM コンソールを使用するには KM0832 に再度ログインする必要があります。 この機能によって、ユーザーが KM0832 での作業を終えたにもかかわらずログアウトするのを忘れてしまった場合でも、他のユーザーは KM0832 を操作することができます。タイムアウトまでの時間を設定する場合は、1～180 分の範囲の値を入力し、 [Enter] キーを押してください。この項目に0を設定すると、この機能を無効にします。デフォルトでは 0(無効)に設定されています。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SCREEN BLANKER	KVM コンソールに対するユーザーからの入力がないまま、この項目で設定されている時間が経過した場合、画面はブランクになります。1～30 分の範囲の値を入力し、[Enter]キーを押してください。この項目に0を設定すると、この機能を無効にします。デフォルトでは0(無効)に設定されています。
HOTKEY COMMAND MODE	お使いのコンピュータで動作しているプログラムの操作と競合した場合に備え、ホットキーコマンド機能は有効または無効に切り替えることが可能です。デフォルトではホットキーの機能は有効になっています。有効にする場合は[Y]を、無効にする場合は[N]をそれぞれ選択してください。
SET BEEPER	ビープ音を有効にすると、KVMポートを切り替えた場合、オートスキャンモードを有効にした場合 (p.156参照)、また、OSDメニューに無効な値が入力された場合にそれぞれビープ音が鳴ります。デフォルトでは[Y](有効)に設定されています。ビープ音を有効にする場合は[Y]を、無効にする場合は[N]をそれぞれ選択してください。
IDLE TIMEOUT	あるポートにアクセスしている KVM コンソールから入力がないまま、この項目に設定されている時間が経過すると、その KVM ポートは解放され、他のKVMコンソールからアクセスできるようになります。 タイムアウトの時間を設定する場合は、0～240 秒の範囲の値を入力し、[Enter]キーを押してください。 この項目に 0 を入力すると、この機能は無効になります。デフォルトでは 5 秒に設定されています。
RESTORE USER DEFAULT	この項目を設定すると、ユーザープロフィールの「VIEW」および「SET」の内容を、工場出荷時におけるデフォルト設定の値に戻します。デフォルト値に戻す場合は[Y]を、操作を取り消す場合は[N]をそれぞれ選択してください。

F4: ADM

F4 はスーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターに限定された機能で、OSD 全体の操作の設定変更および管理を行うことができます。

注意: KM0832 では各ユーザーを必ずグループに所属させなければなりませんので、ユーザーを作成する前にグループを作成することを推奨します。グループを作成したくない場合は、ユーザーをデフォルトのグループアカウントに登録することも可能ですが、デフォルトグループアカウントに所属しているユーザーにグループ単位で権限設定を行うことはできません。この場合、ユーザーを個別に KVM ポートに追加する必要があります。

ACCOUNT MANAGEMENT

設定	機能
CREATE GROUP	このメニューを開き[Enter]キーを押すと、「NEW GROUP NAME」欄を開きます。この欄に新しいグループの名前を入力し、[Enter]キーを押してください。グループ名は半角英字(大文字)、半角数字を使って 15 文字以内で入力してください。
MODIFY GROUP	全グループを一覧表示します。編集対象となるグループ名を選択し、新しい名前に変更したら[Enter]キーを押してください。
DELETE GROUP	全グループを一覧表示します。削除対象となるグループ名を選択し、削除する場合は[Y]を、操作をキャンセルする場合は[N]をそれぞれ選択してください。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
GROUP ACCESS SETTING	1. グループ一覧が表示されます。 2. ポートアクセス権限を変更するグループを選択してください。全 KVM ポートの一覧が表示されます。 3. KVM ポートを選択し、「Group Access Type」を以下のいずれかの種類に設定してください。 VIEW:グループメンバーはその KVM ポートの画面の参照のみが可能です。 FULL:グループメンバーはその KVM ポートの画面の参照および操作が可能です。 4. [Esc]キーを押して終了してください。先ほど選択した「Group Access Type」がそのグループに適用されます。 5. 他にも設定の対象となる KVM ポートがある場合は、上記の操作を繰り返してください。
CREATE USER ACCOUNT	1. グループ一覧が表示されます。 2. 新しいユーザーを追加したいグループをリストから選択してください。 3. アカウントのユーザーネーム、パスワード、および確認用のパスワードを入力して、[Enter]キーを押してください。ユーザーネームおよびパスワードはそれぞれ半角英数字を使って 15 文字以内で入力してください。「User Type」リストが表示されます。 4. ユーザーアカウントの種類を、以下から選択してください。 NORMAL USER: ユーザー ADM: アドミニストレーター SUPER ADM: スーパーアドミニストレーター (スーパーアドミニストレーターの権限設定は、スーパーアドミニストレーターのユーザーしか行うことができません。)

(表は次のページに続きます)

設定	機能
MODIFY USER ACCOUNT	ユーザーアカウントの設定を修正することが可能です。サブメニューとして「RESET USER PASSWORD」、「CHANGE USER TYPE」、「CHANGE USER GROUP」の各機能があります。 ユーザーアカウントのパスワードの変更 1. 「RESET USER PASSWORD」を選択してください。ユーザー一覧が表示されます。 2. パスワードを変更したいユーザーを一覧から選択してください。 3. 新しいパスワード、および確認用の新しいパスワードを入力し、[Enter]キーを押してください。この操作で新しいパスワードに変更されます。 ユーザータイプの変更 1. 「CHANGE USER TYPE」を選択してください。ユーザー一覧が表示されます。 2. ユーザータイプを変更したいユーザーを一覧から選択してください。 3. 新しいユーザータイプを選択し、[Esc]キーを押してメニューを終了してください。この操作でユーザータイプが変更されます。 所属グループの変更 1. 「CHANGE USER GROUP」を選択してください。ユーザー一覧が表示されます。 2. 所属グループを変更したいユーザーを一覧から選択してください。グループ一覧が表示されます。 3. ユーザーを追加したいグループを一覧から選択してください。ユーザーは前に所属していたグループからは削除され、新しいグループに追加されます。
DELETE USER ACCOUNT	ユーザー一覧を表示し、削除したいユーザーを選択してください。削除する場合は[Y]を、キャンセルする場合は[N]を押してください。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
USER ACCESS SETTING	特定のポートに対する特別アクセス権限をユーザーに設定します。グループ単位で KVM ポートへのアクセス権限を定義する場合は、これらの設定を変更する必要はありません。 1. ユーザー一覧が表示されます。 2. ポートアクセス権限を変更したいユーザーを選択してください。全 KVM ポートが一覧表示されます。 3. KVM ポートを選択し、そのポートにユーザーアクセスタイプを設定してください。選択できる項目は以下のとおりです。 NONE:ポートアクセス権限なし VIEW:そのポートの画面参照のみ可 GROUP:所属するグループのアクセス権限に依存 (デフォルトでは「GROUP」に設定されています。) 選択したユーザーアクセスタイプがそのユーザーに適用されます。 注意:「NONE」に設定されているポートは、そのユーザーがログインした際に OSD メイン画面の KVM ポートリストに表示されなくなります。 4. OSD が自動的に前の画面に戻らない場合は、[Esc]キーを押してください。OSD が前の画面に戻ります。 5. 他にもポートへのアクセス権限を設定する場合は、上記の操作を繰り返してください。

PORT MANAGEMENT

設定	機能
PORT ACCESS	アドミニストレータはこの機能を使ってポート単位でコンピュータへのユーザーアクセスおよびグループアクセスを定義することができます。 KVM ポートに対するユーザーアクセスおよびグループアクセスを管理する場合は、リストからその KVM ポートを選択してください。ポートを選択するとサブメニュー一覧が表示されます。サブメニューの内容は以下のとおりです。 ● 「ADD GROUP」 ● 「SET GROUP ACCESS TYPE」 ● 「DELETE ACCESS GROUP」 ● 「ADD USER」 ● 「SET USER ACCESS TYPE」 ● 「DELETE ACCESS USER」 グループに対するポートアクセス権限の設定 1. 「ADD GROUP」を選択してください。グループ一覧が表示されます。 2. その KVM ポートに対するアクセス権限を設定したいグループを一覧から選択してください。 3. 権限を設定する場合は[Y]を、キャンセルする場合は[N]を押してください。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
PORT ACCESS (続き)	グループアクセスタイプの設定 「SET GROUP ACCESS TYPE」を選択してください。その KVM ポートに追加されているすべてのグループが一覧表示されます。 - グループアクセスタイプを設定するグループを一覧から選択してください。 - グループアクセスタイプを設定してください。選択できる項目は以下のとおりです。 VIEW:KVM ポートの画面参照のみが可能 FULL:KVM ポートの画面参照および操作が可能 [Esc]キーを押して操作を終了してください。先ほど選択したグループアクセスタイプがそのグループに適用されます。
	グループに対するポートアクセス権限の設定取消 「DELETE ACCESS GROUP」を選択してください。その KVM ポートに追加されたすべてのグループが一覧表示されます。 - その KVM ポートに対するアクセス権限を取り消したいグループを一覧から選択してください。 - 設定取消を行う場合は[Y]を、操作を中止する場合は[N]を押してください。
	ユーザーに対するポートアクセス権限の設定 「ADD USER」を選択してください。ユーザー一覧が表示されます。 - その KVM ポートへのアクセス権限を設定するユーザーを一覧から選択してください。 - アクセス権限を設定する場合は[Y]を、キャンセルする場合は[N]を押してください。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
PORT ACCESS (続き)	ユーザーアクセスタイプの設定 「SET USER ACCESS TYPE」を選択してください。その KVM ポートに追加されているすべてのユーザーが一覧表示されます。 - ユーザーアクセスタイプを設定するユーザーを一覧から選択してください。 - ユーザーアクセスタイプを設定してください。選択できる項目は以下のとおりです。 VIEW: KVM ポートの画面参照のみが可能 FULL: KVM ポートの画面参照および操作が可能 注意: 「NONE」に設定したポートは、そのユーザーがログインした際に OSD メイン画面の KVM ポート一覧に表示されなくなります。 [Esc] キーを押して操作を終了してください。先ほど選択したユーザーアクセスタイプがそのユーザーに適用されます。 ポートに対するユーザーアクセス権限の設定取消 「DELETE ACCESS USER」を選択してください。その KVM ポートに追加されているすべてのユーザーが一覧表示されます。 - KVM ポートへのアクセス権限を取り消すユーザーを一覧から選択してください。 - アクセス権限を取り消す場合は[Y]を、操作を中止する場合は[N]を選択してください。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET PC NOTE	KVM ポートに接続されているコンピュータを管理しやすくするために、各 KVMポートには名前をつけることができます。アドミニストレータはこの機能を使ってポートノートを作成、編集および削除が可能です。 ポートノートの編集 1. ポートノートを編集したいポートをマウスでクリックするか、カーソルキーを使ってハイライトバーを目的のポートに移動させて、[Enter]キーを押してください。 2. ポートノートを新規作成する場合は新しいポートノートを入力してください。また、編集する場合は既存のポートノートを更新し、削除する場合は既存のポートノートを削除してください。ポートノートは半角英字(大文字、小文字ともに可)、半角数字、半角スペースおよび半角ハイフンを使用し、15文字以内で入力してください。 この項目は大文字、小文字を区別しませんので、どちらで入力しても OSD には大文字で表示されます。 3. 編集し終わったら、[Enter]キーを押してください。新しく設定された名前が「PORT NOTE」の欄に表示されます。変更内容を破棄する場合は[Esc]キーを押してください。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET PORT LANGUAGE	この機能によってアドミニストレーターは各 KVM ポートに対してキーボード言語のレイアウトを定義することができます。デフォルトでは「U.S.ENGLISH」に設定されています。 ポートに対するキーボード言語の設定 1. コンピュータのキーボード言語レイアウトを設定したい KVM ポートを一覧から選択してください。 2. キーボード言語レイアウトを設定してください。選択できる項目は以下のとおりです。 - US ENGLISH: 英語 (アメリカ) - JAPANESE: 日本語 - FRENCH: フランス語 3. [Esc]キーを押して操作を終了してください。先ほど設定したキーボード言語のレイアウトがそのポートに適用されます。
SET PORT OPERATING SYSTEM	この機能によってアドミニストレーターは各 KVM ポートに接続されているコンピュータのプラットフォームを設定することができます。デフォルトでは「Windows (PC 互換)」に設定されています。 ポート OS の設定 1. コンピュータのプラットフォームを設定したい KVM ポートを一覧から選択してください。 2. プラットフォームを設定してください。選択できる項目は以下のとおりです。 - WINDOWS: Windows (PC 互換) - MAC: Mac - SUN: Sun 3. [Esc]キーを押して操作を終了してください。先ほど選択したプラットフォームがそのポートに適用されます。
RESTORE PORT DEFAULT	この機能では、ユーザーやグループのポートアクセスの取消、ステーションネームおよびポートノートの削除、ポートOSとポート言語の工場出荷時のデフォルト設定値の復元を行います。詳細は p.170 の「工場出荷時における初期設定一覧」をご参照ください。

STATION MANAGEMENT

設定	機能
CREATE STATION NOTE	アドミニストレーターはこの機能を使って KM0832 のステーションに名前を割り当てることができます。これによって、複数台の KVM スイッチが導入された環境であっても、目的のステーションを簡単に見つけることができます。
DELETE STATION NOTE	アドミニストレーターはこの機能を使ってステーションノートを削除することができます。

SYSTEM INFORMATION

設定	機能
SYSTEM INFORMATION	ここでは、KM0832 の全モジュールおよび接続されたコンソールモジュールや KVM モジュールを一覧表示しますので、KM0832 アドミニストレーターユーティリティの「System Information」画面とは異なります。KVM コンソールやデバイスが接続されているポートナンバー、デバイスタイプ、最初にインストールされたファームウェアのバージョン、最後にインストールされたファームウェアのバージョンといった、各デバイスに関する重要な情報が一覧表示されます。

SADM CONFIGURATION

以下のメニューの参照および操作は、スーパーアドミニストレーターに限定されております。

設定	機能
SET NETWORK	スーパーアドミニストレーターは、この機能で KM0832 の LAN におけるネットワーク設定を行うことができます。この機能のサブメニューは以下のとおりです。 ● 「HTTP PORT」 ● 「HTTPS PORT」 ● 「AUTOMATIC IP ADDRESS」 ● 「IP ADDRESS SETTING」 HTTP ポートの設定 1. 一覧から「HTTP PORT」を選択してください。 2. ポート番号(通常は 80 番ポートを使用)を入力し、[Enter]キーを押してください。 HTTPS ポートの設定 1. 一覧から「HTTPS PORT」を選択してください。 2. ポート番号(通常は 443 番ポートを使用)を入力し、[Enter]キーを押してください。 DHCP サーバを使った動的 IP アドレスの設定 1. 一覧から「AUTOMATIC IP ADDRESS」を選択してください。 2. 動的 IP アドレスを有効にする場合は[Y]を、無効にする場合は[N]を押してください。 注意:デフォルトでは有効に設定されています。この機能が無効にした場合は、手動で固定 IP アドレスを設定しなければなりません。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET NETWORK (続き)	手動による IP アドレスの設定 - 一覧から「IP ADDRESS SETTING」を選択してください。以下のサブメニューが表示されます。 ● 「IP ADDRESS」 ● 「SUBNET MASK」 ● 「GATEWAY」 ● 「PRIMARY DNS SERVER」 - 上記の各メニューで値を「XXX.XXX.XXX.XXX」の形式(Xは半角数字)で入力して、[Enter]キーを押してください。 注意:DHCP の設定を有効にした場合、これらの設定は適用されません。
SET CLOCK	アドミニストレーターはこの機能で KM0832 のシステム日付および時刻の設定を行うことができます。この項目には以下のサブメニューが表示されます。 ● 「SET DATE」 ● 「SET TIME」 日付および時刻の設定 - 一覧から「SET DATE」を選択してください。フィールドが表示されますので、そこに「YYYY-MM-DD」の形式で日付を入力し、[Enter]キーを押してください。 - 一覧から「SET TIME」を選択してください。フィールドが表示されますので、「HH:MM:SS」の形式で時刻を入力し、[Enter]キーを押してください。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
BROADCAST	この機能を選択するとブロードキャストモードを起動します。この機能が実行されていると、KVM コンソールキーボードから入力されたコマンドはお使いの構成におけるすべてのコンピュータにブロードキャストされます。 これは、システム全体のシャットダウン、ソフトウェアのインストールまたはアップグレードといった作業を複数のコンピュータで行う際に便利な機能です。 ◆ ブロードキャストモードの実行中には、現在選択されているポートのポート ID の前にスピーカーのマークが表示されます。 ◆ ブロードキャストモードの実行中は、他の KVM コンソールはコンピュータの操作を行うことができませんが、コンピュータの出力画面を参照することは可能です。 ◆ ブロードキャストモードの実行中には、それを表すメッセージがスーパーアドミニストレーターの OSD 画面の下部に表示されます。 ◆ マウスコマンドはブロードキャストされません。 ◆ ブロードキャストモードを起動したスーパーアドミニストレーターの操作がタイムアウトした場合、ブロードキャストモードは中止されます。(詳細はp.102「Set Idle Timeout」参照) ◆ ブロードキャストモードの実行中に、ブロードキャストモードを起動したスーパーアドミニストレーターが OSD を立ち上げて 30 秒以上使用すると、ブロードキャストモードは中止されます。 ◆ ブロードキャストモードを終了する場合は、ホットキーを使って OSD を起動し、このメニューをもう一度選択してブロードキャストモードをオフにしてください。

F5: SCH

検索機能を利用することで、KVM ポートやカスケード接続されたステーションをポートノートから簡単に探し出すことができます。

KVM ポートを検索する場合は、以下の手順で操作してください。

1. OSD メイン画面で「**F5**」をクリックするか、**[F5]**キーを押してください。
2. 表示されているフィールドに検索対象となる KVM ポートのポートノートを入力してください。
その文字列に一致、またはその文字列を含んだポートノートが一覧に表示されます。

F6: BCK

この機能を使うと、現在操作しているステーションの上のレベルのステーションに戻ることができます。OSD ポート一覧がルートステーションにある場合は、この機能はご利用いただけません。

F7: SCAN

ユーザーはこの機能を使用することによって、手動でポートを切り替えることなく、参照可能なコンピュータの画面を一定の時間間隔で切り替えることができます。

- ◆ オートスキャンの対象となるKVMポートは、「**F2:SET**」機能の「SCAN MODE」で設定することができます。(p.139「SET SCAN」参照)
- ◆ 各KVMポートの表示時間は、「**F2:SET**」機能の「SCAN INTERVAL」で設定することができます。(p.139「SET SCAN」参照) オートスキャンの実行中に特定のポートで停止したい場合は、**スペースキー**または[Esc]キーを押して、オートスキャンモードを終了してください。
- ◆ スキャンが、コンピュータが接続されていないポート、または電源が入っていないコンピュータが接続されているポートでスキャンが停止した場合は、モニタの画面がブランクになり、マウスやキーボードが無効になります。この場合、スキャンインターバルの時間が経過すると、KM0832 は次のポートを表示しますので、しばらくお待ちください。
- ◆ ポートがオートスキャンモードによってアクセスされると、ポートIDの前に「**S**」という文字が表示されます。
- ◆ オートスキャンモードの実行中は、KVM コンソールが正常に動作しません。KVM コンソールを通常使用する場合は、オートスキャンモードを終了させる必要があります。
- ◆ オートスキャンモードの実行中に[P]キーを押すかマウスの左クリックをすると、そのときに表示していたKVMポートでスキャンを一時停止することができます。詳細についてはp.160の「オートスキャンの起動」をご参照ください。

- ◆ オートスキャンモードの実行中にカーソルキーを押すと、OSD 一覧での前後(または最初や最後)のポートにスキップすることができます。各カーソルキーの機能は下表のとおりです。

カーソルキー	機能
←	OSD 一覧の前の KVM ポートに切り替わります。
→	OSD 一覧の次の KVM ポートに切り替わります。
↑	OSD 一覧の最初の KVM ポートに切り替わります。
↓	OSD 一覧の最後の KVM ポートに切り替わります。

「SCAN INTERVAL」で設定されたインターバル時間が経過すると、オートスキャンモードは次の KVM ポートに切り替わります。

スキップする際には、オートスキャンモードで参照が可能な前後のポートにのみにスキップします。(p.139参照)

- ◆ オートスキャンモードを終了する場合は、スペースキーまたは[Esc]キーを押してください。

F8: LOUT

このメニューでユーザーが OSD からログアウトすると、KVM コンソール画面はブランクになります。この機能は、メイン画面で単に[Esc]キーを押して OSD を無効にする操作とは異なります。[Esc]キーを押すと、OSD メニューは終了しても、OSD ホットキーを入力すれば再度呼び出しができるのに対し、このメニューでログアウトすると、OSD に再度アクセスするためには、KM0832 のログインから操作をやり直す必要がありますので、ご注意ください。

-
- | | |
|------------|--|
| 注意: | <ol style="list-style-type: none">1. ログアウト後に OSD メニューを再度使用した場合、OSD メニュー以外はブランクで画面が表示されます。操作を続ける場合は、パスワードを入力する必要があります。2. ログアウト後に OSD メニューを再び呼び出し、OSD メニューから KVM ポートを選択せずに、すぐに[Esc]キーで OSD 機能を無効にすると、ヌルポートのメッセージが画面上に表示されます。このとき、OSD ホットキーを入力すると OSD メイン画面を呼び出すことができます。 |
|------------|--|
-

第6章

ホットキー操作

ホットキーによるポート操作

KM0832 は、ホットキーによってキーボードから直接ポートを切り替えることができます。

注意: ホットキーはKVMスイッチの単体接続時や、カスケード接続またはデイジーチェーン接続された機器構成でポートを操作するのに便利です。一方、デイジーチェーン接続とカスケード接続されているスイッチが混在している環境では、OSD を使用してポートを切り替えたほうが便利です。

KM0832 のホットキー操作には以下のような特長があります。

- ◆ ポート切替
- ◆ オートスキャン
- ◆ スキップモードによるポート切替

ホットキーモードの起動

ホットキーによる操作を行う前に、まず、ホットキーモードを起動する必要があります。ホットキーモードを起動するには、スイッチ上の特定のポートを表示しておく必要があります。

ホットキーモードを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-]キーまたは[*]キーを押して離してください。
3. 手順1で押したままにしていた[Num Lock]キーを離してください。

このキー入力、本マニュアルでは以下のように表記します。

[Num Lock] + [-] または [Num Lock] + [*]

ホットキーモードが有効である場合、デバイスは以下のように動作します。

- ◆ キーボードの[Caps Lock] および [Scroll Lock] の各 LED ランプが連続して点滅します。ホットキーモードを終了すると、これらの LED ランプは元の状態に戻ります。
- ◆ 画面上にコマンドラインが表示されます。コマンドプロンプトは、青色の背景に白い文字で「HOTKEY:」と表示されます。このプロンプトにホットキーを入力してください。
- ◆ ホットキーとして割り当てられているキー入力およびマウスのクリック(以下のセクションを参照)を除いた、キーボードおよびマウスの各機能は一時停止されます。
- ◆ [Esc]キー、またはスペースキーを押すとホットキーモードを終了します。

ポートの切替

各KVMポートには、その機器構成における位置に基づいてポートIDが割り当てられます。(p.35「1 段階構成のセットアップ」参照) ホットキーモードを起動すると、ポートIDを入力することで目的のポートに直接切り替えることができます。KVMポートの位置に依存して、ポートIDはハイフンで区切られた最大 4 つのポートナンバーから構成されています。

KVM ポートへの切替

KVM ポートに切り替える場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.158参照)
2. コマンドプロンプトでポートIDを入力してください。(ポートIDについてはp.35「1 段階構成のセットアップ」を参照のこと)
ポート ID を入力すると、その内容が画面に表示されます。間違った内容で入力した場合は、バックスペースキーを使って間違った部分を消去してください。
3. [Enter]キーを押してください。
[Enter]キーを押すと、目的のポートに表示が切り替わり、そのポートのポートID が画面に表示されてホットキーモードは自動的に終了します。

オートスキャン

オートスキャンモードでは、現在操作しているユーザーがアクセス可能なすべてのKVMポートを一定の時間間隔で自動的に切り替えます。(アクセス可能なKVMポートに関する詳細は、p.139「SET SCAN」の「SCAN MODE」の項目を参照)これはKM0832 に接続されたコンピュータを自動的に監視するのに便利な機能です。

スキャンインターバルの設定

オートスキャンモードで各KVMポートを表示する時間は、OSDメニューの「F2:SET」機能の「SCAN INTERVAL」の項目で設定します。(p.139「SET SCAN」参照)このスキャンインターバルはホットキーによるオートスキャンを有効にする前であれば変更することが可能です。方法は以下のとおりです。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.158参照)
2. **[T][n]**を入力してください。
[T]は**[T]**キーを、[n]はスキャンインターバルの時間(0～240 秒で設定)をそれぞれ表します。
これらのキーを入力すると、その内容が画面に表示されます。間違った内容で入力した場合は、バックスペースキーを使って誤った部分を消してください。
3. **[Enter]**キーを押してください。
[Enter]キーを押すと、ホットキーモードが自動的に終了し、オートスキャンを起動することができます。

オートスキャンの起動

オートスキャンを開始する場合は、以下のホットキーを入力してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.158参照)
2. **[A]**キーを押してください。
[A]キーを押すと、ホットキーモードが自動的に終了し、オートスキャンモードが開始します。

- ◆ オートスキャンモードの起動中に[P]キーを押すかマウスの左クリックをすると、そのときに表示していた KVM ポートでスキャンを一時停止することができます。オートスキャンが一時停止している間、コマンドラインには「TUSCAN PAUSED」という文字が表示されます。

特定の KVM ポートで停止する方法としては、一時停止と終了の 2 つの方法があります。一時停止機能を利用すると、一時停止した際に選択したポートからスキャンを再開しますので、スキャンを後で再開する場合は、オートスキャンの終了よりも一時停止をご利用になったほうが便利です。オートスキャンモードを一旦終了してから再開すると、現在の構成における最初のポートからスキャンをやり直すことになります。

一時停止後にオートスキャンを再開する場合は、任意のキーを押すか、マウスを左クリックしてください。スキャンは前回停止した際に選択していたポートから開始されます。

- ◆ オートスキャンモード起動中にカーソルキーを押すと、OSD 一覧の前後（または最初や最後）のポートにスキップすることができます。各カーソルキーの機能は以下のとおりです。

カーソルキー	機能
←	OSD 一覧の前の KVM ポートに切り替わります。
→	OSD 一覧の次の KVM ポートに切り替わります。
↑	OSD 一覧の最初の KVM ポートに切り替わります。
↓	OSD 一覧の最後の KVM ポートに切り替わります。

「SCAN INTERVAL」で設定されたインターバル時間が経過すると、オートスキャンモードは次の KVM ポートに切り替わります。

スキップする際には、オートスキャンモードで参照が可能な前後のポートにのみにスキップします。(p.139参照)

- ◆ オートスキャンモードの操作として割り当てられているキー入力およびマウスのクリックを除いた、キーボードおよびマウスの各機能は一時停止されます。通常の KVM コンソールの操作に戻る場合は、オートスキャンモードを終了させなければなりません。

3. オートスキャンモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。オートスキャンモードを終了するとスキャンは停止します。

ホットキーによるビープ音の切替

ビープ音 (p.141 参照) はホットキーで ON/OFF に切り替えることができます。ビープ音の ON/OFF を切り替える場合は、以下のホットキーを入力してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.158 参照)
2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押すと、ビープ音を ON または OFF に切り替えます。このとき、コマンドラインには設定状況に応じて「BEEPER ON」または「BEEPER OFF」が約 1 秒間表示され、メッセージが消えるとホットキーモードは自動的に終了します。

ホットキー一覧表

ホットキー		機能
[Num Lock] + [-] または [Num Lock] + [*]	[ポート ID][Enter]	該当ポートにアクセスを切り替えます。
	[T][n][Enter]	オートスキャンモードのスキャンインターバルを n 秒に設定します。(n は 1～240 秒の範囲の値で設定してください。)
	[A]	オートスキャンモードを起動します。 オートスキャンモード起動中に[P]キーを押すか、マウスを左クリックするとスキャンを一時停止します。また、スキャンが一時停止している際に任意のキーを押すかマウスを左クリックするとオートスキャンを再開します。 オートスキャンモードを終了する場合は[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。

(表は次のページに続きます)

ホットキー		機能
[Num Lock] + [-] または [Num Lock] + [*]	[←]	オートスキャンモードで、OSD 一覧の前のポートにスキップします。*
	[→]	オートスキャンモードで、OSD 一覧の次のポートにスキップします。*
	[↑]	オートスキャンモードで、OSD 一覧の最初のポートにスキップします。*
	[↓]	オートスキャンモードで、OSD 一覧の最後のポートにスキップします。*
	[B]	ビープ音を ON/OFF に切り替えます。

* オートスキャンモードでアクセス対象となるポートは、ユーザーのスキャンモードの設定とポートアクセス権限によって決まります。スキャンモードの設定を変更する場合は、p.139の「SET SCAN」をご参照ください。

第7章

キーボードエミュレーション

Macキーボード

キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換キーボード(101/104 キー)から Mac システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Back Space]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sunキーボード

キーマッピングのエミュレーション機能を利用すると、[Ctrl]キーと他のキーを組み合わせで入力することによって、PC 互換キーボード(101/104 キー)から Sun システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー([Ctrl]キー)を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

付録

製品仕様

機能		KM0832
コンピュータ接続数	ダイレクト接続時	32
	デイジーチェーン接続時	256 台
	デイジーチェーン / カスケード接続時	8,000 台
コンソール接続数		8
コンピュータ側対応 インターフェース	キーボード	PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル
	マウス	
コンソール側対応 インターフェース	キーボード	PS/2,USB
	マウス	
ポート選択方法		ホットキー、OSD
コンピュータ側コネクタ	キーボード	RJ-45×32
	マウス	
	モニタ	
コンソール側コネクタ	キーボード	RJ-45×8
	マウス	
	モニタ	
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1
	電源	ロッカースイッチ×1
	ファームウェア アップグレード	スライドスイッチ×1
	ユーザーポート 1 フロント・リア切替	スライドスイッチ×1
デイジーチェーンポート	OUT	DB-25 ピン オス×1
ユーザーポート 1(フロント側)		RJ-45×1
管理ポート		RJ-45×1

(表は次のページに続きます)

機能		KM0832
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1
LED	KVM ポート選択	レッド×32
	KVM ポートオンライン	グリーン×8
	ユーザーポートオンライン	グリーン×8
	電源	ブルー×1
キーボード・マウス エミュレーション		PS/2、USB(Windows、Sun、Mac)、 シリアル
スキャンインターバル		0～240 秒(ユーザー設定)/ 5 秒(デフォルト)
電源仕様		AC100V～240V 50Hz/60Hz
消費電力		19W
VGA 解像度		1,024×768@60Hz DDC2B 準拠 150m 延長時
動作環境	動作温度	0～50℃
	保管温度	-20～60℃
	湿度	0～80%RH、結露なきこと
ケース材料		メタル
重量		4.9kg
サイズ(W×D×H)		433×380×44 mm
同梱品		電源ケーブル×1 ユーザーマニュアル×1 クイックスタートガイド×1 ラックマウントキット×1 フットパッド(4pcs)×1
コンピュータ側対応モジュール		《PS/2 用モジュール》 KA9120 《USB 用モジュール》 KA9170 《シリアルモジュール》 KA9140

(表は次のページに続きます)

機能	KM0832
デイジーチェーン対応製品	KM0216 KM0432
デイジーチェーン用ケーブル	2L-1700KM(0.6m) 2L-1701KM(1.2m) 2L-1704KM(4m)
カスケード対応製品	CS-9138 CS-88A
カスケード用モジュール	KA9120
旧 SUN システム専用モジュール (13W3+ミニ DIN8 ピン)	KA9130
新 SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA9170
MAC 用モジュール	KA9170
コンソール側対応モジュール	《PS/2 用モジュール》 KA9222 《USB 用モジュール》 KA9272 《PS/2、USB 両対応モジュール》 KA9233

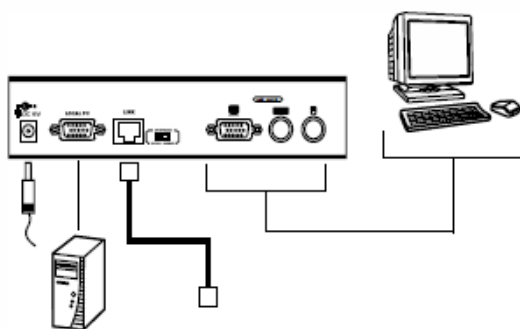
工場出荷時における初期設定一覧

KM0832 の工場出荷時における初期設定の内容は以下のとおりです。

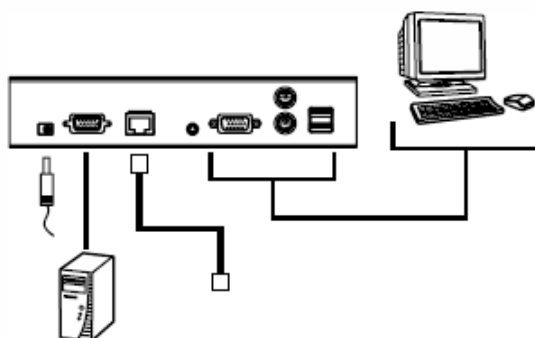
設定	初期値
ビューモード	ACCESSIBLE + POWERED (アクセス可能かつ電源 ON)
ポートID表示モード	ポート番号およびポート名
ポートID表示位置	左上部
ポートID表示時間	ユーザー定義 (3 秒)
スキャン時間	5 秒
スキャンモード	ACCESSIBLE + POWERED (アクセス可能かつ電源 ON)
OSDホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ログアウトタイムアウト機能	0 (無効)
スクリーンブランカー機能	0 (無効)
ホットキーコマンドモード	ON (有効)
ビープ音	ON (有効)
タイムアウト待機時間	5 秒
ポートノート	なし
ポートOS設定	Windows (PC 互換)
キーボード言語	英語 (アメリカ)
ポートアクセス	なし (スーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターはフルアクセス権限あり)
Web ページセッションタイムアウト	3 分
IP アドレス	192.168.0.10
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.254
HTTP ポート	80
HTTPS ポート	443
DHCP 使用	No (無効)
SMTP サーバメール通知機能	No (無効)
日付および時刻	アクセスに使用しているコンピュータと同期
サマータイム	有効

その他の接続図

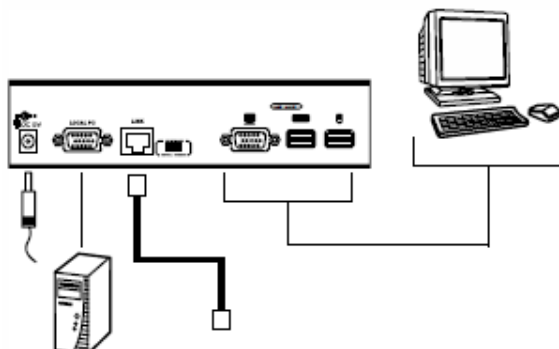
KA9222A PS/2 コンソールモジュール



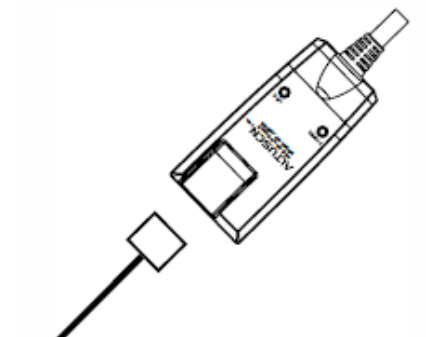
KA9233 PS/2-USB コンソールモジュール



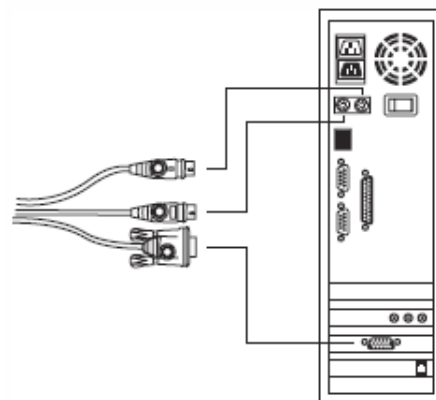
KA9272A USB コンソールモジュール



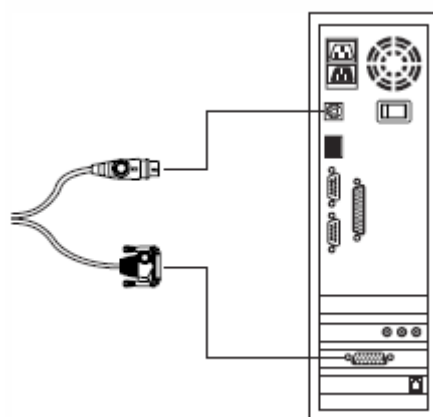
KM0832 と KVM モジュールの接続方法



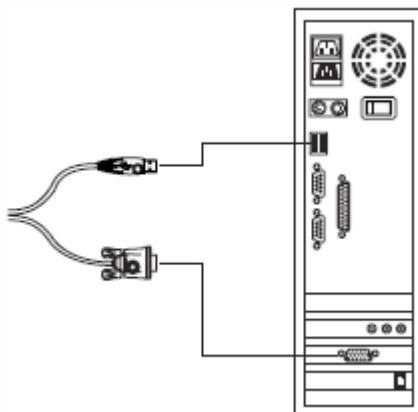
KA9120 PS/2 対応 KVM モジュール



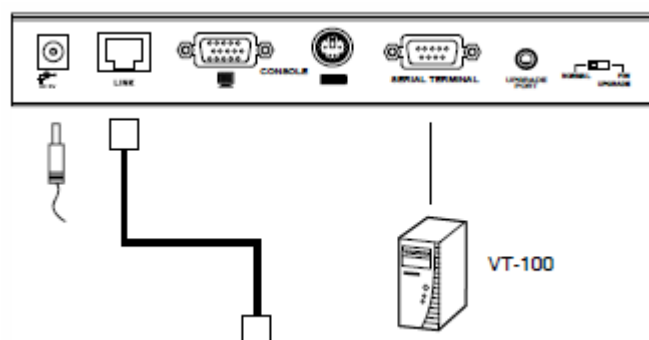
KA9130 Sun 13W3 コンソールポート対応 KVM モジュール



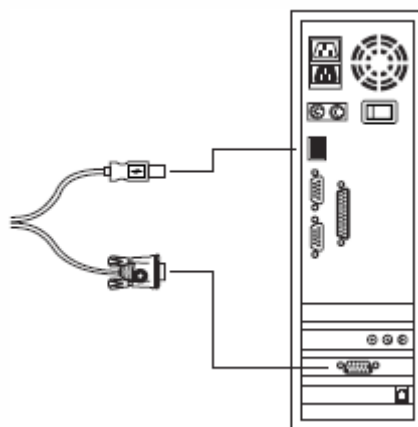
KA9131 Sun USB 対応 KVM モジュール



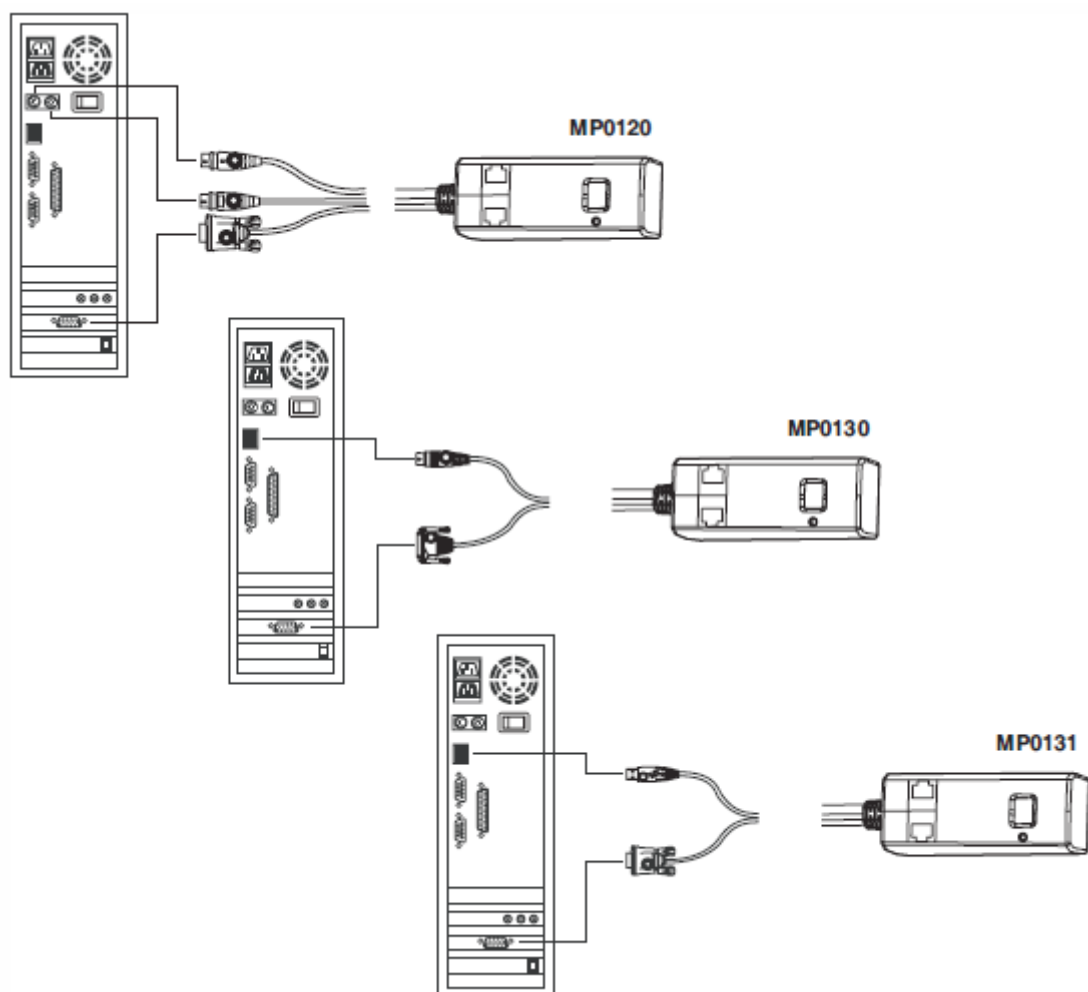
KA9140 シリアル対応 KVM モジュール



KA9170 USB 対応 KVM モジュール



マトリックスプラス



対応KVMスイッチ

下表は KM0832 と互換性のある KVM スイッチ、およびそれらを使用した際の拡張方法をまとめたものです。(以下の KVM スイッチは、製品別のご購入となります。詳細は販売店までお問い合わせください。)

拡張方法	ブランド	型番	名称
カスケード接続	ALTUSEN	KM0832	8 コンソール対応 32 ポート搭載マトリックス KVM スイッチ
デ이지チェーン接続	ALTUSEN	KM0432	4 コンソール対応 32 ポート搭載マトリックス KVM スイッチ
デ이지チェーン接続	ALTUSEN	KM0216	2 コンソール対応 16 ポート搭載マトリックス KVM スイッチ
カスケード接続	ALTUSEN	MP0120	PS/2 対応 KVM モジュール
カスケード接続	ALTUSEN	MP0130	Sun 13W3 コンソールポート対応 KVM モジュール
カスケード接続	ALTUSEN	MP0131	USB 対応 KVM モジュール
カスケード接続	ATEN	CS88A	8 ポート搭載 PS/2 対応 KVM スイッチ
カスケード接続	ATEN	CS9138	8 ポート搭載 PS/2 対応 KVM スイッチ

KVM スイッチを複数台接続して機器構成を拡張する場合は、以下の点にご注意ください。なお、ここで言及されている距離は、デバイスの接続に使用されているすべてのケーブルの長さを累計した距離を意味します。

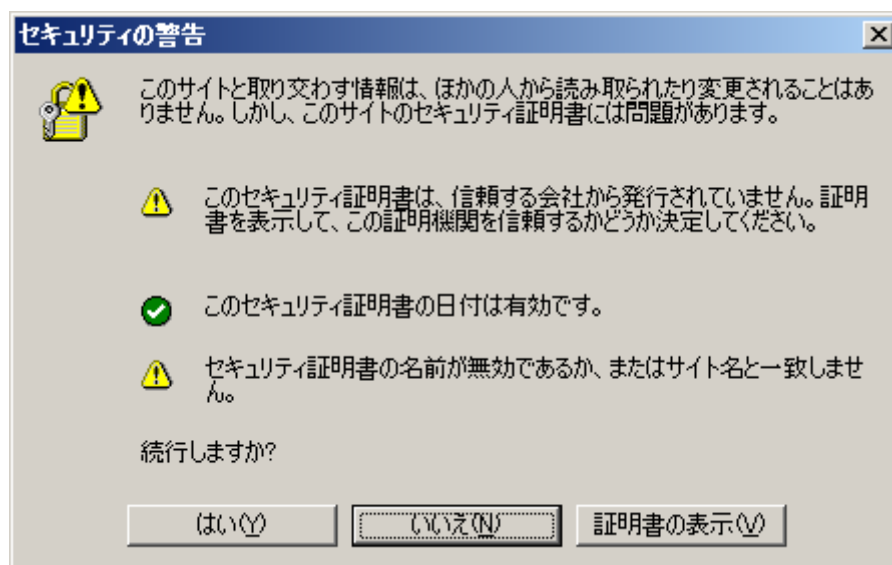
- ◆ コンソールモジュールから最下位にある KVM スイッチ(または、拡張接続されたマトリックスプラスモジュール)までの距離が 300m を超えないようにセットアップしてください。
- ◆ 隣接する 2 台の KM0832 の間の距離が 150m を超えないようにセットアップしてください。
- ◆ KVM ポートに KM0832 以外の KVM スイッチをカスケード接続すると、そのスイッチの KVM ポートには他の KVM スイッチをカスケード接続することはできません。

- ◆ デイジーチェーン接続の構成におけるKM0432またはKM0216の導入台数にかかわらず、KM0832と、デイジーチェーン接続の最後のスイッチとなるKM0432またはKM0216の間の距離が20mを超えないようにセットアップしてください。
- ◆ デイジーチェーン接続時には、隣接する2台のKVMスイッチの間の距離が10mを超えないようにセットアップしてください。
- ◆ デイジーチェーン接続されたKM0432またはKM0216に同時接続できるのコンソールユーザーは4名ないしは2名(KM0832 アドミニストレーターユーティリティユーザーは1名)です。

信頼された証明書

概要

Web ブラウザ経由で KM0832 にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



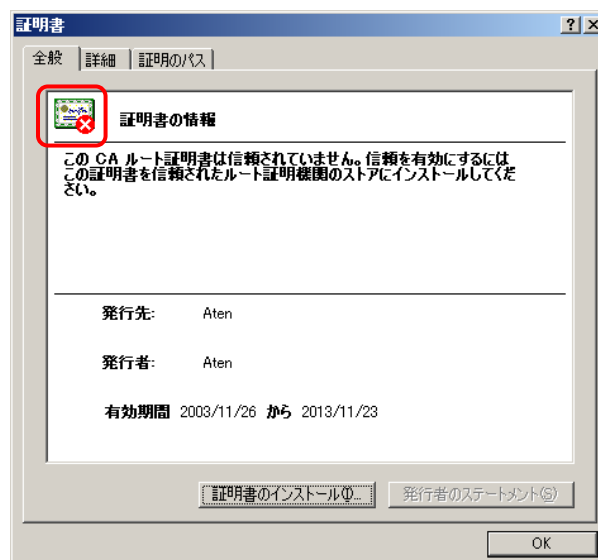
この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「Yes」ボタンを押して、処理を続行する。
 - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピュータから作業している場合は「Yes」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションのみ受け入れてください。
 - ◆ ご自身のコンピュータから作業している場合は、証明書をお使いのコンピュータにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

証明書のインストール

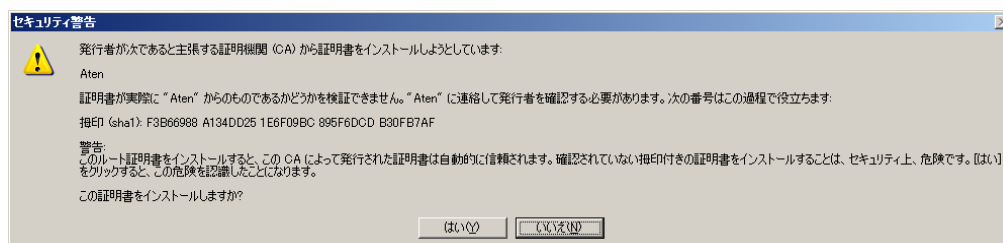
証明書のインストールは以下の手順で作業してください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「**証明書の表示**」ボタンをクリックします。これをクリックすると以下のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意: 上図内の赤い枠で囲まれている「X」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

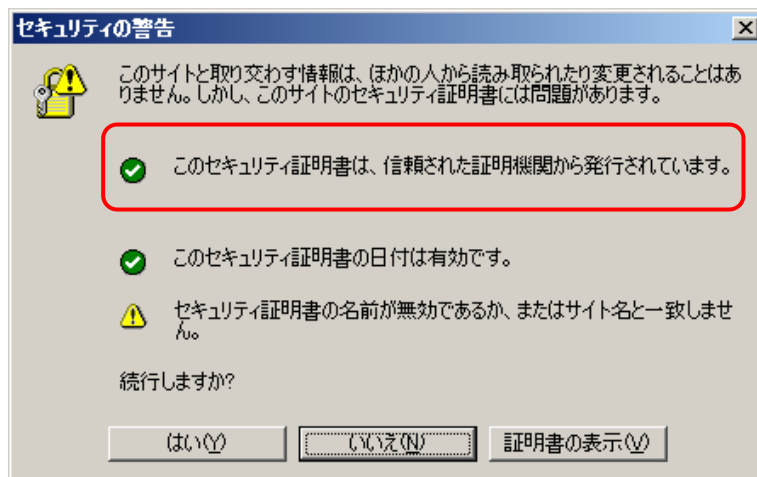
2. 「**証明書のインストール**」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールをしてください。
4. 以下のような警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



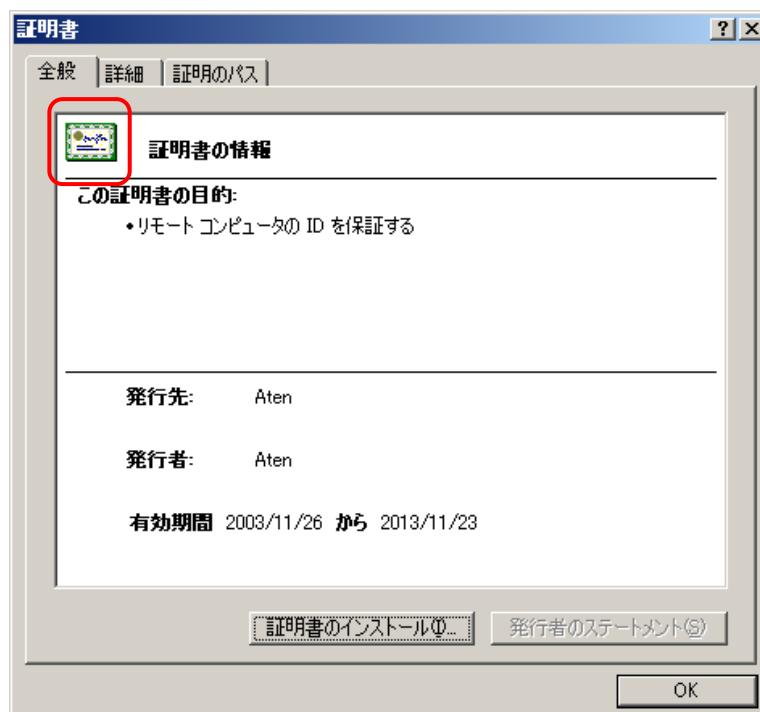
5. ダイアログから「完了」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。「OK」ボタンを押すとダイアログが閉じられます。

証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。



「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



トラブルシューティング

概要

操作上の問題は様々な理由によって引き起こされます。問題が発生したら、弊社技術サポートにご連絡いただく前に、まず、製品に必要なケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。

また、現在お使いのファームウェアのバージョンが最新でない場合、ファームウェアの最新版を適用することで問題が解決する場合があります。ファームウェアアップグレードの詳細に関しては p.104「ファームウェアのアップグレード」をご参照ください。

一般的な操作

問題	解決方法
KM0832にKA9222またはKA9272を接続して使用することができない。	左記のモジュールは KM0832 に対応しておりません。 KM0832 にコンソールモジュールを接続してお使いになる場合は、KA9222A、KA9272A、KA9233 のいずれかをお使いください。
コンソールモニタに何も表示されず、キーボードやマウスを使っても何の反応も見られない。	1. コンソールモジュール、KVM モジュール、カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを含めたすべてのケーブルが適切に接続されていることをご確認ください。 2. KVM モジュールのファームウェアアップグレードを実行してください。
KA9222A や KA9272A を使うと KM0832 にログインすることができない。	1. 入力したユーザーネームおよびパスワードが正しいことを確認してください。これらの項目が正しく入力されているにもかかわらずログインができない場合は、手順 2 にお進みください。 2. コンソールモジュールのファームウェアアップグレードを実行してください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決方法
イーサネットハブを使用してコンソールモジュールや KVM モジュールを KM0832 に接続することができない。	コンソールモジュールや KVM モジュールと KM0832 を接続する場合にはカテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを使用しますが、イーサネットプロトコルには対応しておりませんので、これらを接続する際にイーサネットハブを使用することはできません。
デフォルトのスーパーアドミニストレーターのパスワードをリセットする必要がある。	p.170「工場出荷時における初期設定一覧」をご参照ください。
ファームウェアのアップグレードを実行したものの、一部の KVM モジュールでアップグレードに失敗した。	p.112「アップグレード作業に失敗した場合」をご参照ください。
ファームウェアアップグレードを中断したら、一部のモジュールが使用できなくなった。	p.113「アップグレードに失敗した場合の回復作業」をご参照ください。
ファームウェアバージョンをアップグレードすることができない。	選択したものが正しいファームウェアアップグレードパッケージであることを確認して、もう一度アップグレードを実行してください。KM0832 アドミニストレーターユーティリティを使ってファームウェアのアップグレードを行う場合は、「FW」という拡張子がついたパッケージを使用してください。障害が発生し、システムがご利用いただけない場合は、「EXE」という拡張子がついたパッケージを使ってファームウェアを再インストールしてください。(p.104「ファームウェアのアップグレード」参照)
OSD や KM0832 アドミニストレーターユーティリティのどちらを使っても KM0832 にアクセスすることができない。	1. システムリセットを実行してください。(p.25「リセットボタン」参照) 2. ファームウェアを再インストールしてください。(p.108「ファームウェアアップグレードユーティリティを使用したアップグレード」参照)
ログインすると、ブラウザで「ルート認証局が発行した電子証明書は信頼できません」というメッセージや認証エラーが返ってくる。	Microsoftの信頼された認証局のリストに認証名が登録されていない可能性があります。この証明書は信頼できるものです。詳細についてはp.177の「信頼された証明書」をご覧ください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決方法
キーボードから入力したとおりに表示されない文字がある。	ポートのキーボードレイアウトを、お使いのキーボードレイアウトに適した値に設定してください。 キーボードレイアウトの設定を変更する場合は、以下の手順で操作してください。 1. 問題のあるポートの「Port Management」画面を開いてください。(p.85「ポートの管理」参照) 2. 「Keyboard Layout」でリストから、使用するキーボードのレイアウトを選択してください。 3. 「Save」ボタンをクリックしてください。 4. そのポートに接続されているコンピュータが Sun サーバまたは iMac の場合、または、キーボードレイアウトの変更によっても問題が解決しない場合は、コンピュータを再起動してください。再起動すると、入力した文字が正しく表示されるようになります。
Apple (または Sun) のキーボードの特殊キーを使って Mac (または Sun) のコンピュータを操作することができない。	お使いのキーボードに合うようにそのポートのキーボードの設定を変更してください。 キーボードの設定を変更する場合は、以下の手順で操作してください。 1. 問題のあるポートの「Port Management」画面を開いてください。(p.85「ポートの管理」参照) 2. 「Keyboard」でリストから、使用するキーボードを選択してください。 3. 「Save」ボタンをクリックしてください。 4. ポートに接続されているコンピュータを再起動してください。再起動すると、お使いのキーボードにある特殊キーを使ってコンピュータを操作できるようになります。

Sunシステム

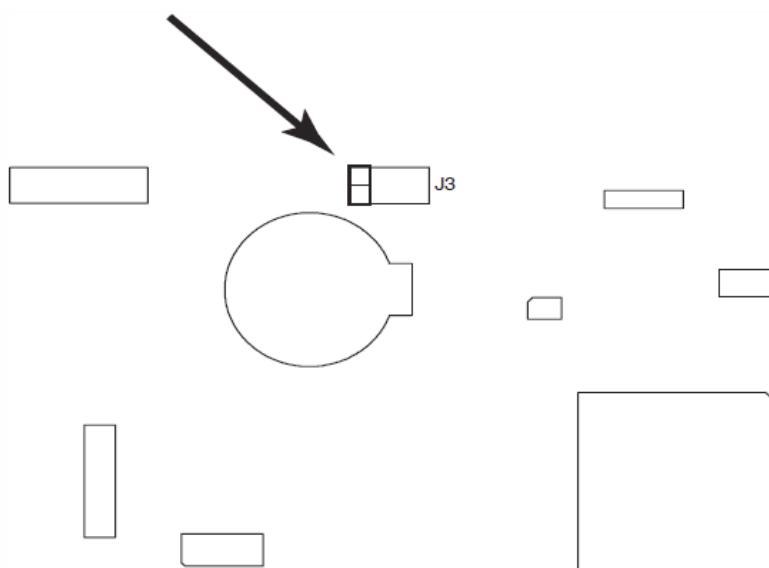
問題	解決方法
D-sub15ピンのコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。 (例:Sun Blade 1000 Server)	ディスプレイの解像度は 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 テキストモードで、 - OKモード(p.185参照)を起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow で、 - コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> - ログアウトします。 - もう一度ログインします。
13W3のコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。(例:Sun Ultra Server)*	ディスプレイの解像度は 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 テキストモードで、 - OKモード(p.185参照)を起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all</pre> XWindow で、 - コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>ffbconfig -res 1024x768x60</pre> - ログアウトします。 - もう一度ログインします。

* Sun VGA カードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。上記の手順で対応しても解決しない場合は Sun VGA カードのマニュアルを一度ご覧ください。

工場出荷時の初期設定のリストア

KM0832の工場出荷時における初期設定は後でリストアすることが可能です。このとき、初期設定のデフォルトスーパーアドミニストレーターアカウントがリストアされますので、後から登録されたスーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザーおよびグループの各アカウントはシステムから削除されます。なお、この操作によって、ステーションネーム、Web ページセッションタイムアウトの設定、ネットワークの設定、および日付と時刻の設定は削除されません。この作業にはジャンパーキャップが必要です。あらかじめご用意いただくと作業がスムーズに行えます。

1. KM0832 の電源を切って、製品本体から電源ケーブルを抜いてください。
2. 製品のカバーを取り外してください。
3. メインボード上にある「J3」ジャンパーピンのピン 1 およびピン 2 にジャンパーキャップをかぶせてください。



4. 電源ケーブルを挿して、KM0832 に電源を入れてください。電源を入れると、以下のメッセージが表示されます。

USERNAME AND PASSWORD INFORMATION AND PORT/USER INFORMATION HAS
BEEN CLEARED. PLEASE POWER OFF THE SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE
THE CASE, THEN RESTART.

5. KM0832 の電源を切って、電源ケーブルを抜いてください。

6. 「J3」ジャンパーピンのピン 1 およびピン 2 からジャンパーキャップを取り外してください。
7. KM0832 のカバーを元に戻し、電源ケーブルを挿して KM0832 に電源を入れてください。
8. KM0832 アドミニストレーターユーティリティおよび OSD にログインする場合は、デフォルトのユーザーネームおよびパスワードを使ってください。

okプロンプトの起動(Sun Solaris)

PC 互換のキーボードで Sun Solaris のコンピュータを操作し、Stop-A キーで ok プロンプトを起動する場合は、以下の操作を行ってください。

注意: ok プロンプトを起動する前に、Sun Solaris のコンピュータのマニュアルで注意事項を確認し、必要な作業がある場合は、手順に従って準備をしてください。

[Ctrl]キーを一度押して離した後、[T]キーを押しながら[A]キーを押してください。